

# マニュアルの使いかた

## 安心してお使いいただくために

- パソコンをお取り扱いいただくための注意事項  
ご使用前に必ずお読みください。

## セットアップガイド

- パソコンの準備
- Windowsのセットアップ
- Q&A集（電源が入らないとき）
- 初期状態に戻す（リカバリー）
- 廃棄／譲渡  
など

## 取扱説明書

- 各部の名前
- 電源の入れかた
- 電源の切りかた
- メモリの取り付け／取りはずし
- バッテリーパックの交換
- システム環境の変更とは  
など

## オンラインマニュアル（本書）

Windowsが起動しているときにパソコンの画面上で見るマニュアルです。

- パソコンを買い替えたとき
- パソコンの基本操作
- ネットワーク機能
- 周辺機器の接続
- バッテリー駆動で使う方法
- システム環境の変更
- パソコンの動作がおかしいとき／Q&A集  
など

## リリース情報

- 本製品を使用するうえでの注意事項など  
必ずお読みください。

**参照** ▶ 「はじめに - 7 リリース情報について」

# もくじ

マニュアルの使いかた .....	1
もくじ .....	2
はじめに .....	6

## 1章 使いはじめる前に..... 13

<b>1</b> 前のパソコンのデータを移行する - PC引越ナビ- .....	14
<b>2</b> リカバリーメディアを作る .....	19

## 2章 パソコンの基本操作を覚えよう..... 25

<b>1</b> 電源を入れるとき .....	26
<b>1</b> メッセージが表示された場合 .....	26
<b>2</b> 起動するドライブを変更する場合 .....	27
<b>3</b> ディスプレイを開くと、電源が入るようにする .....	28
<b>2</b> 使い終わったら .....	29
<b>1</b> スリープ .....	31
<b>2</b> 休止状態 .....	35
<b>3</b> 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する .....	35
<b>3</b> タッチパッド .....	37
<b>1</b> タッチパッドで操作する .....	37
<b>2</b> タッチパッドの使用環境を設定する .....	38
<b>4</b> キーボード .....	41
<b>5</b> ハードディスクドライブ .....	44
<b>6</b> CDやDVDを使う - ドライブ- .....	45
<b>1</b> 使える記録メディアを確認しよう .....	45
<b>2</b> CD/DVDを使うとき (セット) .....	46
<b>3</b> CD/DVDを使い終わったとき (取り出し) .....	49
<b>4</b> DVD-RAMをフォーマットする .....	51

<b>7</b>	<b>画面を調整するーディスプレイー</b> .....	<b>52</b>
1	画面の明るさを調整する .....	52
2	着席／離席によって画面を自動的にON／OFFする .....	52
<b>8</b>	<b>サウンド</b> .....	<b>55</b>
1	スピーカーの音量を調整する .....	55
2	TOSHIBA Audio Enhancementについて .....	57
<b>9</b>	<b>いろいろなメディアカードを使うーブリッジメディアスロットー</b> .....	<b>58</b>
1	メディアカードを使う前に .....	59
2	メディアカードのセットと取り出し .....	59
<b>10</b>	<b>Webカメラを使う</b> .....	<b>63</b>
1	Webカメラのアプリケーションについて .....	64

### **3章 ネットワークの世界へ** ..... **65**

<b>1</b>	<b>ネットワークで広がる世界</b> .....	<b>66</b>
1	LAN接続はこんなに便利 .....	66
2	有線LANで接続する .....	67
3	ワイヤレス（無線）LANを使う .....	68

### **4章 周辺機器を使って機能を広げよう** ..... **73**

<b>1</b>	<b>周辺機器を使う前に</b> .....	<b>74</b>
<b>2</b>	<b>USB対応機器を使う</b> .....	<b>75</b>
<b>3</b>	<b>テレビや外部ディスプレイを接続する</b> .....	<b>78</b>
1	パソコンに接続する／取りはずす .....	78
2	表示を切り替える .....	82
<b>4</b>	<b>マイクロホンやヘッドホンを使う</b> .....	<b>85</b>
1	マイクロホンを使う .....	85
2	ヘッドホンを使う .....	86
<b>5</b>	<b>Bluetooth機能を使う</b> .....	<b>87</b>

## 5章 バッテリー駆動で使う ..... 91

- 1** バッテリーについて ..... 92
  - 1** バッテリー充電量を確認する ..... 92
  - 2** バッテリーを充電する ..... 94
- 2** 省電力の設定をする ..... 97
  - 1** 電源オプション ..... 97
  - 2** TOSHIBA ecoユーティリティ ..... 99

## 6章 システム環境の変更 ..... 103

- 1** 東芝システムセッティング ..... 104
- 2** パスワードセキュリティ ..... 105
  - 1** ユーザーパスワード ..... 107
  - 2** スーパーバイザーパスワード ..... 114
  - 3** パスワードの入力 ..... 116
  - 4** HDDパスワード ..... 117

## 7章 パソコンの動作がおかしいときは ..... 123

- 1** トラブルを解消するまでの流れ ..... 124
  - 1** トラブルの原因をつき止めよう ..... 124
  - 2** トラブル対処法 ..... 125
- 2** Q&A集 ..... 126
  - 1** 画面／表示 ..... 127
  - 2** キーボード ..... 128
  - 3** タッチパッド／マウス ..... 129
  - 4** その他 ..... 131

- 1** ご使用にあたってのお願い ..... 134
- 2** 記録メディアについて ..... 141
  - 1** CD/DVDに書き込む前に ..... 141
  - 2** 使えるCDを確認しよう ..... 142
  - 3** 使えるDVDを確認しよう ..... 143
  - 4** 書き込み速度と使用推奨メーカー ..... 144
  - 5** メディアカードを使うにあたって ..... 146
  - 6** 記録メディアの廃棄・譲渡について ..... 147
- 3** お客様登録の手続き ..... 148
  - 1** 東芝ID (TID) お客様登録のおすすめ ..... 148
- 4** 技術基準適合について ..... 149
- 5** 無線LAN/Bluetoothについて ..... 155
- 6** 各インターフェースの仕様 ..... 165

# はじめに








本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、付属の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。

必ずお読みになり、正しくお使いください。

お読みになったあとは、いつでも見られるようにお手元に大切に保管してください。

本書は、次の決まりに従って書かれています。

## 1 記号の意味

 <b>危険</b>	“取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（*1）を負うことがあり、その切迫の度合いが高いこと”を示します。
 <b>警告</b>	“取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（*1）を負うことが想定されること”を示します。
 <b>注意</b>	“取り扱いを誤った場合、使用者が軽傷（*2）を負うことが想定されるか、または物的損害（*3）の発生が想定されること”を示します。
 <b>お願い</b>	データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
 <b>メモ</b>	知っていると便利な内容を示します。
 <b>役立つ操作集</b>	知っていると役に立つ操作を示します。
 <b>参照</b>	参照先を示します。 <ul style="list-style-type: none"><li>● 本書内への参照の場合…「 」</li><li>● ほかのマニュアルやヘルプへの参照の場合…『 』</li></ul>

\*1 重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。

\*2 軽傷とは、治療に入院・長期の通院を要さない、けが、やけど（高温・低温）、感電などをさします。

\*3 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットなどにかかわる拡大損害をさします。

## 2 用語について

本書では、次のように定義します。

### システム

特に説明がない場合は、使用しているオペレーティングシステム（OS）を示します。

### アプリケーションまたはアプリケーションソフト

アプリケーションソフトウェアを示します。

### Windows または Windows 8.1

特に説明がない場合は、Windows 8.1 Pro を示します。

### ドライブ

DVD スーパーマルチドライブを示します。

### ドライブ搭載モデル

DVD スーパーマルチドライブを搭載しているモデルを示します。

### 無線LAN機能搭載モデル

無線LAN機能を搭載しているモデルを示します。

### Bluetooth機能搭載モデル

Bluetooth機能を搭載しているモデルを示します。

### Webカメラ搭載モデル

Webカメラを搭載しているモデルを示します。




### HDMI出力端子搭載モデル

HDMI出力端子を搭載しているモデルを示します。

## 3 記載について

- 記載内容によっては、一部のモデルにのみ該当する項目があります。その場合は、「用語について」のモデル分けに準じて、「\*\*\*モデルの場合」や「\*\*\*シリーズのみ」などのように注記します。
- インターネット接続については、ブロードバンド接続を前提に説明しています。
- アプリケーションについては、本製品にプレインストールまたは本体のハードディスクや付属のCD/DVDからインストールしたバージョンを使用することを前提に説明しています。
- 本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。
- 本書では、コントロールパネルの操作方法について表示方法を「カテゴリ」に設定していることを前提に説明しています。表示方法が「大きいアイコン」または「小さいアイコン」になっている場合は、「カテゴリ」に切り替えてから操作説明を確認してください。
- 本書は、語尾をのぼすカタカナ語の表記において、語尾に長音（ー）を適用しています。画面の表示と異なる場合がありますが、読み替えてご使用ください。

## 4 Trademarks

- Microsoft、Windows及びWindowsロゴは、マイクロソフト企業グループの商標です。その他記載されている会社名および製品名は各社の商標または登録商標です。
- Windowsの正式名称は、Microsoft Windows Operating Systemです。
- Intel、インテル、インテル Core、Celeronは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標、または登録商標です。
- SDロゴは商標です。(  )
- SDHCロゴは商標です。(  )
- SDXCロゴは商標です。(  )
- HDMI、HDMI High-Definition Multimedia InterfaceおよびHDMIロゴは、HDMI Licensing LLCの登録商標または商標です。
- Fast Ethernet、Ethernetは富士ゼロックス株式会社の商標または登録商標です。
- TRENDMICRO、ウイルスバスターおよびウイルスバスタークラウドは、トレンドマイクロ株式会社の登録商標です。
- 「PC引越ナビ」は、東芝パソコンシステム株式会社の商標です。
- WiMAXは、WiMAXフォーラムの商標です。
- Bluetoothは、その商標権者が所有しており、東芝はライセンスに基づき使用しています。

本書に掲載の商品の名称やロゴは、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

## 5 プロセッサ (CPU) に関するご注意

本製品に使われているプロセッサ (CPU) の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

- 周辺機器を接続して本製品を使用する場合
- ACアダプターを接続せずバッテリー駆動にて本製品を使用する場合
- マルチメディアゲームや特殊効果を含む映像を本製品にてお楽しみの場合
- 本製品を通常の電話回線、もしくは低速度のネットワークに接続して使用する場合
- 複雑な造形に使用するソフト (たとえば、運用に高性能コンピューターが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト) を本製品上で使用する場合
- 気圧が低い高所にて本製品を使用する場合  
目安として、標高1,000メートル (3,280フィート) 以上をお考えください。
- 目安として、気温5~30℃ (高所の場合25℃) の範囲を超えるような外気温の状態では本製品を使用する場合

本製品のハードウェア構成に変更が生じる場合、CPUの処理能力が実際には仕様と異なる場合があります。

また、ある状況下においては、本製品は自動的にシャットダウンする場合があります。

これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品が使用された場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らすための通常の保護機能です。なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを外部記録機器にて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を発揮するよう、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。





本製品には64ビットプロセッサが搭載されております。64ビット版OSでご使用の場合は、32ビット版のデバイスドライバーやアプリケーションが正しく動作しない場合があります。

## 6 著作権について

音楽、映像、コンピューター・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者および著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的にまたは家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製（データ形式の変換を含む）、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守のうえ、適切な使用を心がけてください。

## 7 リリース情報について

「リリース情報」には、本製品を使用するうえでの注意事項などが記述されています。必ずお読みください。次の操作を行うと表示されます。

- ① スタート画面で、ポインターを下側に移動する
- ② 画面左下の  をクリックする
- ③ [はじめに] の [  リリース情報 ] をクリックする

## 8 お願い

- 本体のハードディスクにインストールされている、または付属のCD/DVDからインストールしたシステム（OS）、アプリケーション以外をインストールした場合の動作保証はできません。
- Windows 標準のシステムツール以外の方法で、パーティションを変更・削除・追加しないでください。ソフトウェアの領域を壊すおそれがあります。
- 本体のハードディスクにインストールされている、または付属のCD/DVDからインストールしたシステム（OS）、アプリケーションは、本製品でのみ利用できます。
- 購入時に定められた条件以外で、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。
- 本製品の画像データは、本製品上で壁紙に使用する以外の用途を禁じます。
- お使いの環境によっては、スムーズに再生できない動画があります。
- パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを解除できなくなった場合は、使用している機種（型番）を確認後、東芝PCあんしんサポートに連絡してください。有料にてパスワードを解除します。HDDパスワードを忘れてしまった場合は、ハードディスクは永久に使用できなくなり、交換対応となります。この場合も有料です。またどちらの場合も、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。
- 本製品はセキュリティ対策のためのパスワードの設定や、無線LANの暗号化設定などの機能を備えていますが、完全なセキュリティ保護を保証するものではありません。セキュリティの問題の発生や、生じた損害に関し、当社はいっさいの責任を負いません。

- 「ウイルスバスター」を使用している場合、ウイルス定義ファイルなどは、新種のウイルスやワーム、スパイウェア、クラッキングなどからコンピューターを保護するためにも、常に最新の状態で使用する必要があります。本製品に用意されている「ウイルスバスター」は、インターネットに接続していると自動的に最新の状態に更新されますが、90日間の使用制限があります。90日を経過するとウイルスチェック機能を含めて、すべての機能がご使用できなくなります。

ウイルスチェックが全く行われないう状態となりますので、必ず期限切れ前に有料の正規サービスへ登録するか、ほかのウイルスチェック／セキュリティ対策ソフトを導入してください。

- ご使用の際は必ず本書をはじめとする各種説明書と『ソフトウェアに関する注意事項』、Windowsのセットアップ時に表示されるライセンス条項およびエンドユーザー使用許諾契約書をお読みください。
- アプリケーション起動時に使用許諾書が表示された場合は、内容を確認し、同意してください。使用許諾書に同意しないと、アプリケーションを使用することはできません。一部のアプリケーションでは、一度使用許諾書に同意すると、以降起動時に使用許諾書が表示されなくなります。リカバリーを行った場合には再び使用許諾書が表示されます。
- 『東芝保証書』は、記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

本製品のお客様登録（ユーザー登録）をあらかじめ行っていただくようお願いしております。当社ホームページで登録できます。

**参照** ▶ 詳細について「付録 3 お客様登録の手続き」

## 9 【ユーザーアカウント制御】画面について

操作の途中で「ユーザーアカウント制御」画面が表示された場合は、そのメッセージを注意して読み、開始した操作の内容を確認してから、画面の指示に従って操作してください。パスワードの入力を求められた場合は、管理者アカウントのパスワードで認証を行ってください。

## 10 映像／音楽関連の機能を使用するにあたって

### □映像を扱うアプリケーションについて

映像を扱うアプリケーションの使用中に、スリープ／休止状態への移行を行わないようにしてください。

エラーメッセージが表示されたり、アプリケーションが終了したりする場合があります。その場合は、使用したいアプリケーションを再度起動してください。

## 11 H.264/AVC, VC-1 and MPEG-4 ライセンスについて

本製品は、AVC、VC-1、MPEG-4 VISUAL 規格特許ライセンスのもとで、個人的利用および非商業利用目的に限り、お客様が以下のいずれか、または両方の使用を行うことが許諾されています。(i) AVC、VC-1、MPEG-4 VISUAL 標準規格に従いビデオをエンコードすること（以下「AVCビデオ」、「VC-1ビデオ」、「MPEG-4ビデオ」という）、(ii) 個人的、非商業的行為においてお客様によりエンコードされた、または／およびAVCビデオ、VC-1ビデオ、MPEG-4ビデオを提供するためにMPEG LAからライセンスを受けたビデオ提供者から取得した、AVCビデオ、VC-1ビデオ、MPEG-4ビデオをデコードすること。ほかの使用についてはライセンスを許諾されていません。上記以外の販売、社内利用および商業的利用など利用／許諾に関する情報については、MPEG LAのHP (<http://www.mpegla.com>) より入手いただけます。

### ● H.264/AVC, VC-1 and MPEG-4 License Notice

THIS PRODUCT IS LICENSED UNDER THE AVC, THE VC-1 AND MPEG-4 VISUAL PATENT PORTFOLIO LICENSE FOR THE PERSONAL AND NON-COMMERCIAL USE OF A CONSUMER FOR (i)ENCODING VIDEO IN COMPLIANCE WITH THE ABOVE STANDARDS ("VIDEO") AND/OR (ii)DECODING AVC, VC-1AND MPEG-4 VIDEO THAT WAS ENCODED BY A CONSUMER ENGAGED IN A PERSONAL AND NON-COMMERCIAL ACTIVITY AND/OR WAS OBTAINED FROM A VIDEO PROVIDER LICENSED BY MPEG LA TO PROVIDE SUCH VIDEO. NO LICENSE IS GRANTED OR SHALL BE IMPLIED FOR ANY OTHER USE. ADDITIONAL INFORMATION INCLUDING THAT RELATING TO PROMOTIONAL, INTERNAL AND COMMERCIAL USES AND LICENSING MAY BE OBTAINED FROM MPEG LA,L.L.C. SEE <http://www.mpegla.com>



# 1 章

## ■ 使いはじめる前に

前のパソコンで使っていたデータを移行する便利なソフト「PC引越ナビ」について説明します。

- 1 前のパソコンのデータを移行する  
- PC引越ナビ ..... 14
- 2 リカバリーメディアを作る ..... 19

パソコンを買い替えたときは、それまでに使用していたパソコンと同じ環境にするために、設定やデータの移行といった準備が必要です。

「PC引越ナビ」は、データや設定を一つにまとめ、新しいパソコンへの移行の手間を簡略化することができるアプリケーションです。

ここでは、移行したい設定やデータが保存されているパソコンを「前のパソコン」、設定やデータを移行したいパソコンを「新しいパソコン」として説明します。

## 環境を確認する

### ■前のパソコンの動作環境を確認する

「PC引越ナビ」は、次のシステムに対応しています。

- Windows XP
- Windows Vista
- Windows 7
- Windows 8
- Windows 8.1

\* マイクロソフト社が提供している最新の Service Pack を適用してください。また、「Internet Explorer」のバージョンが「6 SP1」以上であることを確認してください。それ以下のバージョンの場合は、「6 SP1」を適用してください。

システムの正式名称は次のとおりです。

Windows XP ..... Windows XP operating system 日本語版の全エディション

Windows Vista ..... Windows Vista の全エディション

Windows 7 ..... Windows 7 の全エディション

Windows 8 ..... Windows 8 の全エディション

Windows 8.1 ..... Windows 8.1 の全エディション

### お願い 前のパソコンの動作環境について

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

**参照** 「付録 1 - 1 「PC引越ナビ」について」

### ■移行の方法を確認する

設定・データの移行をするには、次の方法があります。

- USB フラッシュメモリを使用する
- USB フラッシュメモリとネットワーク（有線 LAN）を使用する
- USB フラッシュメモリとクロスケーブル（有線 LAN）を使用する\*<sup>1</sup>
- USB フラッシュメモリと DVD、または USB フラッシュメモリとブルーレイディスクを使用する\*<sup>2</sup>

\*<sup>1</sup> 「前のパソコン」と「新しいパソコン」が東芝製の Gigabit Ethernet（1000BASE-T）搭載モデルの場合、クロスケーブルの代わりに LAN ケーブルも使用できます。

LAN ケーブルは、エンハンストカテゴリ 5（CAT5e）以上のケーブルを使用してください。

\*<sup>2</sup> 使用できる記録メディアは、モデルによって異なります。

ドライブを搭載していないモデルの場合、外付けの書き込み可能な DVD／ブルーレイディスクドライブ（市販品）を接続すると、DVD／ブルーレイディスクを使用できます。

ただし、すべての外付け DVD／ブルーレイディスクドライブでの動作を保証するものではありません。

前のパソコンと、新しいパソコンの仕様を確認し、共通して使用できる方法のなかから、移行する設定・データの容量に適した方法を選んでください。

前のパソコンでどの方法が使用できるかを確認し、USBフラッシュメモリやネットワーク用のケーブル、DVDなどが必要な場合は購入してください。また、フォーマットが必要なUSBフラッシュメモリは、あらかじめフォーマットしてください。

- USBフラッシュメモリのみで移行する場合は、512MB以上の容量が必要です。  
移行するファイルや設定内容に比べて、USBフラッシュメモリの容量が小さいと、数回に分けてデータをコピーすることになりますので、大容量のUSBフラッシュメモリを移行用に使用することをおすすめします。
- USBフラッシュメモリの代わりに、メディアカードを使用することもできます。  
本製品で利用できるメディアカードについては、「2章 **9** いろいろなメディアカードを使う」で確認してください。

## 移行できる設定とデータ

「PC引越ナビ」を起動したときの、ユーザーの設定とデータを移行できます。

- Internet Explorer の設定\*<sup>1</sup>
- Windows Live メール (Windows メールまたはWindows 8およびWindows 8.1のメール機能、Outlook Express) の設定\*<sup>2\*4</sup>
- Microsoft Outlook の設定\*<sup>3\*4</sup>
- [ドキュメント] (または [マイドキュメント]) フォルダーに保存されているファイル
- デスクトップ上のファイル
- 任意のフォルダーに含まれるファイル

\* 1 Microsoft Internet Explorer 6 SP1 以上

\* 2 移行できるデータは、「Microsoft Outlook Express (バージョンが6.0 SP1 以上)」、「Windows メール」、「Windows Live メール」のデータです。

\* 3 移行できるデータは、「Microsoft Outlook 2000」以降のデータです。

本製品には、Office搭載モデルにのみ、「Microsoft Outlook」が付属およびインストールされています。前のパソコンに保存されている「Microsoft Outlook」のデータをOfficeが搭載されていないモデルに移行したいときは、「PC引越ナビ」をご使用前に、市販の「Microsoft Outlook」を新しいパソコンにインストールする必要があります。

移行するためには、「Microsoft Outlook 2003」以降の「Microsoft Outlook」をインストールしてください。

\* 4 新しいパソコンにメールソフトがインストールされていない場合でも、「PC引越ナビ」はパソコンにデータを保存します。

「Windows Live メール」および「Microsoft Outlook」は起動したときに、保存したデータのインポート(取り込み)を行います。

メールソフトによっては、違うソフトのデータを変換して取り込むことができます。

詳しくは、メールソフトのヘルプを確認してください。



メモ



- 移行できる設定やデータの詳細は、「PC引越ナビ」のヘルプで確認してください。

## 1 インストール方法




「PC引越ナビ」は、購入時の状態ではインストールされていません。  
次の手順でインストールしてください。

### 1章

使いはじめる前に

- 1 スタート画面で、ポインターを下側に移動する
- 2 画面左下の  をクリックする
- 3 [ アプリケーションの再インストール] をクリックする
- 4 [セットアップ画面へ] をクリックする
- 5 [アプリケーション] タブをクリックする
- 6 画面左側の [PC引越ナビ] をクリックし、[[PC引越ナビ]のセットアップ] をクリックする
- 7 画面の指示に従ってインストールする  
「XXXX（ファイル名）を実行または保存しますか？」または「このファイルを実行または保存しますか？」というメッセージが表示された場合は、[実行] ボタンをクリックしてください。

## 2 起動方法

- 1 スタート画面で、ポインターを下側に移動する
- 2 画面左下の  をクリックする
- 3 [ PC引越ナビ] をクリックする  
「PC引越ナビ」が起動します。
- 4 画面下の  ボタンをクリックし、注意制限事項を確認する  
「PC引越ナビ」のヘルプが表示されます。  
「PC引越ナビ」の注意制限事項をお読みください。  
目次で [注意制限事項とメッセージ] をクリックし、画面右側に表示される各項目をよくお読みください。
- 5 [同意する] をチェックし、[次へ] ボタンをクリックする  
使用許諾契約に同意しないと、「PC引越ナビ」を使用することはできません。  
注意事項が表示されます。内容を確認し、[次へ] ボタンをクリックしてください。  
引き続き、説明画面が表示されますので、内容を確認しながら、操作してください。



## 3 操作の流れ

設定とデータの移行は、画面の指示に従って行います。移行する設定・データや使用する移行方法などで操作の詳細は異なりますが、大まかな流れは次のとおりです。

新しいパソコンと前のパソコンとで交互に作業を行いますので、近くに設置して行うとよいでしょう。

## 移行方法を決める

いくつかある移行方法のなかから、前のパソコンと新しいパソコンの仕様や、移行するデータの容量を元に移行方法を選択します。

新しいパソコン



USBメモリ



ネットワーク (有線LAN)  
クロスケーブル (有線LAN)\*1  
DVDまたはブルーレイディスク

## 「こん包プログラム」をコピーする

「こん包プログラム」は複数のファイルを1つにまとめるプログラムです。  
USBフラッシュメモリにコピーしてください。

新しいパソコン

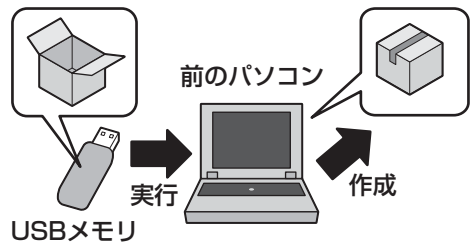


コピー

USBメモリ

## 「こん包プログラム」を実行する

コピーした「こん包プログラム」を前のパソコンで実行し、移行する複数のデータを1つのファイル(「こん包ファイル」)にまとめます。



USBメモリ

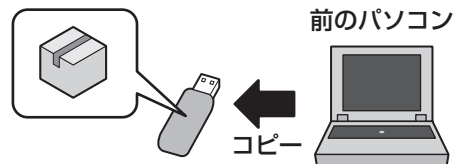
実行

前のパソコン

作成

## 「こん包ファイル」をコピーする

作成した「こん包ファイル」をコピーします。  
移行するデータの容量によっては、「こん包ファイル」は複数作成されます。すべての「こん包ファイル」をコピーしてください。



USBメモリ

コピー

前のパソコン

ネットワーク (有線LAN)  
クロスケーブル (有線LAN)\*1  
DVDまたはブルーレイディスク

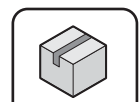
\* 1 「前のパソコン」と「新しいパソコン」が東芝製のGigabit Ethernet (1000BASE-T) 搭載モデルの場合、クロスケーブルの代わりにLANケーブルも使用できます。  
LANケーブルは、エンハンストカテゴリ5 (CAT5e) 以上のケーブルを使用してください。



**「こん包ファイル」を開こなす**

コピーした「こん包ファイル」を新しいパソコンで開き、コピーします。

新しいパソコン



実行

USBメモリ

1章

使いはじめる前に

パソコンにトラブルが発生したときに、パソコンを購入時の状態（初期状態）に戻すことを「リカバリー」といいます。

本製品には、システムやアプリケーションを購入時の状態に復元するためのリカバリーツールが搭載されています。

リカバリーDVD-ROMが付属していないモデルの場合、「TOSHIBA Recovery Media Creator」を使って、あらかじめ、リカバリーツールのバックアップをとっておくこと（リカバリーメディアの作成）をおすすめします。

作成したリカバリーメディアは大切に保管してください。

何らかのトラブルでハードディスクからリカバリーできない場合でも、リカバリーメディアからリカバリーをすることができるようになります。

リカバリーメディアがない状態で、ハードディスクからリカバリーが行えない場合は、修理が必要になる可能性があります。東芝PCあんしんサポートに相談してください。

### ■リカバリーを行うと

リカバリーをすると、ハードディスク内に保存されているデータ（文書ファイル、画像・映像ファイル、メールやアプリケーションなど）はすべて消去され、設定した内容（インターネットやメールの設定、Windowsパスワードなど）も購入時の状態に戻る、つまり何も設定していない状態になります。

詳しくは、『セットアップガイド』を参照してください。

また、データのバックアップについては、普段から定期的に行っておくことをおすすめします。

### リカバリーメディアを作成できる記録メディア

「TOSHIBA Recovery Media Creator」では、次の記録メディアのいずれかを使用できます。何もデータが書き込まれていないものを用意してください。

- USB フラッシュメモリ
- 記録用のDVDメディア\*<sup>1</sup> (DVD-R、DVD-R DL、DVD-RW、DVD+R、DVD+R DL、DVD+RW)

\* 1 使用できる記録メディアは、モデルによって異なります。

ドライブを搭載していないモデルの場合、外付けの書き込み可能なDVD／ブルーレイディスクドライブ（市販品）を接続すると、DVDを使用できます。

ただし、すべての外付けDVD／ブルーレイディスクドライブでの動作を保証するものではありません。

必要な記録メディアの枚数や容量は「TOSHIBA Recovery Media Creator」画面に表示されます。

DVDの場合は、必要な枚数が表示されます。複数枚使用する場合は、同じ規格の記録メディアで統一してください。

USBフラッシュメモリの場合は、リカバリーメディアの作成に最低限必要な容量が表示されます。表示される容量より大きい容量のUSBフラッシュメモリを用意してください。

#### お願い DVDについて／DVDの使用推奨メーカー

\* 使用できるDVD記録メディアについては、「付録 **2** - **3** 使えるDVDを確認しよう」を確認してください。

外付けのDVD／ブルーレイディスクドライブ（市販品）を使用して作成する場合は、『DVD／ブルーレイディスクドライブに付属の説明書』を確認してください。

- 推奨するメーカーのDVDを使用してください。規格に準拠したDVDを使用してください。
- 外付けのDVD／ブルーレイディスクドライブ（市販品）で使用できるDVDについては、『DVD／ブルーレイディスクドライブに付属の説明書』を確認してください。

**お願い** リカバリーメディアの作成にあたって

- 「TOSHIBA Recovery Media Creator」ではDVD-RAMおよびブルーレイディスクを使用できません。
- 「TOSHIBA Recovery Media Creator」を使ってリカバリーメディアを作成するときは、ほかのアプリケーションソフトをすべて終了させてから、行ってください。

DVDまたはUSBフラッシュメモリに書き込みを行うときは、次の注意をよく読んでから使用してください。

守らずに使用すると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、ドライブへの振動や衝撃などの本体異常や、メディアの状態などによっては処理が正常に行えず、書き込みに失敗することがあります。

- 書き込みに失敗したメディアの損害については、当社はいっさいその責任を負いません。また、記憶内容の変化・消失など、メディアに保存した内容の損害および内容の損失・消失により生じる経済的損害といった派生的損害については、当社はいっさいその責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- DVDに書き込むときには、それぞれの書き込み速度に対応し、それぞれの規格に準拠した記録メディアを使用してください。また、推奨するメーカーの記録メディアを使用してください。

**参照** DVDについて「付録 2 - 3」使えるDVDを確認しよう、

『DVD／ブルーレイディスクドライブに付属の説明書』

- バッテリー駆動で使用中に書き込みを行うと、バッテリーの消耗などによって書き込みに失敗するおそれがあります。必ず電源コードとACアダプターを接続してパソコン本体を電源コンセントに接続して使用してください。
- 書き込みを行うときは、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。電源OFF／スリープ／休止状態／再起動を実行しないでください。

**参照** 省電力機能について「5章 2」省電力の設定をする」

- 次に示すような、ライティングソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。
  - ・スクリーンセーバー
  - ・ウイルスチェックソフト
  - ・ディスクのアクセスを高速化する常駐型ユーティリティ
  - ・音楽や映像の再生アプリケーション
  - ・LANなどの通信アプリケーション など

ソフトウェアによっては、動作の不安定やデータの破損の原因となります。

- タッチパッドを操作する、ウィンドウを開く、ユーザーを切り替える、画面の解像度や色数の変更など、パソコン本体の操作を行わないでください。
- パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
- 書き込み中は、周辺機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。

**参照** 周辺機器について「4章 周辺機器を使って機能を広げよう」

- パソコン本体から携帯電話、およびほかの無線通信装置を離してください。

リカバリーメディアを作成するには、以降の説明を参照してください。

### 1 インストール方法

「TOSHIBA Recovery Media Creator」は、購入時の状態ではインストールされていません。次の手順でインストールしてください。

#### 1 章

使いはじめる前に

**1** スタート画面で、ポインターを下側に移動する

**2** 画面左下の  をクリックする

**3** [ アプリケーションの再インストール] をクリックする

**4** [セットアップ画面へ] をクリックする

**5** [ユーティリティ] タブをクリックする

**6** 画面左側の [TOSHIBA Recovery Media Creator] をクリックし、  
[「TOSHIBA Recovery Media Creator」のセットアップ] をクリックする

**7** 画面の指示に従ってインストールする

「XXXX（ファイル名）を実行または保存しますか？」または「このファイルを実行または保存しますか？」というメッセージが表示された場合は、[実行] ボタンをクリックしてください。

## 2 リカバリーメディアを作成する

外付けのDVD／ブルーレイディスクドライブ（市販品）でDVDのリカバリーメディアを作成する場合は、あらかじめDVD／ブルーレイディスクドライブをパソコン本体に接続しておいてください。

**参照**▶ 接続方法『DVD／ブルーレイディスクドライブに付属の説明書』

**1** スタート画面で、ポインターを下側に移動する

**2** 画面左下の  をクリックする

**3** [TOSHIBA] の  [リカバリーメディア作成ツール] をクリックする  
「TOSHIBA Recovery Media Creator」が起動します。


**4** [タイトル]、[メディア] を選択する

[情報] に、必要なDVDの枚数やUSBフラッシュメモリの容量が表示されるので、用意してください。



#### タイトル

チェックボックスにチェックがついている () リカバリーメディアを作成します。

 をクリックすると作成するリカバリーメディアの一覧が表示されます。

作成する必要のないリカバリーメディアは、チェックをはずしてください。

#### メディア

作成する記録メディアの種類を選択します。

DVDの場合、画面に表示される枚数分が必要になります。

USBフラッシュメモリの場合、画面に表示される容量が必要になります。

### 5 [作成] ボタンをクリックする

作成するリカバリーメディアの確認と記録メディアのセットを求める画面が表示されます。

### 6 DVDまたはUSBフラッシュメモリをセットする

**参照**▶ DVDのセット「2章 **6** - **2** CD/DVDを使うとき (セット)」、  
『DVD/ブルーレイディスクドライブに付属の説明書』

**参照**▶ USBフラッシュメモリ「4章 **2** USB対応機器を使う」

### 7 以降は、画面の指示に従って操作する

作成が開始されると、画面に、作成しているリカバリーメディアの進捗状況が表示されます。

作成を途中で中止する場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。

DVDの場合、作成が終了すると、記録メディアが自動的に出てきます。

作成するメディアが複数枚ある場合は、メッセージに従って記録メディアを入れ替えてください。

作成したリカバリーメディアには、次のことがわかるように目印をつけてください。

- 「リカバリーメディア」であること
- 複数枚ある場合は、番号

たとえばDVDの場合、「リカバリーメディアXX (番号)」というように、レーベル面に油性のフェルトペンなどで記載してください。リカバリーをするとき、この番号の順にリカバリーメディアを使用しないと、正しくリカバリーされません。必ずリカバリーメディア番号がわかるようにして保管してください。

リカバリーメディアからリカバリーをする操作手順については、『セットアップガイド』を参照してください。

「TOSHIBA Recovery Media Creator」の詳細は、ヘルプを参照してください。

## ヘルプの起動方法

### 1 「TOSHIBA Recovery Media Creator」を起動後、[ヘルプ] をクリックする

**参照**▶ 「TOSHIBA Recovery Media Creator」のお問い合わせ先  
『取扱説明書 付録 **2** お問い合わせ先』



# 2章

## パソコンの基本操作を覚えよう

このパソコン本体の各部について、基本の使いかたなどを説明しています。

1	電源を入れるとき	26
2	使い終わったら	29
3	タッチパッド	37
4	キーボード	41
5	ハードディスクドライブ	44
6	CDやDVDを使う -ドライブ-	45
7	画面を調整する -ディスプレイ-	52
8	サウンド	55
9	いろいろなメディアカードを使う -ブリッジメディアスロット-	58
10	Webカメラを使う	63

# 1

## 電源を入れるとき

### 1 メッセージが表示された場合

電源を入れたときにメッセージが表示された場合は、次の内容を確認してください。

#### ■ パスワードを設定している場合

##### ● ユーザーパスワードを設定している場合

電源を入れると次のメッセージが表示されます。

パスワードを入力してください

設定したユーザーパスワードを入力し、**ENTER** キーを押してください。

**参照** ▶ パスワードについて「6章 **2** パスワードセキュリティ」

##### ● HDDパスワードを設定している場合

電源を入れると次のメッセージが表示されます。

HDD/SSDのパスワードを入力してください

設定したHDDパスワードを入力し、**ENTER** キーを押してください。

#### メモ

- パスワードの入力ミスが3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。パスワードを入力せずに約1分経過した場合も、自動的に電源が切れます。その場合は、電源を入れ直してください。
- ユーザーパスワードとHDDパスワードの両方を設定してある場合は、ユーザーパスワード→HDDパスワードの順に認証が求められます。ただし、ユーザーパスワードとHDDパスワードが同一の文字列の場合は、ユーザーパスワードの認証終了後、HDDパスワードの認証は省略されます。

**参照** ▶ パスワードについて「6章 **2** パスワードセキュリティ」

#### ■ メッセージが表示される場合

不明なメッセージについては、『セットアップガイド』の「Q&A集」をご覧ください。

## 2章

### パソコンの基本操作を覚えよう

## 2 起動するドライブを変更する場合

ご購入時の設定では、本体のハードディスクからシステムを起動します。起動するドライブを変更したい場合、次の方法で変更できます。

### 1 一時的に変更する

\* この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。  
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

電源を入れたときに表示されるメニューから、起動するドライブを選択できます。

**1** データを保存し、**SHIFT** キーを押しながら **[シャットダウン]** をクリックして電源を切る

**参照** 電源の切りかた『取扱説明書』

**2** 電源スイッチを押し、すぐに **F12** キーを数回押す

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して **ENTER** キーを押してください。

**3** 起動したいドライブを **↑** または **↓** キーで選択し、**ENTER** キーを押す  
一時的にそのドライブが起動最優先ドライブとなり、起動します。

#### お願い

- <HDDリカバリー>は選択しないでください。HDDリカバリーを実行すると、ハードディスク内に保存されているデータはすべて消去されます。  
間違えて選択してしまった場合、メッセージが表示されますので [いいえ] を選択してください。  
電源が切れるので、手順 **2** からやり直してください。  
HDDリカバリー（ハードディスクからパソコンを初期状態に戻す）については、『セットアップガイド』を確認してください。



## 2 あらかじめ設定しておく

「東芝システムセッティング」の [起動オプション] で起動ドライブの優先順位を変更できます。

**参照** 設定の変更「6章 **1** 東芝システムセッティング」

## 3 ディ스플레이を開くと、電源が入るようにする

パネルオープンパワーオン機能を有効に設定した場合、ディスプレイを開くと、自動的にパソコンの電源が入るようになります。

- 1 スタート画面で、ポインターを下側に移動する
- 2 画面左下の  をクリックする
- 3 [TOSHIBA] の [ システムセッティング] をクリックする  
「東芝システムセッティング」が起動します。
- 4 [起動オプション] をクリックする
- 5 [パネルオープン パワーオン] の下に表示されているボタンを右側へドラッグする
- 6 [OK] ボタンをクリックする

## 2 使い終わったら

パソコンを使い終わったときは、電源を完全に切る「シャットダウン」を行ってください。

**参照**▶ 電源の切りかた『取扱説明書』

パソコンの使用を一時的に中断したいときは、スリープまたは休止状態にすると、パソコンの使用を中断したときの状態が保存されます。

再び処理を行う（電源スイッチを押す、ディスプレイを開くなど）と、パソコンの使用を中断したときの状態が再現されます。

### 警告

#### ● 電子機器の使用が制限されている場所ではパソコンの電源を切る

パソコン本体を航空機や電子機器の使用が制限されている場所（病院など）に持ち込む場合は、無線通信機能を無効に設定したうえで、パソコンの電源を切ってください。ほかの機器に影響を与えることがあります。

- ・ 無線通信機能は、**[FN]** + **[F12]** キーを押してOFFにすることができます。**[FN]** + **[F12]** キーを押して「機内モード オン」に設定し、ワイヤレスコミュニケーションLEDが消灯しているのを確認してください。
- ・ スリープや休止状態では、パソコンが自動的に復帰することがあるため、飛行を妨げたり、ほかのシステムに影響を及ぼしたりすることがあります。
- ・ 電源を切った状態でも、パソコンが自動的に起動するような設定のソフトウェアの場合は、あらかじめ設定を無効（解除）にしてください。
- ・ ディスプレイを開くことで自動的に電源が入るパネルオープンパワーオン機能を設定している場合は、あらかじめ設定を無効（解除）にしてください。

### お願い 電源を切る前に

- 必要なデータは必ず保存してください。保存されていないデータは消失します。
- 起動中のアプリケーションは終了してください。
- ハードディスクドライブやメディアへのアクセス中、ディスクトレイLED（ドライブ搭載モデルのみ）の点灯中は、電源を切らないでください。データが消失するおそれがあります。

### お願い 操作にあたって

#### 中断する前に

- スリープまたは休止状態を実行する前にデータを保存することを推奨します。
- スリープまたは休止状態を実行するときは、記録メディアへの書き込みが完全に終了していることを確認してください。  
書き込み途中のデータがある状態でスリープまたは休止状態を実行すると、データの書き込みが正しく行われません。
- スリープまたは休止状態を実行するときは、SDメモ리카ードやUSB接続型の外付けハードディスクドライブなどとのデータの読み出し、保存（書き込み）が完全に終了していることを確認してください。  
データのアクセス途中でスリープを実行すると、データの読み出し、保存が正しく行われません。

#### 中断したときは

- スリープ中や休止状態では、バッテリーやメモリの取り付け／取りはずしは行わないでください。
  - ・ 保存されていないデータは消失します。
  - ・ 感電、故障のおそれがあります。
  - ・ 次回電源を入れたときに、システムが起動しないことがあります。また、スリープ中にバッテリー残量が減少した場合も同様に、次回起動時にシステムが起動しないことがあります。  
システムが起動しない場合は、電源スイッチを5秒間押しっぱなし電源を切ったあとで、再度電源を入れてください。この場合、スリープ前の状態は保持できていません（Windowsエラー回復処理で起動します）。
- スリープまたは休止状態を利用しないときは、データを保存し、アプリケーションをすべて終了させてから、電源を切ってください。保存されていないデータは消失します。

#### ハイブリッドスリープのときは

- ハイブリッドスリープを有効にしているとき、スリープを実行するとすぐに画面は真っ暗になりますが、しばらくの間はハードディスクドライブへのデータ保存が行われています。ハードディスクドライブへのアクセス中は、パソコン本体を動かさないでください。

# 1 スリープ

パソコンの使用を中断する場合は、パソコンを「スリープ」にしましょう。次に電源スイッチを押したときに、すばやく中断したときの状態を再現することができます。

スリープ中はバッテリーを消耗しますので、電源コードとACアダプターを取り付けて使用することを推奨します。作業を中断している間にバッテリーの残量が少なくなったときは、通常のスリープでは保存されていないデータは消失します。

**参照** ▶ ハイブリッドスリープ「本項 **2** スリープ機能を強化する」

なお数日以上使用しないときや、付属の説明書で電源を切る手順が記載されている場合（メモリの取り付け／取りはずしや、バッテリーパックの取り付け／取りはずしなど）は、スリープではなく、必ず電源を切ってください。

## 1 スリープの実行方法

### 1 ポインターを画面の上または下の右隅に合わせる

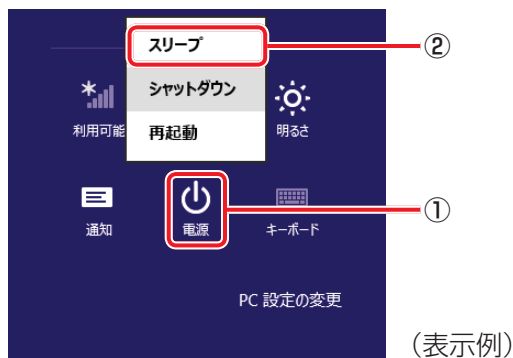
チャームが表示されます。

**参照** ▶ チャームの操作方法『セットアップガイド』

### 2 [設定] をクリックする

画面右側に [設定] 画面が表示されます。

### 3 [電源] をクリックし①、表示されたメニューから [スリープ] をクリックする②



(表示例)

スリープ状態から復帰させるときは、電源スイッチを押してください。

## 2 スリープ機能を強化する

通常のスリープのほかに「ハイブリッドスリープ」という機能が用意されています。パソコンの使用を中断したとき、それまでの作業をメモリに保存するスリープに対して、ハイブリッドスリープはメモリとハードディスクの両方に保存します。





購入時の状態ではハイブリッドスリープは有効に設定されておらず、作業を中断している間にバッテリーの残量が少なくなった場合などは、通常のスリープでは保存されていないデータは消失します。

ハイブリッドスリープを有効にしておくことで、ハードディスクから作業内容を復元できます。ハイブリッドスリープを有効にしている状態でスリープを実行すると、ハイブリッドスリープとして機能します。この場合は、スリープを実行してからスリープ状態になるまでの時間が長くなります。

またスリープを実行してから一定時間が経過すると、自動的に休止状態に移行するようにも設定できます。

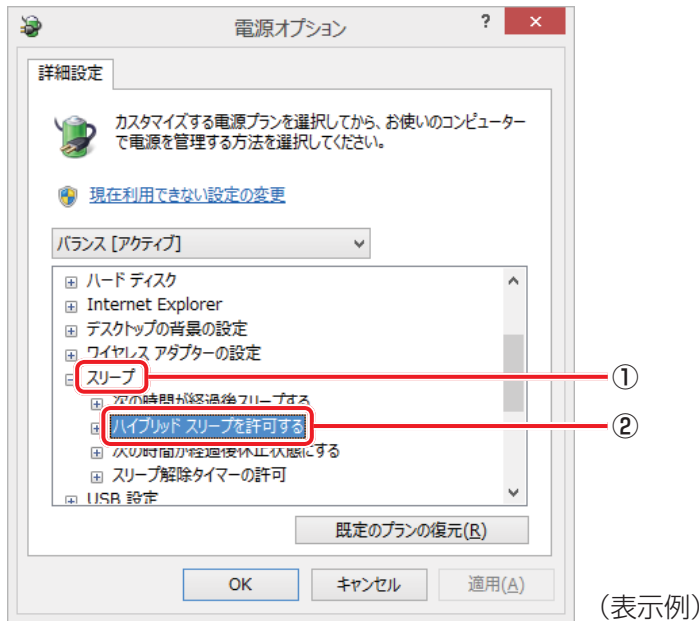
**参照**▶ 休止状態に移行する設定について「本項の「役立つ操作集」」

ハイブリッドスリープを有効にするには、次の手順で設定してください。

- 1 スタート画面で、ポインターを下側に移動する
- 2 画面左下の  をクリックする
- 3 [Windows システムツール] の [  コントロールパネル ] をクリックする
- 4 [  ハードウェアとサウンド ] → [  電源オプション ] をクリックし、選択している電源プランの [プラン設定の変更] をクリックする  
[プラン設定の変更] は、各電源プランの右端に表示されています。選択している電源プランの [プラン設定の変更] をクリックしてください。  
ハイブリッドスリープの設定は、電源プランごとに必要です。  
[プラン設定の編集] 画面が表示されます。
- 5 [詳細な電源設定の変更] をクリックする  
[詳細設定] 画面が表示されます。



- 6** [スリープ] をダブルクリックし①、表示される項目から [ハイブリッドスリープを許可する] をダブルクリックする②



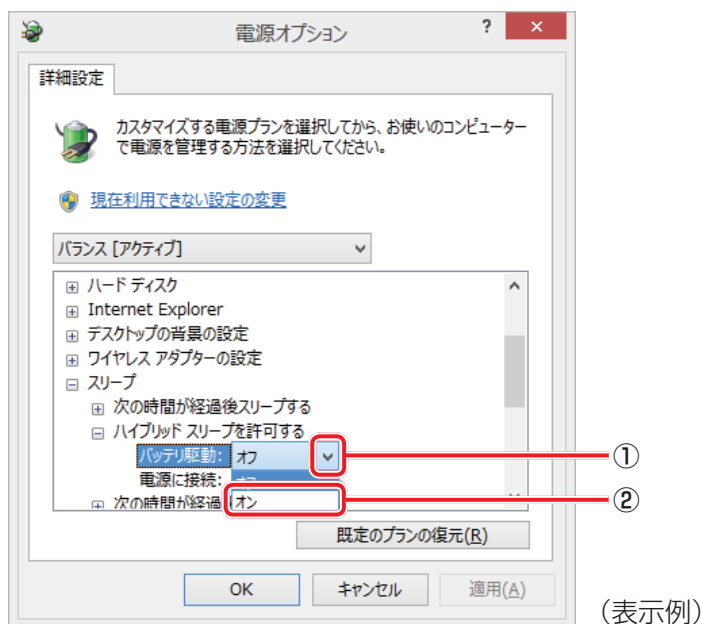
- 7** ハイブリッドスリープをONにしたい項目 ([バッテリー駆動] / [電源に接続]) をクリックする

それぞれの項目は、次のようになります。

[バッテリー駆動] : バッテリー駆動時の、ハイブリッドスリープ機能のON/OFFを設定できます。

[電源に接続] : 電源に接続しているときの、ハイブリッドスリープ機能のON/OFFを設定できます。

- 8** 項目の横に表示された▼をクリックし①、表示されたメニューから【オン】をクリックする②



- 9** 【OK】 ボタンをクリックする

これでハイブリッドスリープを有効にする設定は完了です。

この状態でスリープを実行すると、ハイブリッドスリープとして機能します。

### 役立つ操作集

一定時間の経過後、休止状態にする

スリープを実行してから一定時間が経過すると、自動的に休止状態に移行するよう設定できます。

[詳細設定] 画面で [次の時間が経過後休止状態にする] をダブルクリックし、表示された項目を選択して▲▼で時間を設定してください。

スリープを実行してから設定した時間が経過すると、自動的に休止状態に移行します。

**参照**▶ 休止状態「本節 2 休止状態」

## 2 休止状態

パソコンの使用を中断する場合、設定によって、自動的に休止状態にできます。

**参照**▶ 休止状態にするための設定「本節 **3** 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する」





休止状態になると、パソコンの使用を中断したときの状態がハードディスクに保存されます。なお数日以上使用しないときや、付属の説明書で電源を切る手順が記載されている場合（メモリやバッテリーパックの取り付け／取りはずしなど）は、休止状態ではなく、必ず電源を切ってください。

休止状態から復帰させるときは、電源スイッチを押してください。電源スイッチを押すと、中断時の状態が再現されます。





## 3 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する

チャームから操作しないで、パソコン本体の電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じたときに、電源を切る（電源OFF）、またはスリープ／休止状態にすることができます。

### 1 パソコン本体の電源スイッチを押したときの動作の設定

- 1 スタート画面で、ポインターを下側に移動する
- 2 画面左下の  をクリックする
- 3 [Windows システムツール] の [  コントロールパネル ] をクリックする
- 4 [  ハードウェアとサウンド ] をクリックする
- 5 [  電源ボタンの動作の変更 ] をクリックする
- 6 [電源ボタンを押したときの動作] で [スリープ状態] [休止状態] [シャットダウン] のいずれかを選択する  
[何もしない] に設定すると、特に変化はありません。  
[バッテリー駆動] 時と「電源に接続」時のそれぞれについて設定してください。
- 7 [変更の保存] ボタンをクリックする  
パソコン本体の電源スイッチを押すと、手順 **6** で設定した状態へ移行します。

## 2 ディ스플레이を閉じたときの動作の設定

- 1 スタート画面で、ポインターを下側に移動する
- 2 画面左下の  をクリックする
- 3 [Windowsシステムツール] の [  コントロールパネル ] をクリックする
- 4 [  ハードウェアとサウンド ] をクリックする
- 5 [  電源ボタンの動作の変更 ] をクリックする
- 6 [カバーを閉じたときの動作] で [スリープ状態] [休止状態] [シャットダウン] のいずれかを選択する  
[何もしない] に設定すると、パネルスイッチ機能は働きません。  
[バッテリー駆動] 時と「電源に接続」時のそれぞれについて設定してください。
- 7 [変更の保存] ボタンをクリックする  
ディスプレイを閉じると、手順 **6** で設定した状態へ移行します。  
[スリープ状態] [休止状態] に設定した場合は、次にディスプレイを開くと、自動的にディスプレイを閉じる前の状態が再現されます。

### メモ

- ディ스플레이を閉じることによって [スリープ状態] [休止状態] [シャットダウン] のうち、あらかじめ設定した状態へ移行する機能を、パネルスイッチ機能といいます。

# 3 タッチパッド

## 1 タッチパッドで操作する

電源を入れてWindowsを起動すると、パソコンのディスプレイに $\rightarrow$ が表示されます。この矢印を「ポインター」といい、操作の開始位置を示しています。この「ポインター」を動かしながらパソコンを操作していきます。

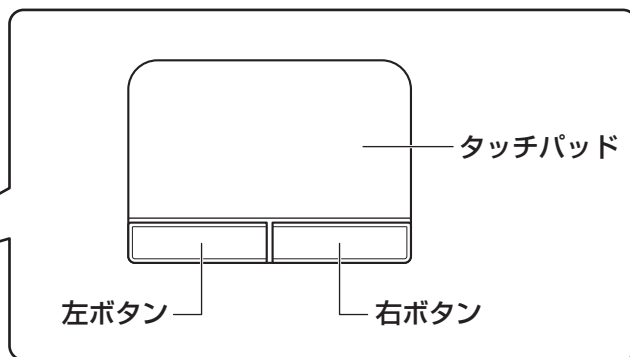
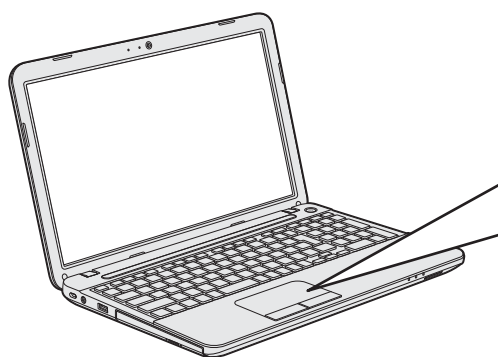
パソコン本体には、「ポインター」を動かすタッチパッドと、操作の指示を与える左ボタン／右ボタンがあります。

タッチパッドと左ボタン／右ボタンを使ってポインターを動かし、パソコンを操作してみましょう。ここでは、タッチパッドと左ボタン／右ボタンの基本的な機能を説明します。

### お願い タッチパッドの操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照▶「付録 1 - 2 - タッチパッドの操作にあたって」



## 1 タッピングの方法

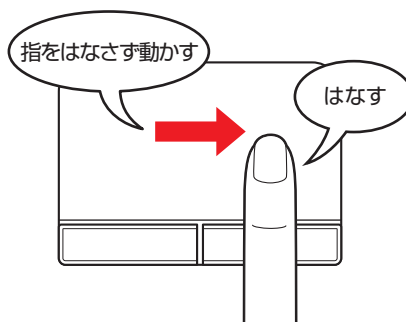
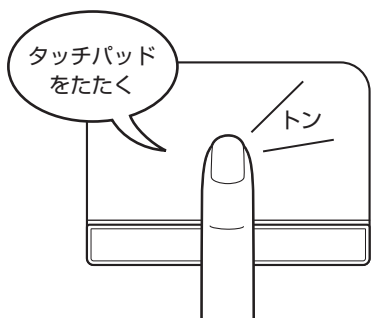
タッチパッドを指で軽くたたくことを「タッピング」といいます。  
タッピング機能を使うと、左ボタンを使わなくても、次のような基本的な操作ができます。

### □ クリック／ダブルクリック

タッチパッドを1回軽くたたくとクリック、  
2回たたくとダブルクリックができます。

### □ ドラッグアンドドロップ



タッチパッドを続けて2回たたき、2回目は  
タッチパッドから指をはなさずに目的の位置  
まで移動し、指をはなします。



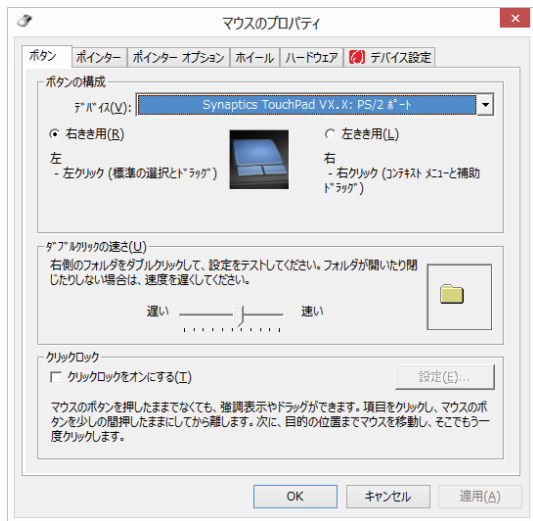
## 2 タッチパッドの使用環境を設定する

タッチパッドやポインターの設定は、[マウスのプロパティ]で行います。

### 1 [マウスのプロパティ] の起動方法

- 1 スタート画面で、ポインターを下側に移動する
- 2 画面左下の  をクリックする
- 3 [Windows システムツール] の  [コントロールパネル] をクリックする

- 4** [  ハードウェアとサウンド ] → [  マウス ] をクリックする  
[マウスのプロパティ] 画面が表示されます。



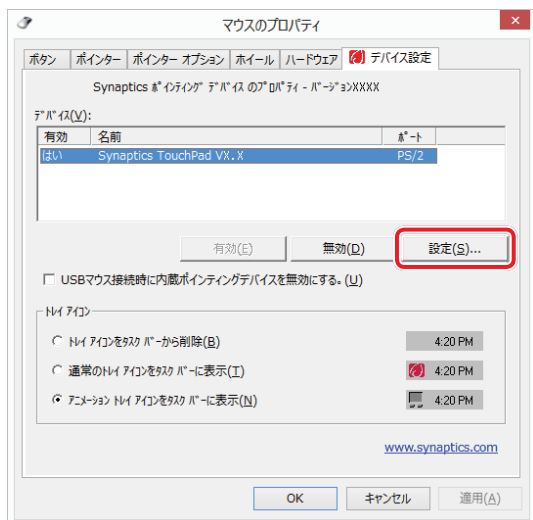
(表示例)

\* モデルによって画面構成が異なる場合があります。

## 2 タッチパッドの設定方法

[マウスのプロパティ] では、タッチパッドやポインターなどの各種設定ができます。タッチパッドの設定をするには、次のように操作してください。

- 1** [マウスのプロパティ] 画面の [デバイス設定] タブで [設定] ボタンをクリックする



(表示例)

[デバイス設定] 画面が表示されます。

- 2** 画面左側に表示されているメニューから、設定したい項目をクリックする  
画面右側に、選択した項目の設定内容と、その説明が表示されます。説明をよく読んで各項目を設定してください。



(表示例)

### メモ

- 本製品のタッチパッドには、ジェスチャーコントロール機能があります。指の動きを使って、タッチパッドで次の操作ができます。
    - ・ 2本指での上下左右へのスクロール
    - ・ 文字や画像を拡大／縮小する（つまみズーム）
    - ・ 画像を回転する など
- 詳しくは、手順 **2** で設定したい項目を選択し、表示された説明を確認してください。

### 役立つ操作集





タッチパッドを有効／無効にするには

**[FN] + [F5]** キーを押すたびにタッチパッドの有効／無効を切り替えることができます。

**[FN] + [F5]** キーでタッチパッドの有効／無効を切り替える場合は、タッチパッドから指をはなしてから行ってください。**[FN] + [F5]** キーでタッチパッドの操作を有効にした瞬間、カーソルの動きが数秒不安定になることがあります。そのような場合は、一度タッチパッドから指をはなしてください。しばらくすると、正常に操作できるようになります。

#### USB対応マウス接続時に、自動的にタッチパッドを無効にする

USB対応マウスを接続したときに、タッチパッドによる操作が自動的に無効になるように設定することができます。

- ① スタート画面で、ポインターを下側に移動する
- ② 画面左下の  をクリックする
- ③ [Windowsシステムツール] の [ コントロールパネル] をクリックする
- ④ [ ハードウェアとサウンド] → [ マウス] をクリックする
- ⑤ [デバイス設定] タブで [USBマウス接続時に内蔵ポインティングデバイスを無効にする。] をチェックする
- ⑥ [OK] ボタンをクリックする

**[FN] + [F5]** キーを押して設定する「タッチパッドON/OFF機能」とは連動していません。

市販のUSB対応マウスをお使いの場合、マウスの種類によっては、本機能が動作しない場合があります。

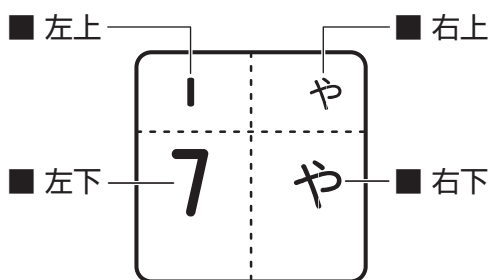


各キーにはさまざまな機能が用意されています。複数のキーを組み合わせると、いろいろな操作が実行できます。

## 1 キーボードの文字キーの使いかた

文字キーは、文字や記号を入力するときに使います。

キーボードの文字入力の状態によって、入力できる文字や記号が変わります。





左上	ほかのキーは使わず、そのまま押すと、アルファベットの小文字などが入力できます。 [SHIFT] キーを押しながら押すと、記号やアルファベットの大文字が入力できます。
左下	ほかのキーは使わず、そのまま押すと、数字や記号が入力できます。
右上	かな入力ができる状態で [SHIFT] キーを押しながら押すと、記号、ひらがなの促音（小さい「っ」）、拗音（小さい「や、ゆ、よ」）が入力できます。
右下	かな入力ができる状態で押すと、ひらがなや記号が入力できます。

## 2 FN キーを使った特殊機能キー

キー	内容
FN + SPACE ＜本体液晶ディスプレイの解像度切り替え＞	FN キーを押したまま、SPACE キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの解像度が切り替わります。
FN + F2 ＜本体液晶ディスプレイの輝度を下げる＞	FN キーを押したまま、F2 キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が下がります。
FN + F3 ＜本体液晶ディスプレイの輝度を上げる＞	FN キーを押したまま、F3 キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が上がります。
FN + F4 ＜表示装置の切り替え＞	表示装置を切り替えます。 <b>参照</b> ▶ 詳細について「4章 3 - 2 表示を切り替える」
FN + F5 ＜タッチパッド ON/OFF＞	FN キーを押したまま、F5 キーを押すたびにタッチパッドの有効/無効を切り替えます。
FN + F6 ＜前へ＞	再生時に、FN キーを押したまま、F6 キーを押すと、ひとつ前へ進みます。
FN + F7 ＜再生/一時停止＞	FN キーを押したまま、F7 キーを押すたびに、再生と一時停止を切り替えます。
FN + F8 ＜次へ＞	再生時に、FN キーを押したまま、F8 キーを押すと、ひとつ後へ進みます。
FN + F9 ＜音量小＞	FN キーを押したまま、F9 キーを押すたびに音量が小さくなります。
FN + F10 ＜音量大＞	FN キーを押したまま、F10 キーを押すたびに音量が大きくなります。
FN + F11 ＜スピーカーのミュート＞	FN キーを押したまま、F11 キーを押すたびに本体のスピーカーやヘッドホンの音量のミュート（消音）のON/OFFが切り替わります。
FN + F12 ＜無線通信機能のON/OFF＞	FN キーを押したまま、F12 キーを押すたびに、無線通信機能のON/OFFが切り替わります。 [機内モード オフ] にすると無線通信機能はONになります。 [機内モード オン] にすると無線通信機能はOFFになります。
FN + 1 ＜縮小＞	スタート画面/デスクトップ画面や一般的なアプリケーションで、FN キーを押したまま、1 キーを押すと、画面やアイコンなどが縮小されます。
FN + 2 ＜拡大＞	スタート画面/デスクトップ画面や一般的なアプリケーションで、FN キーを押したまま、2 キーを押すと、画面やアイコンなどが拡大されます。

## 「東芝ファンクションキー」について

FNキーを使った特殊機能キーの一部では、キーを押したときにメッセージを表示するかどうかを、「東芝ファンクションキー」で設定することができます。

- 1 スタート画面で、ポインターを下側に移動する
- 2 画面左下の  をクリックする
- 3 [TOSHIBA] の  ファンクションキー] をクリックする  
「東芝ファンクションキー」が起動します。
- 4 各項目を設定し、[閉じる] ボタンをクリックする

## 3 特殊機能キー

特殊機能	キー	操作
タスクマネージャーの起動	<b>CTRL</b> + <b>SHIFT</b> + <b>ESC</b>	[タスク マネージャー] 画面が表示されます。アプリケーションやシステムの強制終了を行います。
画面コピー	<b>FN</b> + <b>PRTSC</b>	現在表示中の画面をクリップボードにコピーします。
	<b>ALT</b> + <b>FN</b> + <b>PRTSC</b>	現在表示中のアクティブな画面をクリップボードにコピーします。
	 + <b>FN</b> + <b>PRTSC</b>	現在表示中の画面をPNGファイルとして保存します。 PNGファイルは、デスクトップ画面のタスクバーの [エクスプローラー] → [PC] → [ピクチャ] → [スクリーンショット] に保存されています。

# 5 ハードディスクドライブ

本製品には、ハードディスクドライブが搭載されています。  
本体のハードディスクドライブは、取りはずしできません。  
USB 接続型のハードディスクなどを使用して記憶容量を増やすことができます。

## 2 章

### パソコンの基本操作を覚えよう

#### お願い 操作にあたって

- パソコンを激しく揺らしたり、強い衝撃を与えると、故障の原因となる場合があります。
- ハードディスクに記録された内容は、故障や障害の原因にかかわらず保証できません。  
万が一故障した場合に備え、バックアップをとることを推奨します。
- あらかじめ、次の説明を確認してください。

**参照**▶ 「付録 **1** - **3** ハードディスクドライブについて」

ドライブ搭載モデルには、DVDスーパーマルチドライブが搭載されています。DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+R、CD-RW、CD-Rの読み出し／書き込み機能と、DVD-ROM、CD-ROMの読み出し機能を搭載したドライブです。

『安心してお使いいただくために』に、CD／DVDを使用するとき守ってほしいことが記述されています。

CD／DVDを使用する場合は、あらかじめその記述をよく読んで、必ず指示を守ってください。

ドライブを搭載していないモデルの場合は、外付けのCD／DVD／ブルーレイディスクドライブ（市販品）を接続すると、CD／DVD／ブルーレイディスクを使用できます。

ただし、すべての外付けCD／DVD／ブルーレイディスクドライブでの動作を保証するものではありません。

## 1 使える記録メディアを確認しよう

### \* ドライブ搭載モデルのみ

使用できるCD／DVDの詳細と、書き込み速度については、「付録 2 記録メディアについて」を確認してください。

使用するメディアによっては、読み出しができない場合があります。

\* 12cm/8cmディスク対応、Serial ATA接続、バッファアンダーランエラー防止機能付き。

○：使用できる ×：使用できない

	読み出し* <sup>1</sup>	書き込み回数
CD-ROM	○* <sup>2</sup>	×
CD-R	○	1回
CD-RW	○	繰り返し書き換え可能* <sup>3</sup>
DVD-ROM	○* <sup>2</sup>	×
DVD-R* <sup>4</sup>	○* <sup>5</sup>	1回
DVD-RW	○	繰り返し書き換え可能* <sup>3</sup>
DVD+R* <sup>6</sup>	○* <sup>5</sup>	1回
DVD+RW	○	繰り返し書き換え可能* <sup>3</sup>
DVD-RAM	○	繰り返し書き換え可能* <sup>3</sup>

\* 1 対応フォーマットによっては再生ソフトが必要な場合があります。

\* 2 読み出し速度 CD-ROM：最大24倍速、DVD-ROM：最大8倍速。

\* 3 実際に書き換えできる回数は、記録メディアの状態や書き込み方法により異なります。

\* 4 本書では、「DVD-R」と記載している場合、特に書き分けのある場合を除き、DVD-R DL（DVD-R Dual Layer）を含みます。DVD-R DLは、Format4での読み出し／書き込みをサポートしておりません。

\* 5 記録メディアの状態や書き込み方法により、読み出しできない場合があります。DVD-R DLのみ追記されたデータは読み出しできません。

\* 6 本書では、「DVD+R」と記載している場合、特に書き分けのある場合を除き、DVD+R DL（DVD+R Double Layer）を含みます。



### メモ 書き込みについて

- CD/DVDにデータを書き込むには、Windowsの書き込み機能を使用してください。
- 記録メディアにデータを書き込むとき、記録メディアの状態やデータの内容、またはパソコンの使用環境によって、実行速度は異なります。

## 2章

### パソコンの基本操作を覚えよう

#### お願い

CD/DVDに書き込む前に、書き込みを行うにあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

**参照** 「付録 2 - 1」 CD/DVDに書き込む前に」

**参照** 「付録 2 - 1」 - 書き込みを行うにあたって」

## 2

### CD/DVDを使うとき（セット）

\* ドライブ搭載モデルのみ

CD/DVDは、パソコン本体に搭載されているドライブにセットして使用します。

#### お願い

CD/DVDの操作にあたって


- あらかじめ、次の説明を確認してください。

**参照** 「付録 1 - 4」 CDやDVDについて」

**参照** 「付録 2 - 2」 使えるCDを確認しよう」

**参照** 「付録 2 - 3」 使えるDVDを確認しよう」

## メモ セットする前に確認しよう

- 傷ついたり汚れのひどいCD/DVDの場合は、挿入してから再生が開始されるまで、時間がかかる場合があります。汚れや傷がひどいと、正常に再生できない場合もあります。汚れをふきとってから再生してください。
  - 記録メディアにデータを書き込むとき、記録メディアの状態やデータの内容、またはパソコンの使用環境によって、実行速度は異なります。
  - CD/DVDの特性やCD/DVDへの書き込み時の特性によって、読み出せない場合もあります。
  - CD/DVDの種類によっては、取り出すときWindowsが自動的にセッションを閉じてしまう場合があります。このとき、確認のメッセージなどは表示されません。  
よく確認してからCD/DVDをセットしてください。  
このWindowsの機能を無効にするには、次のように操作してください。
- ① スタート画面の [デスクトップ] をクリックする  
デスクトップ画面が表示されます。
  - ② タスクバーの [エクスプローラー] アイコン (  ) をクリックする  
「エクスプローラー」が起動します。
  - ③ ドライブのアイコンを右クリックし、表示されたメニューから [プロパティ] をクリックする  
ドライブのプロパティ画面が表示されます。
  - ④ [書き込み] タブで [共通の設定] ボタンをクリックする
  - ⑤ [共通の設定] 画面で [シングル セッション ディスクを取り出すとき] と [マルチ セッション ディスクを取り出すとき] のチェックをはずし、[OK] ボタンをクリックする

## ドライブに関する表示

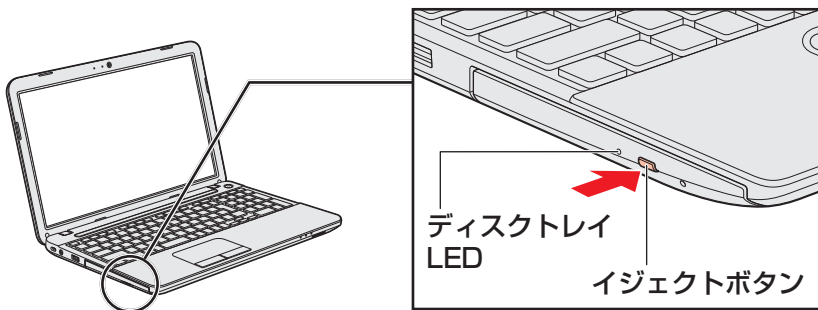
パソコンの電源が入っていて、ドライブが動作しているときは、ディスクトレイLEDが点灯します。

### 1 セットする

#### 1 パソコン本体の電源を入れる

Windowsが起動します。

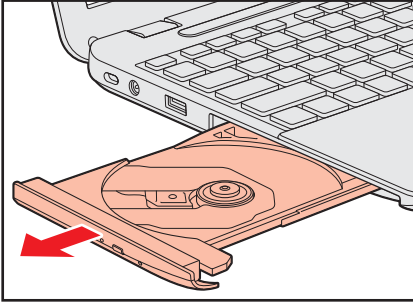
#### 2 イジェクトボタンを押す



イジェクトボタンを押したら、ボタンから手をはなしてください。ディスクトレイが少し出てきます（数秒かかることがあります）。

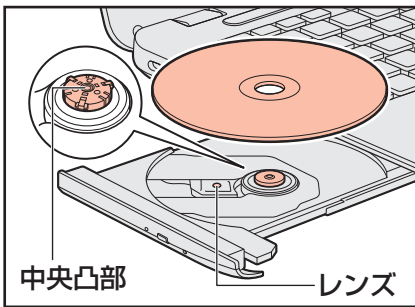
\* 搭載されているドライブによってイジェクトボタンやディスクトレイLEDの位置、ディスクトレイの形状は異なります。

**3** ディスクトレイを引き出す



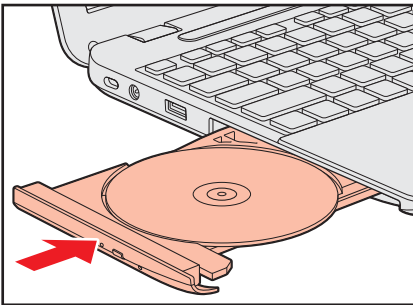
CD/DVDをのせるトレイがすべて出るまで、引き出します。

**4** 文字が書いてある面を上にして、CD/DVDの穴の部分をディスクトレイの中央凸部に合わせ、上から押さえてセットする



「カチッ」と音がして、セットされていることを確認してください。

**5** 「カチッ」と音がするまで、ディスクトレイを押し戻す

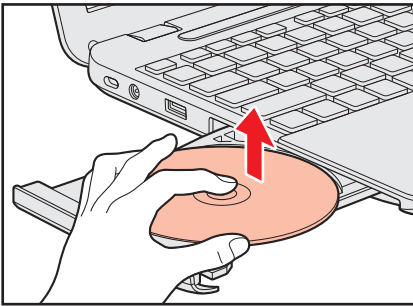




## 3 CD/DVDを使い終わったとき（取り出し）

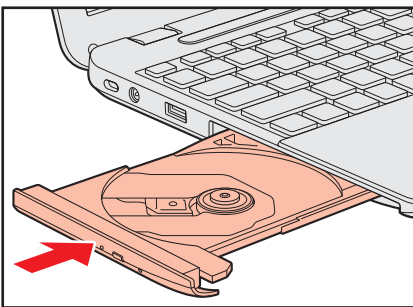
\* ドライブ搭載モデルのみ

- 1** パソコン本体の電源が入っているか確認する  
電源が入っていない場合は電源を入れてください。
- 2** イジェクトボタンを押す  
ディスクトレイが少し出てきます。
- 3** ディスクトレイを引き出す  
CD/DVDをのせるトレイがすべて出るまで、引き出します。
- 4** CD/DVDの両端をそっと持ち、上に持ち上げて取り出す



CD/DVDを取り出しにくいときは、中央凸部を少し押してください。簡単に取り出せるようになります。

- 5** 「カチッ」と音がするまで、ディスクトレイを押し戻す



## CD/DVDが出てこない場合

電源を切っているとき、または休止状態のときは、取り出しの操作をしてもCD/DVDは出てきません。電源を入れてから、CD/DVDを取り出してください。

次の場合は、電源が入っていても、すぐにCD/DVDは出てきません。

- 電源を入れた直後
- ディスクトレイを閉じた直後
- 再起動した直後
- ドライブ関係のLEDが点灯しているとき
- スリープ状態のとき

上記以外でCD/DVDが出てこない場合は、次のように操作してください。

### ● Windows動作中の場合

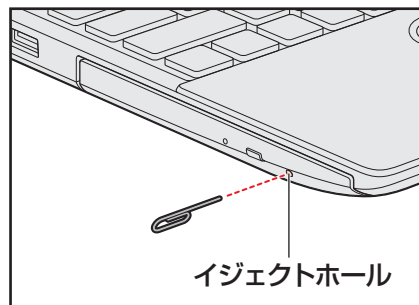
CD/DVDを使用しているアプリケーションをすべて終了してから、イジェクトボタンを押してください。

### ● パソコン本体の電源が入らない場合

## ⚠ 注意

- クリップなどを使う場合は、取り扱いに十分注意する  
先端のとがった部分でけがをするおそれがあります。

電源が入らない場合は、イジェクトホールを、先の細い丈夫なもの（クリップを伸ばしたものなど）で押しってください。



\* 搭載されているドライブによってイジェクトホールの位置は異なります。

## 4 DVD-RAMをフォーマットする

### \* ドライブ搭載モデルのみ

新品のDVD-RAMは、使用する目的に合わせて「フォーマット」という作業が必要です。フォーマットとは、DVD-RAMにデータの管理情報（ファイルシステム）を記録し、DVD-RAMを使えるようにすることです。

フォーマットされていないDVD-RAMは、フォーマットしてから使用してください。

### お願い DVD-RAMのフォーマットについて

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照▶ 「付録 2 - 3」 - DVD-RAMのフォーマットについて」

## ファイルシステム

DVD-RAMをフォーマットするときにファイルシステムを選択します。

ファイルシステムは、書き込むデータの種類や書き込み後の記録メディアを使用する機器に応じて選択します。また、映像データを書き込むときは、書き込み用のアプリケーションによって指定されている場合があります。

選択できるファイルシステムは「UDF2.50」「UDF2.01」「UDF2.00」「UDF1.50」「UDF1.02」です。

## 1 フォーマット方法

フォーマットは、Windows上で実行できます。

フォーマット方法については、チャームの「検索」欄に「フォーマット」と入力して検索してください。

本製品は表示装置としてTFTカラー液晶ディスプレイを搭載しています。  
テレビや外部ディスプレイを接続して使用することもできます。

## 1 画面の明るさを調整する

本体液晶ディスプレイの明るさ（輝度）を調整します。

### □ 輝度の調整方法

**FN** + **F2** : **FN** キーを押したまま、**F2** キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が下がります。

**FN** + **F3** : **FN** キーを押したまま、**F3** キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が上がります。

## 2 着席／離席によって画面を自動的にON／OFFする

\* TOSHIBA Active Display Off搭載モデルのみ

「TOSHIBA Active Display Off」は、パソコンの前に人がいるかどうかを本体のWebカメラで検出して判断し、本体液晶ディスプレイの画面を自動的にON／OFFする機能です。画面をOFFすることにより、節電の効果があります（モデルによっては、効果が少ない場合があります）。

また、インターネットやメールなどを閲覧中に画面が自動的に消えることがあります。これは、一定時間マウスやキーボードなどの操作を行わなかったため、「電源オプション」の機能が働いたためですが、本機能を有効にしておくと、パソコンの前に人がいる間は画面が消えることがなくなります。

**お願い** 「TOSHIBA Active Display Off」を使用するにあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

**参照** ▶ 「付録 1 - 5 「TOSHIBA Active Display Off」について」

本機能は、購入時の状態では無効になっています。本機能を使用する場合は、「TOSHIBA Active Display Off」を起動して有効に設定してください。

## 1 起動して有効にする

1 スタート画面で、ポインターを下側に移動する


2 画面左下の  をクリックする

3 [TOSHIBA] の [ Active Display Off] をクリックする

初めて起動したときは [使用上の注意] が表示されるので、[同意する] ボタンをクリックしてください。

[TOSHIBA Active Display Off] 画面が表示されます。

4 [ディスプレイの制御] を [有効] に設定し①、[閉じる] ボタンをクリックする②




①

Webカメラの撮影範囲  
この範囲に人の顔を検出すると、本機能が動作します。

参照 ▶ Webカメラの位置  
「本章 10 Webカメラを使う」


②  
(表示例)

本機能を有効にすると、通知領域に [TOSHIBA Active Display Off] アイコン () が常駐します。

\* 通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をクリックしてください。

## 2 設定を変更する

本機能を無効に切り替えたり、詳細設定を行う場合は、次の方法で行います。

**1** 通知領域の [TOSHIBA Active Display Off] アイコン (  ) を右クリックして表示されるメニューから、[設定] をクリックする

[TOSHIBA Active Display Off] 画面が表示されます。

詳細設定を行う場合は、画面左側の [オプション] をクリックすると、設定画面が表示されます。

**2** 設定を変更して [OK] ボタンまたは [閉じる] ボタンをクリックする

### メモ

- 購入時の状態では、パソコンの前に人がいなくなってから画面 OFF となるまでの時間は、約 2~5 分です (時間はモデルによって異なります)。画面が消えるまでの時間は、「電源オプション」の電源プランの各項目で設定している時間のうち、最少時間の約半分となります (ただし、約 40 秒~10 分の範囲内)。
- 本機能が有効の場合、パソコン本体の Web カメラの LED は、人を検出して画面 ON の間は数分間隔で 1 回点灯し、人を検出できずに画面 OFF の間は点灯し続けます。

# 8 サウンド

## 1 スピーカーの音量を調整する

スピーカーの音量は、次の方法で調整できます。






音量はWindowsで制御しているため、Windows起動時や電源を切っているときは、音量変更はできません。

### 1 **FN** + **F9** または **FN** + **F10** キーで調整する

**1** 音量を小さくしたいときは **FN** + **F9** キー、大きくしたいときは **FN** + **F10** キーを押す

**FN** キーを押したまま **F9** キーを押すたびに音量が小さくなり、**FN** キーを押したまま **F10** キーを押すたびに音量が大きくなります。

## 2 音量ミキサーから調整する

- 1 スタート画面で、ポインターを下側に移動する
- 2 画面左下の  をクリックする
- 3 [Windowsシステムツール] の [ コントロールパネル] をクリックする
- 4 [ ハードウェアとサウンド] → [ システム音量の調整] をクリックする  
[音量ミキサー] 画面が表示されます。
- 5 各項目でつまみを上下にドラッグして調整する  
[ミュート] ボタン () をクリックすると消音 (ミュート) になります。



(表示例)

## □ 音量ミキサーの各項目

音量ミキサーの各項目では、次の音量が調整できます。

スピーカー	スピーカーの音量を調整します。
システム音	Windowsのプログラムイベント (メッセージの表示、システムエラーなどの動作) で再生されるサウンド設定の音量を調整します。

また、使用するアプリケーションにより異なる場合があります。

**参照** ▶ 詳細について『アプリケーションに付属の説明書』 **メモ**

- インテル® ハイ・デフィニション・オーディオ準拠。
- キャプチャソフトなどを使用して、パソコンで再生中の音声を録音することはできません。



## 2 TOSHIBA Audio Enhancementについて

「TOSHIBA Audio Enhancement」には次の機能があります。

- 「音源バランスコントロール」  
音声を下げることにより背景音を、また背景音を下げることにより音声を聞きやすくします。
- 「イヤホンオーディオエンハンサー」  
カナル型イヤホン用の機能です。イヤホンの音のくもり感を除去した清らかな音を提供します。
- 「スピーカオーディオエンハンサー」\*<sup>1</sup>  
デジタル処理による音質劣化なしに、より音源に近い音を再現します。
- 「オートボリュームアジャストメント」\*<sup>1</sup>  
コンテンツ間で音量が急激に変わらないように自動で調整します。「スピーカオーディオエンハンサー」を有効にすると、本機能も有効に設定できます。

\* 1 モデルによっては対応していない場合があります。

**1** スタート画面で、ポインターを下側に移動する

**2** 画面左下の  をクリックする

**3** [TOSHIBA] の  [Audio Enhancement] をクリックする

メッセージが表示された場合は、内容を確認して [OK] ボタンをクリックしてください。  
[Audio Enhancement] 画面が表示されます。

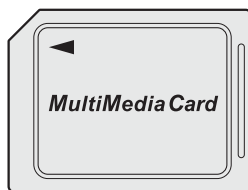
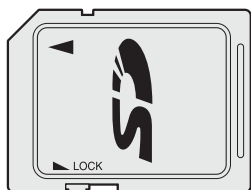
**4** 各タブでオーディオ機能を調整する

**5** [OK] ボタンをクリックする

本製品では次のメディアカードをブリッジメディアスロットに差し込んで、データの読み出しや書き込みができます。

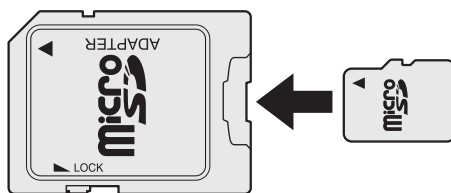
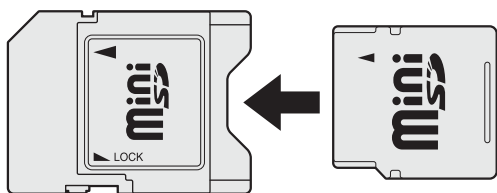
次のイラストは、実際のもものと多少異なる場合があります。

- SDメモ리카ード\*<sup>1</sup>  
(以降、SDHCメモ리카ード\*<sup>1</sup>、SDXCメモ리카ード\*<sup>1</sup>を含みます。)
- マルチメディアカード



次のメディアカードは、市販のSDメモ리카ード変換アダプターを装着すると、本製品のブリッジメディアスロットでも使用できます。必ず変換アダプターを装着した状態でご使用ください。

- miniSDメモ리카ード\*<sup>1</sup>  
(以降、miniSDHCメモ리카ード\*<sup>1</sup>を含みます。)  
miniSDメモ리카ードをSDメモ리카ードとして使用できる市販の変換アダプターを使用します。
- microSDメモ리카ード\*<sup>1</sup>  
(以降、microSDHCメモ리카ード\*<sup>1</sup>を含みます。)  
microSDメモ리카ードをSDメモ리카ードとして使用できる市販の変換アダプターを使用します。



\* 1 著作権保護技術CPRMに対応しています。

変換アダプターの装着や使用方法は、『メディアカードに付属の説明書』を確認してください。

本書では、特に区別して説明する場合を除き、SDメモ리카ード、miniSDメモ리카ード、microSDメモ리카ードを「SDメモ리카ード」と呼びます。

すべてのメディアの動作を保証するものではありません。

高速データ転送には対応していません。

コンパクトフラッシュメモ리카ードなどは使用できません。使用する場合はUSB経由で周辺機器（デジタルカメラなど）を接続するか、専用のカードリーダーをご使用ください。

## 1 メディアカードを使う前に

### お願い メディアカードの使用にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

**参照**▶ 「付録 2 - 5」メディアカードを使うにあたって」

新品のメディアカードは、メディアカードの規格に合わせてフォーマットされた状態で販売されています。

フォーマットとは、メディアカードを使えるようにすることです。

フォーマットされていないものを購入した場合や再フォーマットをする場合は、メディアカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤーなど）で行ってください。

## 2 メディアカードのセットと取り出し

### お願い 操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

**参照**▶ 「付録 2 - 5」- 1」メディアカードの操作にあたって」

## 1 セットする

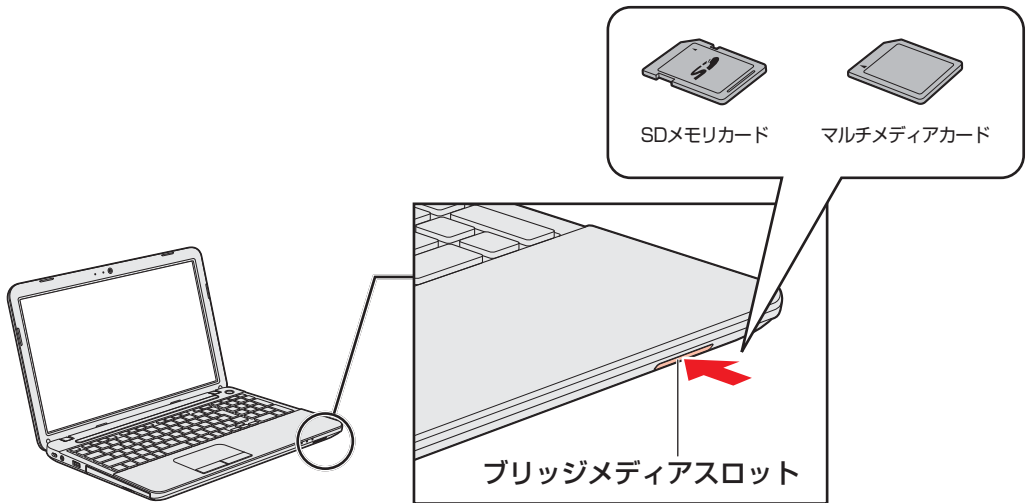
## ⚠ 注意

- メディアカードを強く押さない  
メディアカードやブリッジメディアスロットが故障するおそれがあります。
- メディアカードを挿したまま、メディアカードに衝撃を与えない  
メディアカードが故障して、データが読み取り／書き込みできなくなるおそれがあります。
- メディアカードを挿したまま、持ち運びしない  
メディアカードをぶつけると、メディアカードやブリッジメディアスロットが故障するおそれがあります。
- メディアカードを使用しないときは、メディアカードを取り出す  
メディアカードに衝撃が加わると、メディアカードが故障するおそれがあります。

メディアカードをブリッジメディアスロットの奥まで挿入すると、カードが本体から少し出ている状態になります。

## 1 メディアカードの表裏を確認し、表を上にして、ブリッジメディアスロットに挿入する

カードが止まるまで挿入します。



## お願い

- miniSD メモリカード、microSD メモリカードは、市販のSD メモリカード変換アダプターが必要です。  
アダプターを使用しないで直接挿入すると、取り出せなくなります。

## 2 セットしたメディアカードの内容を見る

著作権保護を必要としない画像や音声、テキストなどの一般的なファイルは、次の手順で見ることができます。

著作権保護されたファイルについては見ることはできない場合があります。

### 1 スタート画面の【デスクトップ】をクリックする

デスクトップ画面が表示されます。

### 2 タスクバーの【エクスプローラー】アイコン ( ) をクリックする

「エクスプローラー」が起動します。

### 3 メディアカードのアイコンをダブルクリックする

以下の名称は表示の一例です。異なる名称が表示される場合があります。

SDメモ리카ード : リムーバブルディスク、セキュリティで保護された記憶域デバイス、SD Card、SD

マルチメディアカード : リムーバブルディスク、MMC記憶域デバイス、MultiMediaCard、MMC Card、MMC

(表示例)

セットしたメディアカードの内容が表示されます。



## メモ

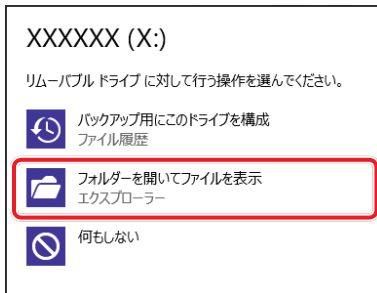
- メディアカードによっては、ブリッジメディアスロットにセットすると、自動的に内容が表示されたり、メディアカードに対する操作を選択する画面が表示される場合があります。次のように操作してください。

#### ① メッセージをクリックする

**SD Card (X:)**  
タップして、リムーバブルドライブ に対して行う操作を選んでください。

(表示例)

#### ② [フォルダーを開いてファイルを表示] を選択する



(表示例)

## 3 取り出す



メディアカードに保存しているファイルを使用していたり、ウィンドウを開いたりしていると、取り出しができません。


ウィンドウやファイルを閉じてから、操作を行ってください。

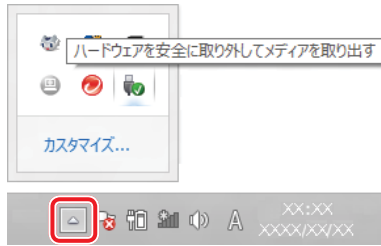
### 1 メディアカードの使用を停止する

- ① スタート画面の【デスクトップ】をクリックする


デスクトップ画面が表示されます。

- ② 通知領域の【ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す】アイコン（）または（）をクリックする

\* 通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をクリックしてください。



（表示例）

- ③ 表示されたメニューから【(取りはずすメディアカード) の取り出し】をクリックする
- ④ 「ハードウェアの取り外し」のメッセージが表示されたら、 をクリックする

### 2 メディアカードを取り出す

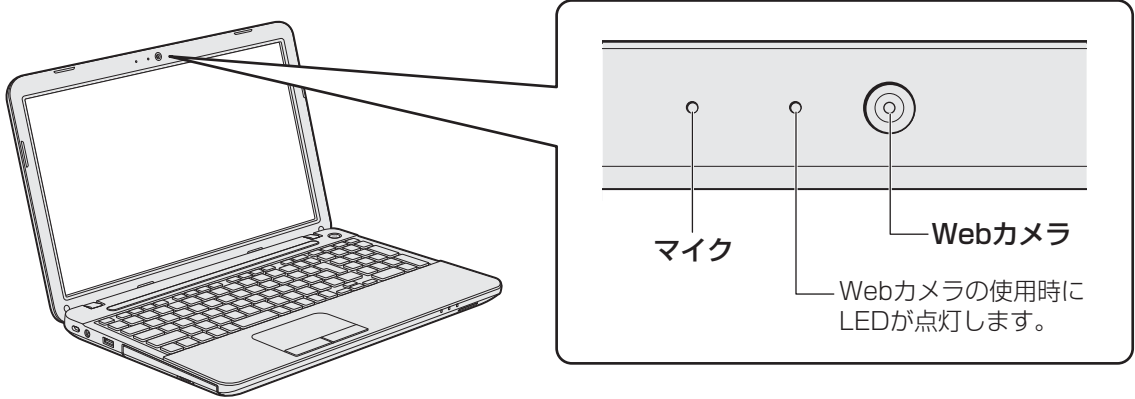
ブリッジメディアスロットから出ている部分を持ち、静かに引き抜いてください。

# 10

## Webカメラを使う

### \* Webカメラ搭載モデルのみ

Webカメラ搭載モデルには、「Webカメラ」が搭載されています。  
写真や動画を撮影できます。



### お願い Webカメラについて

- Webカメラに保護シートが貼ってある場合には、Webカメラを使用する前に、必ず保護シートをはがしてください。
- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 ▶ 「付録 1 - 6 Webカメラについて」

## 1 Webカメラのアプリケーションについて

Webカメラで写真を撮ったり、ビデオを録画するには、「カメラ」アプリケーションを使用します。

### 1 起動方法

#### 1 スタート画面の [カメラ] ( ) をクリックする



初回起動時はメッセージが表示されるので、[許可] をクリックしてください。  
「カメラ」アプリケーションが起動します。

#### 2 撮影の種類によって、次の操作を行う

##### ■ 写真撮影の場合

- ① (  ) をクリックする

##### ■ ビデオ録画の場合

- ① ビデオ録画を開始するには (  ) をクリックし、終了するには (  ) をクリックする

#### メモ

- 写真やビデオ録画のデータは、デスクトップ画面のタスクバーの [エクスプローラー] → [PC] → [ピクチャ] → [カメラロール] に保存されています。



# 3章

## ■ ネットワークの世界へ

本製品に搭載されている通信に関する機能を説明しています。  
ネットワークやほかのパソコンと通信する方法について紹介します。

1 ネットワークで広がる世界 .....	66
----------------------	----

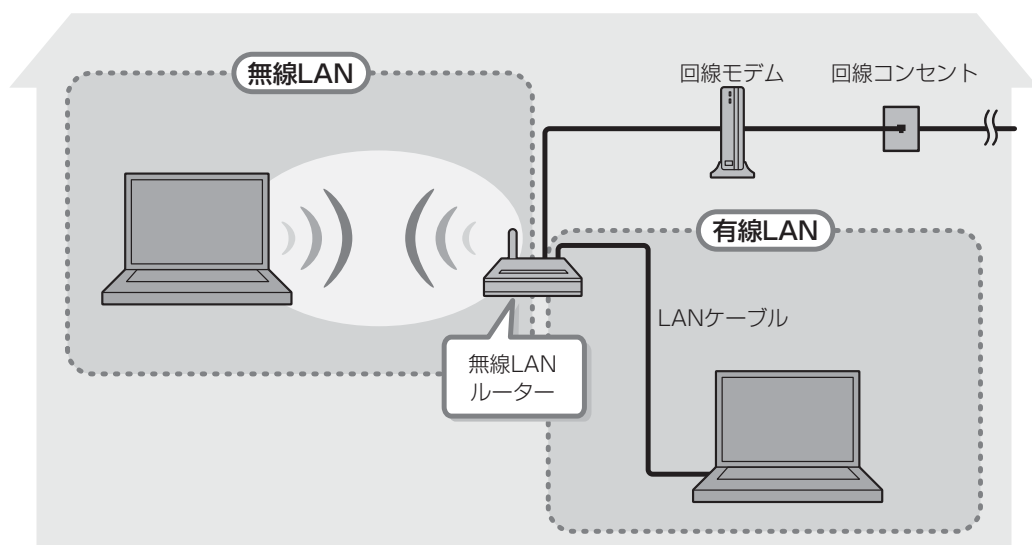
# 1 ネットワークで広がる世界

会社や家庭でそれぞれ自分専用のパソコンを持っている場合、1つのプリンターを共有したいときや、インターネット接続を使いたいときは、ネットワークを使うと便利です。

## 1 LAN接続はこんなに便利

会社や家庭でそれぞれが自分専用のパソコンを持っている場合や、ひとりで複数のパソコンを持っている場合など、複数のパソコンがあるときは、LAN (Local Area Network) を使うと便利です。

LAN機能にはケーブルを使った有線LANと、ケーブルを使わない無線LANがあります。



(接続例)

### ■有線LAN

有線LANの機能やLANケーブルの接続については、「本節 **2** 有線LANで接続する」を参照してください。

### ■無線LAN

無線LANとは、パソコンにLANケーブルを接続していない状態でもネットワークに接続できる、ワイヤレスのLAN機能のことです。モデムやルーターの位置とは関係なく、無線通信のエリア内であればあらゆる場所からコンピューターをLANシステムに接続できます。

無線LANルーターや無線LANアクセスポイント（市販）を使用することによって、パソコンからワイヤレスでネットワーク環境を実現できます。

ネットワークに接続したあとに、ファイルの共有の設定や、ネットワークに接続しているプリンターなどの機器の設定を行う必要があります。

ネットワークに接続している機器の設定は、各機器に付属の説明書を確認してください。

また、会社や学校で使用する場合は、ネットワーク管理者に確認してください。

## 2 有線LANで接続する

本製品には、ブロードバンド接続などに使用するLAN機能が搭載されています。

本製品のLANコネクタに光回線終端装置、ADSLモデムやブロードバンドルーターなどをLANケーブルで接続することができます。

また、本製品のLAN機能は、Gigabit Ethernet (1000BASE-T)\*<sup>1</sup>、Fast Ethernet (100BASE-TX)、Ethernet (10BASE-T) に対応しています。LANコネクタにLANケーブルを接続し、ネットワークに接続することができます。Gigabit Ethernet、Fast Ethernet、Ethernetは、ご使用のネットワーク環境（接続機器、ケーブル、ノイズなど）により、自動で切り替わります。

\* 1 Gigabit Ethernetに対応しているモデルのみ

### 1 LANケーブルを接続する

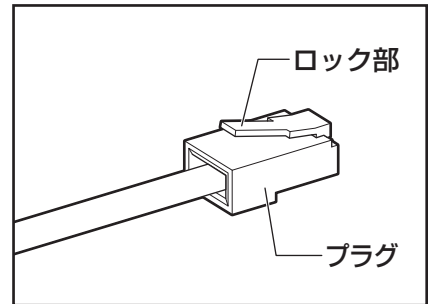
#### お願い LANケーブルの使用にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 ▶ 「付録 1 - 7 有線LANについて」

LANケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。

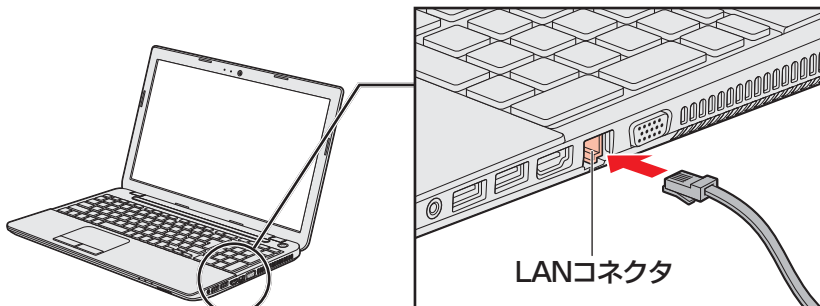
LANケーブルは本製品には付属していません。市販のLANケーブルを購入してください。



#### 1 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る

#### 2 LANケーブルのプラグをパソコン本体のLANコネクタに差し込む

ロック部を下にして、「カチッ」と音がするまで差し込んでください。



## 3 LANケーブルのもう一方のプラグを接続先のネットワーク機器のコネクタに差し込む

接続する機器により、以降の設定方法は異なります。

**参照** 光回線終端装置、ADSLモデムの設定について  
『プロバイダーなどから送られてくる資料』  
ブロードバンドルーターの設定について  
『ブロードバンドルーターに付属の説明書』

## 3章

## 3 ワイヤレス（無線）LANを使う

\* 無線LAN機能搭載モデルのみ

### 1 無線LANを使ってみよう

#### 警告

- 心臓ペースメーカーを装着しているかたは、心臓ペースメーカーの装着部位から22cm以上離す  
電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- 電子機器の使用が制限されている場所ではパソコンの電源を切る  
パソコン本体を航空機や電子機器の使用が制限されている場所（病院など）に持ち込む場合は、無線通信機能を無効に設定したうえで、パソコンの電源を切ってください。ほかの機器に影響を与えることがあります。
  - ・ 無線通信機能は、**FN** + **F12** キーを押してOFFにすることができます。**FN** + **F12** キーを押して「機内モード オン」に設定し、ワイヤレスコミュニケーションLEDが消灯しているのを確認してください。
  - ・ スリープや休止状態では、パソコンが自動的に復帰することがあるため、飛行を妨げたり、ほかのシステムに影響を及ぼしたりすることがあります。
  - ・ 電源を切った状態でも、パソコンが自動的に起動するような設定のソフトウェアの場合は、あらかじめ設定を無効（解除）にしてください。
  - ・ ディスプレイを開くことで自動的に電源が入るパネルオープンパワーオン機能を設定している場合は、あらかじめ設定を無効（解除）にしてください。

#### お願い

- あらかじめ、次の説明を確認してください。  
**参照** 「付録 1 - 8 無線LANについて」
- 『安心してお使いいただくために』に、セキュリティに関する注意事項や使用上の注意事項を説明しています。  
無線LANを使用する場合は、その記述を読んで、セキュリティの設定を行ってください。

1

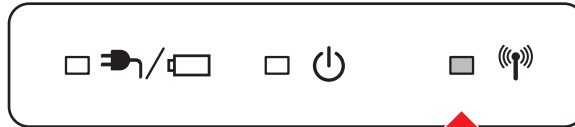
**FN** + **F12** キーを押して、**[機内モード オフ]** にする

**FN** キーを押したまま **F12** キーを押すたびに、画面左上にメッセージが表示されて無線通信機能のON/OFFが切り替わります。

機内モード オフ：無線通信機能ON

機内モード オン：無線通信機能OFF

無線通信機能をONにすると、ワイヤレスコミュニケーション (Wi-Fi) LEDが点灯します。



以降の無線LANの設定は、Windows標準機能を使って設定します。

3章

ネットワークの世界へ

## 2 セキュリティの設定

無線LAN機能を使用する場合、セキュリティ設定を行うことをおすすめします。  
セキュリティの設定を行っていない場合、さまざまな問題が発生する可能性があります。

**参照** 無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意

『安心してお使いいただくために』

これらの問題に対応するためには、無線LANアクセスポイントとパソコンの双方で通信データの暗号化などのセキュリティが必要になります。

本製品には、無線LANを使用するにあたっての問題に対応するためのセキュリティ機能が用意されています。

次のセキュリティ設定を行い、セキュリティ機能を有効にして本製品を使用すれば、それらの問題が発生する可能性を低くすることができます。

### 1 ポインターを画面の上または下の右隅に合わせる

チャームが表示されます。

### 2 [設定] をクリックする

画面右側に [設定] 画面が表示されます。

### 3 ( ) をクリックする

[ネットワーク] 画面が表示されます。



(表示例)

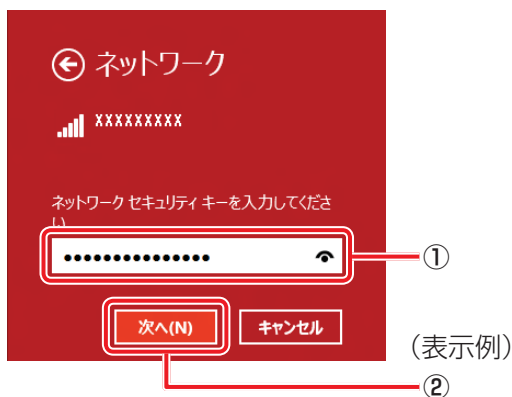
パソコンの周囲にあるワイヤレス ネットワーク (無線LANアクセスポイント) のSSIDの一覧が表示されます。

- 4** 接続するワイヤレスネットワークをクリックし①、[自動的に接続する] をチェックした状態で [接続] ボタンをクリックする②



環境によっては、近隣で使用されているワイヤレスネットワークのSSIDが表示される場合もあるので、必ず目的のワイヤレスネットワークを選択してください。

- 5** ネットワークセキュリティ情報を入力して①、[次へ] ボタンをクリックする②



以降は、画面の指示に従って操作してください。

選択する項目、データ暗号化の方式、セキュリティ キーなどの詳細は、お使いになる無線LANアクセスポイントに付属の説明書を確認のうえ、正しく設定してください。正しく設定していない場合、無線LANアクセスポイントに接続できない場合があります。





# 4章

## ■ 周辺機器を使って機能を広げよう

パソコンでできることをさらに広げたい。

そのためには周辺機器を接続して、機能を拡張しましょう。

本製品に取り付けられるさまざまな周辺機器の紹介と、よく使う周辺機器の取り付けかたや各種設定、取り扱いについて説明しています。

- |   |                        |    |
|---|------------------------|----|
| 1 | 周辺機器を使う前に .....        | 74 |
| 2 | USB対応機器を使う.....        | 75 |
| 3 | テレビや外部ディスプレイを接続する..... | 78 |
| 4 | マイクロホンやヘッドホンを使う .....  | 85 |
| 5 | Bluetooth機能を使う .....   | 87 |

# 1

## 周辺機器を使う前に

周辺機器とは、パソコンに接続して使う機器のことで、デバイスともいいます。周辺機器を使うと、パソコンの性能を高めたり、パソコンが持っていない機能を追加することができます。

周辺機器は、パソコン本体の周囲にあるコネクタや端子、スロットにつなぎます。

本製品のインターフェースに合った周辺機器をご利用ください。

周辺機器によっては、インターフェースなどの規格が異なることがあります。インターフェースとは、機器を接続するときのケーブルやコネクタや端子、スロットの形状などの規格のことです。

購入される際には、目的に合った機能を持ち、本製品に対応している周辺機器をお選びください。

周辺機器が本製品に対応しているかどうかについては、その周辺機器のメーカーに確認してください。

**参照** ▶ コネクタの仕様について「付録 **6** 各インターフェースの仕様」

### **お願い** 周辺機器の取り付け／取りはずしにあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

**参照** ▶ 「付録 **1** - **9** 周辺機器について」

次の周辺機器が使用できます。使用できる周辺機器の種類は、モデルによって異なります。

- USB対応機器（マウス、プリンター、USBフラッシュメモリなど）
- テレビ
- 外部ディスプレイ
- マイクロホン／ヘッドホン
- Bluetooth対応機器（マウス、キーボードなど）

**参照** ▶ 「本章 **2**」以降

## 4章

### 周辺機器を使って機能を広げよう

ユーザー

USB 対応機器は、電源を入れたまま取り付け／取りはずしができます。

また、新しい周辺機器を接続すると、システムがドライバーの有無をチェックし、自動的にインストールを行うプラグアンドプレイに対応しています。

USB 対応機器には次のようなものがあります。

- USB 対応マウス
- USB 対応プリンター
- USB 対応スキャナー
- USB フラッシュメモリ など

本製品のUSB コネクタにはUSB2.0 対応機器とUSB 1.1 対応機器を取り付けることができます。

**参照**▶ USB 対応機器の詳細『USB 対応機器に付属の説明書』

コネクタ内部が青色のUSB コネクタは、USB3.0 規格に対応しています。

このコネクタには、他のUSB コネクタと同様、USB2.0 対応機器、USB 1.1 対応機器も取り付けることができます。

使用しているUSB 対応機器がUSB3.0 規格に対応しているかどうかは、あらかじめ確認してください。

**参照**▶ 『USB 対応機器に付属の説明書』

USB 周辺機器すべての動作を保証するものではありません。

### お願い

### USB 対応機器の操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

**参照**▶ 「付録 1 - 9 - USB 対応機器の操作にあたって」

## 1 取り付け

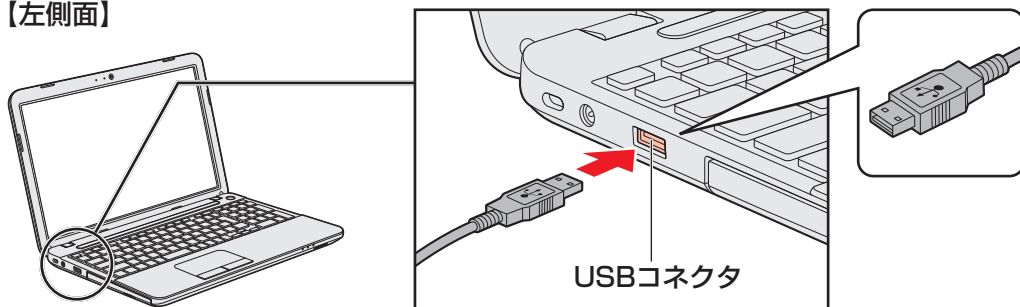
### 1 USBケーブルのプラグをUSB対応機器に差し込む

この手順が必要ない機器もあります。USB対応機器の詳細は、『USB対応機器に付属の説明書』を確認してください。

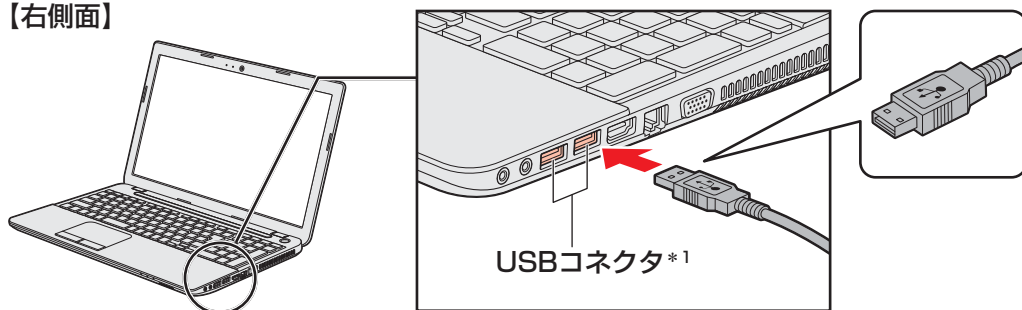
### 2 USBケーブルのもう一方のプラグをパソコン本体のUSBコネクタに差し込む

プラグの向きを確認して差し込んでください。

【左側面】



【右側面】





\* 1 コネクタ内部が青色のコネクタは、USB3.0規格に対応しています。

## 2 取りはずし

## 1 USB対応機器の使用を停止する

- ① スタート画面の【デスクトップ】をクリックする

デスクトップ画面が表示されます。

- ② 通知領域の【ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す】アイコン（）  
または  をクリックする

\* 通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をクリックしてください。

この操作を行ってもアイコンが表示されないUSB対応機器は、手順 2 に進んでください。



- ③ 表示されたメニューから取りはずすUSB対応機器の項目をクリックする  
④ 「ハードウェアの取り外し」のメッセージが表示されたら、 をクリックする

## 2 パソコン本体とUSB対応機器に差し込んであるUSBケーブルを抜く

4  
章

## 周辺機器を使って機能を広げよう

# 3

## テレビや外部ディスプレイを接続する

\* HDMI 出力端子に関する説明は、HDMI 出力端子搭載モデルのみ

本製品の次のコネクタと、テレビや外部ディスプレイをケーブルで接続すると、接続した表示装置の画面にパソコンの画面を表示させることができます。

- イーサネット・イーエムアイ HDMI 出力端子
- アールジービー RGB コネクタ

### お願い テレビ／外部ディスプレイ接続の操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

**参照**▶ 「付録 1 - 9 - テレビ／外部ディスプレイ接続の操作にあたって」

## 1 パソコンに接続する／取りはずす

### 1 HDMI 出力端子に接続する／取りはずす

HDMI 入力端子があるテレビや外部ディスプレイを接続できます。

#### メモ

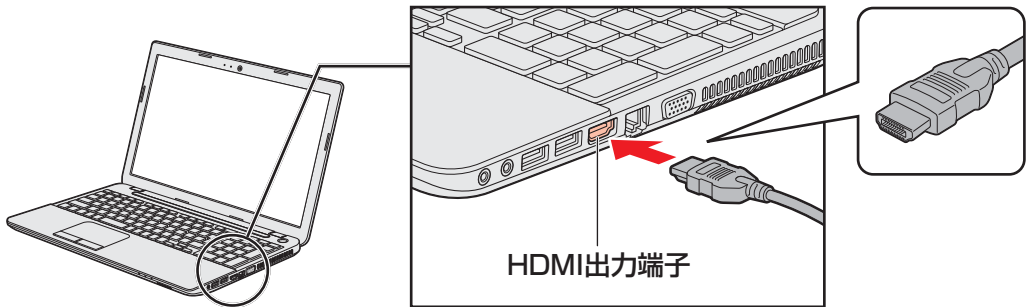
- HDMI 対応機器すべての動作を保証するものではありません。
- 接続する HDMI ケーブルは、市販のものを使用してください。
- HDMI ケーブルは、HDMI ロゴ ( **HDMI** ) の表示があるケーブルを使用してください。
- 使用可能なテレビや外部ディスプレイは、本体液晶ディスプレイで設定している解像度により異なります。解像度にあったテレビや外部ディスプレイを接続してください。
- テレビや外部ディスプレイへの出力形式の設定は変更できます。

**参照**▶ 「本節 2 表示を切り替える」

- 著作権保護された映像などをテレビや外部ディスプレイに表示するためには、HDCP に対応したテレビや外部ディスプレイを接続してください。

## HDMI出力端子に接続する






- 1 HDMIケーブルのプラグをテレビまたは外部ディスプレイのHDMI入力端子に差し込む
- 2 テレビまたは外部ディスプレイの電源を入れる
- 3 HDMIケーブルのもう一方のプラグをHDMI出力端子に差し込む

 メモ

- HDMI接続で、テレビまたは外部ディスプレイに映像を映しているとき、HDMIケーブルを抜いたあと、再度HDMIケーブルを接続する場合は5秒以上間隔をあけてください。

#### □ 音声の出力をパソコン本体のスピーカーからテレビなどに切り替える

HDMIケーブルでテレビや外部ディスプレイを接続すると、自動的に音声の出力先がテレビや外部ディスプレイに切り替わります。テレビや外部ディスプレイを接続しても音声が変わらない場合は、次の設定を行ってください。

- 1 スタート画面で、ポインターを下側に移動する
- 2 画面左下の  をクリックする
- 3 [Windows システムツール] の [ コントロールパネル] をクリックする
- 4 [ ハードウェアとサウンド] → [ サウンド] をクリックする  
[サウンド] 画面が表示されます。
- 5 [再生] タブでテレビのアイコン () がある項目を選択し、[既定値に設定] ボタンをクリックする
- 6 [OK] ボタンをクリックする

この設定を行うと、パソコン本体から音声が出されなくなります。テレビや外部ディスプレイを取りはずし、パソコン本体からの音声出力に戻す場合は、手順 **5** で [スピーカー] を選択し、[既定値に設定] ボタンをクリックしてください。

#### HDMI 出力端子から取りはずす

- 1 HDMI 出力端子からケーブルを抜く

#### 2 RGB コネクタに接続する／取りはずす

RGB コネクタには、RGB 端子がある外部ディスプレイを接続できます。

#### メモ

- 接続するケーブルは、市販のものを使用してください。
- 使用可能な解像度はディスプレイにより異なります。
- 1,920 × 1,200 ドットは、Reduced Blanking 対応の外部ディスプレイでのみ表示可能です。
- 外部ディスプレイへの出力形式の設定は変更できません。

#### 参照 ▶ 「本節 **2** 表示を切り替える」

- RGB 端子を備えたテレビへは、外部ディスプレイのように RGB ケーブルを使って表示することもできます。詳しくは、本項目の説明と『テレビに付属の説明書』を参照してください。

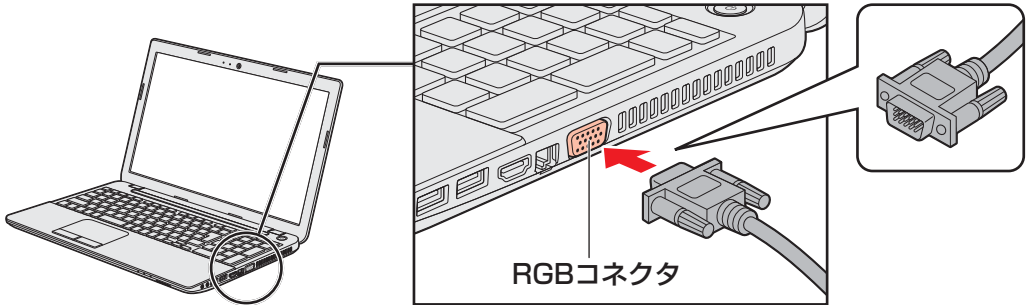


## RGB コネクタに接続する

外部ディスプレイとパソコン本体の電源を切った状態で接続してください。

### 1 外部ディスプレイのケーブルのプラグをRGB コネクタに差し込む

本製品のRGB コネクタには固定用のネジ穴はありませんが、プラグに固定用のネジが付いているタイプの外部ディスプレイケーブルも使用できます。



### 2 外部ディスプレイの電源を入れる

### 3 パソコン本体の電源を入れる

上記の手順で電源を入れると、パソコン本体は自動的にその外部ディスプレイを認識します。

## RGB コネクタから取りはずす

外部ディスプレイとパソコン本体の電源を切った状態で取りはずしてください。

### 1 Windows を終了させてパソコン本体の電源を切る

**参照**▶ 電源の切りかた「取扱説明書」

### 2 外部ディスプレイの電源を切る

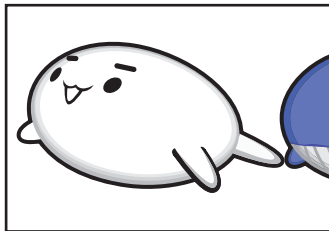
### 3 RGB コネクタからケーブルを抜く

## 2 表示を切り替える

テレビ／外部ディスプレイを接続した場合には、次の表示方法があります。  
表示方法は、表示装置の切り替えを行うことで変更できます。

### ■ 本体液晶ディスプレイ、またはテレビ／外部ディスプレイだけに表示

いずれかの表示装置にのみ、画面を表示します。



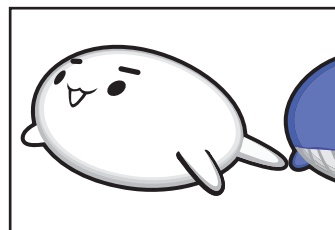
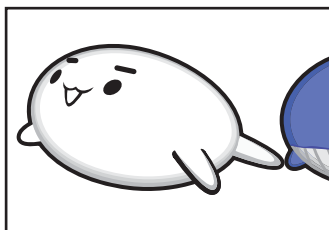
## 4 章

### 周辺機器を使って機能を広げよう

### ■ 本体液晶ディスプレイとテレビ／外部ディスプレイの同時表示

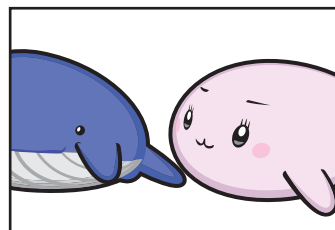
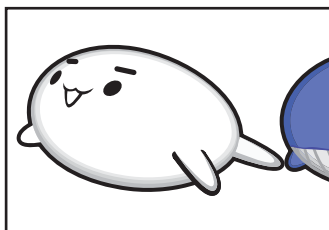
#### ● クローン表示（複製）

表示装置それぞれに画面を表示します。



#### ● 拡張表示

表示装置を1つの大きな画面として使用（拡張表示）します。



テレビ／外部ディスプレイに表示するには表示装置の設定を行ってください。

### メモ

- テレビ／外部ディスプレイと本体液晶ディスプレイを同時表示させる場合は、同時表示の種類や設定に合った色数／解像度で表示されます。
- 表示を切り替えたとき、システムによって自動的に解像度を変更される場合があります。本体液晶ディスプレイだけに表示を切り替えると、元の解像度に戻ります。
- テレビ／外部ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、テレビ／外部ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。
- 拡張表示では、スタート画面はメインディスプレイに設定した表示装置にのみ表示されます。
- 映像を再生するアプリケーションで使用する表示装置を変更したい場合は、アプリケーションを起動する前に表示装置を切り替えてください。起動中は、表示装置を切り替えることができません。クローン表示、拡張表示での再生はサポートしていません。
- 著作権保護された映像を、HDMI出力端子に接続したテレビ／外部ディスプレイに表示したい場合は、テレビ／外部ディスプレイだけに表示するよう設定してください。
- 「電源オプション」で省電力機能を設定してテレビ／外部ディスプレイの表示が消えた場合、キーあるいはタッチパッドの操作により表示が復帰します。また、スリープに設定してある場合は、電源スイッチを押してください。表示が復帰するまで10秒前後かかる場合がありますが、故障ではありません。

## FN + F4 キーを使う

FN キーを押したまま F4 キーを押すと、表示装置を選択する画面が表示されます。



(表示例)

FN キーを押したまま、F4 キーを押すたびに、項目の選択状態が移動します。目的の項目を選択したところで、FN キーから指をはなして、ENTER キーを押すと、表示装置が切り替わります。

各項目について説明します。

項目	概要
PC画面のみ	本体液晶ディスプレイだけに表示します。
複製	本体液晶ディスプレイと、テレビまたは外部ディスプレイにクローン表示します。
拡張	本体液晶ディスプレイと、テレビまたは外部ディスプレイに拡張表示します。
セカンドスクリーンのみ	テレビまたは外部ディスプレイだけに表示します (本体液晶ディスプレイには何も表示されません)。

### 3 テレビや外部ディスプレイを接続する

## 1 パソコンから取りはずす

### HDMI出力端子から取りはずす

- 1 HDMI出力端子からケーブルを抜く

### RGBコネクタから取りはずす

外部ディスプレイとパソコン本体の電源を切った状態で取りはずしてください。

- 1 Windowsを終了させてパソコン本体の電源を切る

**参照**▶ 電源の切りかた『取扱説明書』

- 2 外部ディスプレイの電源を切る

- 3 RGBコネクタからケーブルを抜く

## 2 表示について

外部ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、外部ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。

## 4章

### 周辺機器を使って機能を広げよう

# 4 マイクロホンやヘッドホンを使う

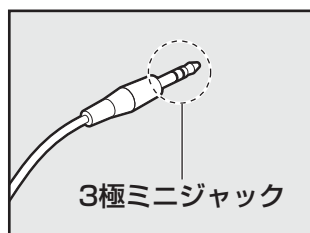
本製品には、マイクロホンやヘッドホンを接続できます。  
マイクロホンやヘッドホンを使うと、音声ソフトや音声を使ったチャットを行うことができます。

## 1 マイクロホンを使う

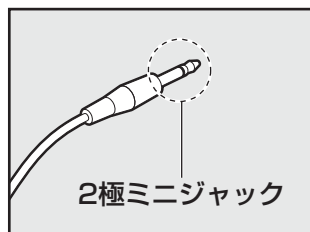
マイクロホンを使うときは、マイク入力端子に接続します。

### 1 使用できるマイクロホン

本製品で使用できるマイクロホンは次のとおりです。



- プラグは直径3.5mm3極ミニジャックタイプが使用できます。

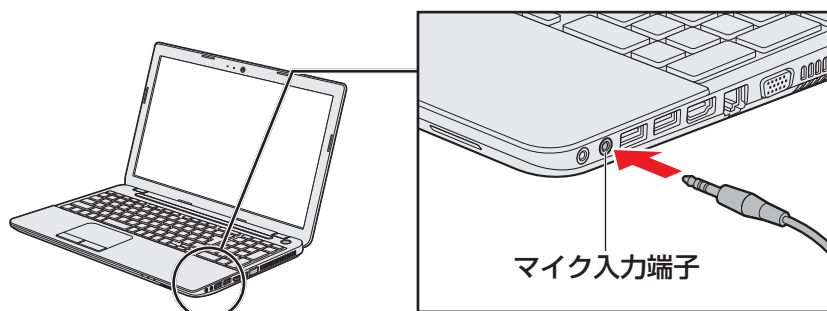


- 直径3.5mm2極ミニジャックタイプのマイクロホンでもマイクロホン本体にバッテリーなどを搭載し、電源供給を必要としないマイクロホンであれば使用できます。

音声認識ソフトとあわせて使用する場合は、各アプリケーションの取り扱い元が推奨するマイクロホンを使用してください。

## 2 接続する

### 1 マイクロホンのプラグをマイク入力端子に差し込む



取りはずすときは、マイク入力端子からマイクロホンのプラグを抜きます。

## 2 ヘッドホンを使う

ヘッドホン出力端子にヘッドホンを接続して、音楽や音声を聞くことができます。  
ヘッドホンのプラグは、直径3.5mmステレオミニジャックタイプを使用してください。

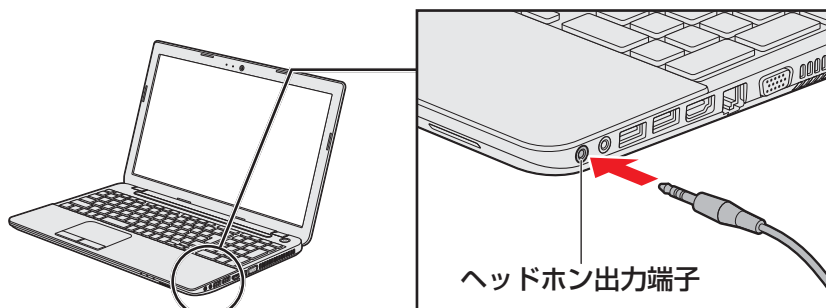
### お願い ヘッドホンの操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照 ▶ 「付録 1 - 9 - ヘッドホンの操作にあたって」

## 1 接続する

### 1 ヘッドホンのプラグをヘッドホン出力端子に差し込む



取りはずすときは、ヘッドホン出力端子からヘッドホンのプラグを抜きます。

## 2 ヘッドホンの音量調整

ヘッドホンの音量は **FN** + **F9** キーと **FN** + **F10** キー、またはWindowsの音量ミキサーで調節してください。

参照 ▶ 「2章 8 サウンド」

### \* Bluetooth 機能搭載モデルのみ

Bluetooth 機能搭載モデルには、Bluetooth 機能が搭載されています。

Bluetooth ワイヤレステクノロジーは、パソコンや周辺機器、携帯電話などの機器同士で無線でデータをやりとりできる、世界標準の通信方式です。

Bluetooth ワイヤレステクノロジーを搭載した機器であれば、お互いに通信相手を登録することで、簡単にデータのやりとりができます。

#### お願い Bluetooth 機能の操作にあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。

参照▶ 「付録 1 - 9 - Bluetooth について」

#### メモ

- Bluetooth のバージョンによっては本製品と通信できない Bluetooth 対応機器があります。本製品に搭載されている Bluetooth 機能のバージョンについては、「付録 5 - 3 Bluetooth の仕様」を確認してください。
- 2.4GHz 帯の無線 LAN または WiMAX が近距離で使用されていると通信速度の低下または通信エラーが発生する可能性があります。

## 1 Bluetooth通信が可能な状態にする

### 警告

- 心臓ペースメーカーを装着しているかたは、心臓ペースメーカーの装着部位から22cm以上離す  
電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- 電子機器の使用が制限されている場所ではパソコンの電源を切る  
パソコン本体を航空機や電子機器の使用が制限されている場所（病院など）に持ち込む場合は、無線通信機能を無効に設定したうえで、パソコンの電源を切ってください。ほかの機器に影響を与えることがあります。
  - ・ 無線通信機能は、**[FN]** + **[F12]** キーを押してOFFにすることができます。**[FN]** + **[F12]** キーを押して [機内モード オン] に設定し、ワイヤレスコミュニケーションLEDが消灯しているのを確認してください。
  - ・ スリープや休止状態では、パソコンが自動的に復帰することがあるため、飛行を妨げたり、ほかのシステムに影響を及ぼしたりすることがあります。
  - ・ 電源を切った状態でも、パソコンが自動的に起動するような設定のソフトウェアの場合は、あらかじめ設定を無効（解除）にしてください。
  - ・ ディスプレイを開くことで自動的に電源が入るパネルオープンパワーオン機能を設定している場合は、あらかじめ設定を無効（解除）にしてください。



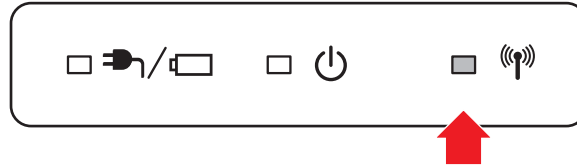
**1** **FN** + **F12** キーを押して、**[機内モード オフ]** にする

**FN** キーを押したまま **F12** キーを押すたびに、画面左上にメッセージが表示されて無線通信機能のON/OFFが切り替わります。

機内モード オフ：無線通信機能ON

機内モード オン：無線通信機能OFF

無線通信機能をONにすると、ワイヤレスコミュニケーション (📶) LEDが点灯します。

**2** ポインターを画面の上または下の右隅に合わせる

チャームが表示されます。

**参照**▶ チャームの操作方法『セットアップガイド』

**3** **[設定]** をクリックする

画面右側に **[設定]** 画面が表示されます。

**4** **[PC設定の変更]** をクリックする

**[PC設定]** 画面が表示されます。

**5** **[PCとデバイス]** をクリックする

**[PCとデバイス]** 画面が表示されます。

**6** **[Bluetooth]** をクリックして、**[Bluetooth]** を **[オン]** に設定する

**[オン]** にすると、Bluetooth機能がONになります。

**7** Bluetooth対応機器との接続設定を行う



# 5章

## ■ バッテリー駆動で使う

パソコンをモバイル使用する際に大事な存在であるバッテリーは、使いかたによっては長持ちさせることができます。

ここでは、充電や充電量の確認などについて説明しています。

- 1 バッテリーについて ..... 92
- 2 省電力の設定をする ..... 97

# 1 バッテリーについて

パソコンは、バッテリーパックを取り付けた状態で使用してください。

本製品を初めて使用するときは、電源コードとACアダプターを接続してバッテリーパックを充電してください。

バッテリーパックを充電すると、バッテリー駆動（電源コードとACアダプターを接続しない状態）で使うことができます。

バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめバッテリーパックの充電を完了（フル充電）させるか、フル充電したバッテリーパックを取り付けてください。

指定する方法・環境以外でバッテリーパックを使用した場合には、発熱、発火、破裂するなどの可能性があり、人身事故につながりかねない場合がありますので、十分ご注意をお願いします。『安心してお使いいただくために』や『取扱説明書』に、バッテリーパックを使用するときの重要事項が記述されています。バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

## 5章

### バッテリー駆動で使う

## 1 バッテリー充電量を確認する

バッテリー駆動で使う場合、バッテリーの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリーの充電量を確認しておく必要があります。

## 1 システムインジケータで確認する





電源コードとACアダプターを接続している場合、DC IN/Battery  /  LEDが点灯します。



DC IN/Battery  /  LEDは次の状態を示しています。

白色の点灯	充電完了
オレンジ色の点灯	充電中
オレンジ色の点滅	充電が必要 <b>参照</b> ▶ バッテリーの充電について「本節 <b>2</b> バッテリーを充電する」
消灯	・ バッテリーが装着されていない ・ 電源コードとACアダプターが接続されていない 上記のいずれにも当てはまらない場合は、バッテリー異常の可能性が あります。東芝PCあんしんサポートに連絡してください。

## 2 通知領域の [バッテリー] アイコンで確認する



通知領域の [バッテリー] アイコン (  または  ) の上にポインターを置くと、バッテリー充電量が表示されます。 [バッテリー] アイコン (  または  ) をクリックすると、電源プランなども表示されます。



**参照** 電源プランについて「本章 2 省電力の設定をする」

## 3 バッテリー充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリーの充電量が少なくなると、次のように警告します。

- DC IN/Battery  /  LED がオレンジ色に点滅する (バッテリーの残量が少ないことを示しています)
- バッテリーのアラームが動作する  
「電源オプション」で [プラン設定の変更] → [詳細な電源設定の変更] をクリックして表示される [詳細設定] タブの [バッテリー] → [低残量バッテリーの通知] や [低残量バッテリーの動作] で設定すると、バッテリーの残量が少なくなったことを通知したり、自動的に対処する動作を行います。





**参照** 省電力設定 (電源オプション) について「本章 2 省電力の設定をする」

上記のような警告が起こった場合はただちに次のいずれかの方法で対処してください。

- パソコン本体に電源コードと AC アダプターを接続し、充電する
- 電源を切ってから、フル充電のバッテリーパックと取り換える

購入時は休止状態が設定されています。バッテリー減少の警告が起こっても何も対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源が切れます。

### メモ

- 1 ヶ月以上の長期にわたり、電源コードと AC アダプターを接続したままパソコンを使用してバッテリー駆動を行わないと、バッテリー充電量が少しずつ減少します。このような状態でバッテリー充電量が減少したときは、DC IN/Battery  /  LED や [バッテリー] アイコンで充電量の減少が表示されないことがあります。1 ヶ月に 1 度は再充電することを推奨します。
- 長時間使用しないでバッテリーが自然に放電しきってしまったときは、警告音も鳴らず DC IN/Battery  /  LED でも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

## 4 時計用電池

本製品には、取りはずしができるバッテリーパックのほかに、内蔵時計を動かすための時計用電池が内蔵されています。

時計用電池が切れると、メッセージが表示されます。

この場合、時計用電池を交換する必要がありますので、東芝 PC あんしんサポートに相談してください。

## 2 バッテリーを充電する

充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。



### お願い バッテリーを充電するにあたって

- あらかじめ、次の説明を確認してください。





参照 ▶ 「付録 1 - 10 - バッテリーを充電するにあたって」

## 1 充電方法

### 1 パソコン本体にACアダプターを接続し、電源コードの電源プラグをコンセントに差し込む

DC IN/Battery  /  LEDがオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。電源のON/OFFにかかわらずフル充電になるまで充電されます。

### 2 DC IN/Battery / LEDが白色になるまで充電する

バッテリーの充電中はDC IN/Battery  /  LEDがオレンジ色に点灯します。DC IN/Battery  /  LEDが消灯している場合は、電源が供給されていません。電源コード、ACアダプターの接続を確認してください。

### メモ

- パソコン本体を長時間ご使用にならないときは、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いてください。

### ■ 充電完了までの時間

バッテリー充電時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。周囲の温度が低いとき、バッテリーパックの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けているとき、アプリケーションを使用しているときは、充電完了まで時間がかかることがあります。詳しくは、『dynabook \* \* \* \* (お使いの機種名) シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

### ■ 使用できる時間

バッテリー駆動での使用時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。詳しくは、『dynabook \* \* \* \* (お使いの機種名) シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

### ■ バッテリー駆動時の処理速度

高度な処理を要するソフトウェア (3Dグラフィックス使用など) を使用する場合は、十分な性能を発揮するために電源コードとACアダプターを接続してご使用ください。

## ■使っていないときの充電保持時間

パソコン本体を使わないで放置していても、バッテリー充電量は少しずつ減っていきます。バッテリーの保持時間は、放置環境などによって異なります。

スリープを実行した場合、放電しきるまでの時間が非常に短いため、バッテリー駆動時は休止状態、またはハイブリッドスリープにすることをおすすめします。

**参照** ▶ ハイブリッドスリープについて「2章 2 - 1 - 2 スリープ機能を強化する」

## 2 バッテリーを長持ちさせる

本製品のバッテリーをより有効に使うための工夫を紹介します。

### バッテリーの機能低下を遅くする方法

次の点に気をつけて使用すると、バッテリーの機能低下を遅くすることができます。

- パソコンを長時間使用しないときは、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 1ヵ月以上の長期間バッテリーを使わない場合は、パソコン本体からバッテリーをはずして、風通しの良い涼しい場所に保管してください。
- おもに電源コードとACアダプターを接続してパソコンを使用し、バッテリーパックの電力をほとんど使用しないなど、100%の残量近辺で充放電をくり返すとバッテリーの機能低下を早める場合があります。
- 「TOSHIBA ecoユーティリティ」で「eco充電モード」を有効にすると、バッテリー充電完了時の容量をフル充電より少なめにおさえて、バッテリーの機能低下を遅らせることができます。

**参照** ▶ 「本章 2 - 2 TOSHIBA ecoユーティリティ」

- 1ヵ月に1度は、電源コードとACアダプターをはずしてバッテリー駆動でパソコンを使用してください。

### バッテリー消費をおさえる方法

バッテリーの消費をおさえて、本製品をバッテリー駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

- こまめに休止状態にする

**参照** ▶ 「2章 2 - 2 休止状態」

- 入力しないときは、ディスプレイを閉じておく

**参照** ▶ 「2章 2 - 3 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する」

- 省電力を設定する

**参照** ▶ 「本章 2 省電力の設定をする」

### バッテリーの充電能力を調べる

バッテリーパックは、消耗品です。「東芝PCヘルスマニタ」を使用すると、バッテリーパックを交換する目安を調べることができます。

**参照** ▶ 「東芝PCヘルスマニタ」について『取扱説明書』

### 3 バッテリーパックを保管する

バッテリーパックを保管するときは、次の説明をお読みください。

また、『安心してお使いいただくために』や『取扱説明書』にも、バッテリーパックを保管するときの重要事項が記述されています。あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

- 充電状態のバッテリーパックを放置しておくともバッテリーが機能低下し、もう一度充電したときの容量が減少してしまいます。この機能低下は、保存温度が高いほど早く進みます。
- バッテリーパックの電極（金属部分）がショートしないように、金属製ネックレス、ヘアピンなどの金属類と混在しないようにしてください。
- 落下したり衝撃がかかったりしないよう安定した場所に保管してください。

## 5章

### バッテリー駆動で使う



## 1 電源オプション

「電源オプション」ではパソコンの電源を管理して、電力の消費方法を状況に合わせて変更することができます。

バッテリー駆動でパソコンを使用しているときに、消費電力を減らして長い時間使用するように設定したり、電力を使ってパフォーマンスの精度を上げるように設定したりできます。

これらの電源設定を電源プランといいます。

「電源オプション」では、使用環境に合わせて設定された電源プランがあらかじめ用意されていますので、使用環境が変化したときに電源プランを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更することができます。

購入時には、次の電源プランが用意されています。

### ● バランス

必要なときは電力を使ってパフォーマンスを最大にし、動作させていないときは電力を節約します。

### ● eco

東芝の推奨する設定により、消費電力をおさえます。

**参照**▶「本節 2 TOSHIBA eco ユーティリティ」

### ● 省電力

パソコンの動作速度などのパフォーマンスを低下させ、消費電力をおさえます。

バッテリー駆動のときにこのプランを使用すると、バッテリーが通常より長くもちます。

### ● 高パフォーマンス

パフォーマンスと応答速度を最大にします。消費電力が増える可能性があります。





バッテリー駆動のときにこのプランを使用すると、バッテリーが通常よりも早く消費されません。

\*「省電力」、「高パフォーマンス」は「追加プランの表示」の  をクリックすると表示されます。

各電源プランの設定を変更したり、新しく電源プランを追加することもできます。

**参照**▶ 電源プランの設定変更、新規追加『「電源オプション」のヘルプ』

### 起動方法

- 1 スタート画面で、ポインターを下側に移動する
- 2 画面左下の  をクリックする
- 3 [Windows システムツール] の [  コントロールパネル ] をクリックする
- 4 [  システムとセキュリティ ] → [  電源オプション ] をクリックする  
「電源オプション」が起動します。

### メモ

- 「電源オプション」は、「TOSHIBA ecoユーティリティ」からも起動できます。

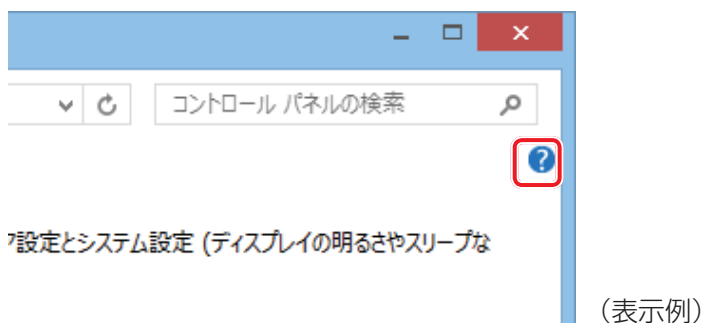
**参照** ▶ 本節 **2** TOSHIBA ecoユーティリティ

## 5章

### バッテリー駆動で使う

### ヘルプの起動方法

- 1 「電源オプション」を起動後、画面右上の  ボタンをクリックする



- 2 表示された一覧から知りたい項目をクリックする  
該当するページが表示されます。

## 2 TOSHIBA ecoユーティリティ

「TOSHIBA ecoユーティリティ」では、パソコンの消費電力をおさえるためのさまざまな設定が行えます。

### ■ecoモード

「ecoモード」を有効にすると、東芝の推奨する設定によって、電源プランやディスプレイの明るさなどを自動的に調節して、消費電力をおさえます。

### ■貢献履歴

消費電力の低減によって、どれだけ環境の保護に貢献できたかが、イメージやグラフなどで表示されます。

一日ごと、または月ごとに確認できます。

### ■ピークシフト

昼間の電力消費の一部を夜間に移行させて電力を効果的に活用し、電力需要の平準化を実現します。たとえば夏期の日中など電力使用のピーク時間帯には自動的にAC電源からの電力供給を止め、電力需要の少ない時間帯（夜間など）に充電したバッテリーでパソコンを動作させる電源管理機能を備えています。

ピークシフト機能は、パソコン単体でも使用できますが、複数台数で同じ時間帯に制御することによってその効果を発揮します。制御するパソコンの台数は多ければ多いほど効果が大きくなります。

### お願い

- ピークシフトをご利用の場合、自動的にバッテリー駆動に切り替わり、CPUやグラフィックアクセラレーターの性能が十分に発揮されない場合があります。映像や音楽を視聴する場合、ピークシフトを一時的に無効にすることをおすすめします。

### ■バッテリーライフサイクル

バッテリーの充電方法の「eco充電モード」を有効にすると、バッテリーフル充電時の容量をおさえて、バッテリーの機能低下を遅くできます。パソコンの電源コードとACアダプターをコンセントに接続したまま使用される方におすすめです。ただし、バッテリーのフル充電の容量が少なくなるため、バッテリーでの駆動時間は短くなります。

### メモ

- 表示されるメニューは、モデルにより異なります。

TOSHIBA eco ユーティリティの設定は、次の手順で行います。

**1** スタート画面で、ポインターを下側に移動する

**2** 画面左下の  をクリックする

**3** [TOSHIBA] の  eco ユーティリティ をクリックする

初回起動時は、[はじめにお読みください] 画面が表示されますので、[同意する] をチェックし、[OK] ボタンをクリックしてください。

[TOSHIBA eco ユーティリティ] 画面が表示されます。



(表示例)

**4** 画面左側から設定するメニューをクリックする

「TOSHIBA ecoユーティリティ」の詳細は、ヘルプを参照してください。

### ヘルプの起動方法

**1** [TOSHIBA ecoユーティリティ] 画面で [ヘルプ] をクリックする

「TOSHIBA ecoユーティリティ」のヘルプが表示されます。



## 役立つ操作集

### ディスプレイ省電テクノロジー

「ディスプレイ省電テクノロジー機能」は、本体液晶ディスプレイに表示する映像のコントラストと明るさを自動的に調整することにより、パソコンの電力消費を低減させるものです。

バッテリー駆動で使用中にこの機能が使用できます。

本機能は購入時の状態では、有効に設定されています。本機能を無効にする場合には、次の手順で設定してください。

- ① スタート画面の [デスクトップ] をクリックする
- ② デスクトップ画面上のウィンドウやアイコンなどが表示されていない場所にポインターを移動し、右クリックする
- ③ [グラフィックス・プロパティ] をクリックする
- ④ [電源] をクリックする
- ⑤ 右上の [バッテリー駆動] タブをクリックする
- ⑥ [ディスプレイ省電テクノロジー] で [オフ] をクリックする
- ⑦ [適用] をクリックする  
メッセージが表示されます。確認して [はい] ボタンをクリックしてください。

本機能を有効にする場合は、[ディスプレイ省電テクノロジー] で [オン] をクリックしてください。



# 6章

## システム環境の変更



本製品を使用するときの、システム上のさまざまな環境を設定する方法について説明しています。

- 1 東芝システムセッティング ..... 104
- 2 パスワードセキュリティ ..... 105

# 1 東芝システムセッティング

「東芝システムセッティング」を使い、Windows上でシステムの設定を変更できます。複数のユーザーで使用する場合も、設定内容は全ユーザーで共通になります。

## 設定方法

- 1 スタート画面で、ポインターを下側に移動する
- 2 画面左下の  をクリックする
- 3 [TOSHIBA] の  システムセッティング] をクリックする  
「東芝システムセッティング」が起動します。
- 4 各機能を設定し、[OK] ボタンをクリックする  
[キャンセル] ボタンをクリックした場合は、設定が変更されません。

## 6章

### システム環境の変更

再起動が必要な項目の設定を変更すると、パソコンの再起動を行うようメッセージが表示されます。

この場合、すぐに再起動を行って設定を有効にしてください。



パスワードとは、パソコンやWindowsの起動時などに入力する、認証用の文字列のことです。パスワードが設定されている場合、あらかじめ決めた文字列を正しく入力しないと起動できません。

このため、自分にしかわからないパスワードを設定しておけば、ほかの人がパソコンやWindowsを起動できなくなるため、データを見られたり、誤って消されてしまう心配が少なくなります。

一度設定したパスワードは、後から変更したり、削除したりすることができます。

パスワードにはいろいろな種類があります。

#### ● Windowsパスワード

Windowsの起動やスクリーンセーバーからの復帰のときに、パスワードを入力しなければ起動できなくなります。

使用者として登録しているユーザーが、それぞれ別々に設定できます。

#### ● ユーザーパスワード (BIOSパスワード)

電源を入れるときや休止状態から復帰するときに、パスワードを入力しなければ起動できなくなります。

#### ● スーパーバイザーパスワード (BIOSパスワード)

BIOSセットアップの設定を変更できないようにするなど、いくつかのパソコン本体の設定について制限をかけられます。管理者ユーザーが使用します。

#### ● HDDパスワード

本体のハードディスクを保護します。電源を入れるときにHDDパスワードを入力しなければ起動できなくなります。万が一パスワードを忘れた場合、永久にハードディスクを使用できなくなる、非常に強固なセキュリティです。



#### メモ

- スーパーバイザーパスワードとユーザーパスワードでは、違う文字列を使用してください。
- パスワードを登録した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えてください。
- パスワードを入力するときは、コード入力や貼り付け（ペースト）などの操作は行わず、キーボードの文字キーを押して直接入力してください。

#### お願い

- パスワードを忘れてしまって、パスワードを解除できなくなった場合は、使用している機種を確認後、東芝PCあんしんサポートに連絡してください。  
パスワードの解除を東芝PCあんしんサポートに依頼する場合は有料です。HDDパスワードを忘れてしまった場合は、ハードディスクは永久に使用できなくなり、交換対応となります。  
この場合も有料です。またどちらの場合も、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

### パスワードに使用できる文字

ユーザーパスワード、スーパーバイザーパスワード、HDDパスワードに使用できる文字は次のとおりです。

アルファベットの大文字と小文字は区別されません。

使用できる文字	アルファベット (半角)	abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
	数字 (半角)	0123456789
	記号の一部 (半角)	- = [ ] ; ' . / ` & ~ (スペース)
使用できない文字	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 全角文字 (2バイト文字)</li><li>・ 日本語入力システムの起動が必要な文字 【例】 漢字、カタカナ (全角/半角)、ひらがな、日本語入力システムが供給する記号 など</li><li>・ 記号の一部 (半角) 【例】 ; (パーチカルライン) _ (アンダーバー) ¥ (エン) など</li><li>・ ほかのキー ( <b>SHIFT</b> キーや <b>CAPSLOCK 英数</b> キーなど ) と同時に使用しないと入力できない文字</li></ul>	

パスワード登録時に警告メッセージが表示された場合は、登録しようとした文字列に使用できない文字が含まれています。この場合、もう一度別の文字列を入力し直してください。警告が表示されない場合も、上記「使用できない文字」に該当する文字は使用しないでください。また文字列は必ずキーボードから1文字ずつ直接入力してください。



# 1 ユーザーパスワード

「ユーザーパスワード」は、電源を入れるときや休止状態から復帰するときに、決まった文字を入力しなければ起動できなくする機能です。

ユーザーパスワードの登録は、「東芝パスワードユーティリティ」で設定します。また、登録した文字列は、パスワードファイルを作成して確認することをおすすめします。

## 1 ユーザーパスワードの登録

ユーザーパスワードを登録する手順を説明します。

- 1 スタート画面で、ポインターを下側に移動する
- 2 画面左下の  をクリックする
- 3 [TOSHIBA] の [ パスワードユーティリティ] をクリックする  
「東芝パスワードユーティリティ」が起動します。
- 4 [ユーザーパスワード] タブで [登録] ボタンをクリックする



(表示例)

[ユーザーパスワードの登録] 画面が表示されます。

### 5 [入力:] にパスワードを入力する

パスワードは10文字以内で入力します。



(表示例)

**参照** ▶ パスワードに使用できる文字「本節 - パスワードに使用できる文字」

パスワードは1文字ごとに「\*」(アスタリスク)で表示されますので、画面で確認できません。間違えないよう、気をつけて入力してください。

パスワードを入力するときは、コード入力や貼り付け(ペースト)などの操作を行わず、キーボードの文字キーを押して直接入力してください。

### 6 [確認入力:]にもう一度パスワードを入力する

### 7 [登録] ボタンをクリックする

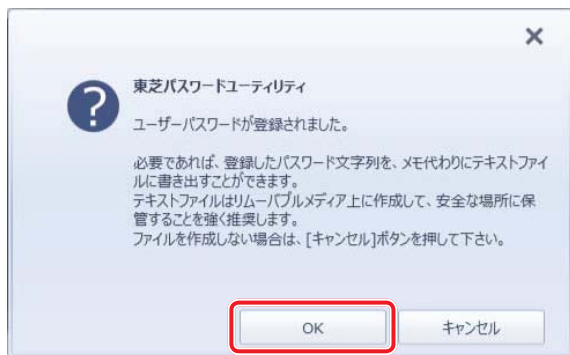
入力エラーのメッセージが表示された場合は、[OK] ボタンをクリックして画面を閉じ、手順 **5** から操作をやり直してください。

### 8 パスワードファイルを作成する場合は [OK] ボタンをクリックする

パスワードの文字列をファイルとして保存しておくことを推奨するメッセージが表示されます。

このファイルをパスワードファイルと呼びます。

パスワードファイルを保管しておけば、パスワードを忘れた場合、本機または本機以外の機器でパスワードを確認することができます。



(表示例)

パスワードファイルを作成しない場合は [キャンセル] ボタンをクリックしてください。[OK] ボタンをクリックすると、[名前を付けて保存] 画面が表示されます。

## 9 パスワードファイルを作成する

パスワードファイルの保存先は、USBフラッシュメモリなどの記録メディアを強くおすすめします。あらかじめ用意しておいてください。

- ① 記録メディアをセットする
- ② 保存先を選択する
- ③ [ファイル名] にファイル名を入力する
- ④ [保存] ボタンをクリックする



パスワードファイルが、選択した保存先に作成されます。

[東芝パスワードユーティリティ] 画面が表示されます。

## 10 必要に応じて、[パスワードの注釈:] を入力する



[パスワードの注釈] にはパスワードのヒントとなる文字列を登録できます。登録すると、パスワードの入力が必要なときに、登録した文字列が表示されます。

使用できる文字列はユーザーパスワードと同様です。

**参照** ▶ パスワードに使用できる文字について「本節 - パスワードに使用できる文字」

パスワード文字列そのものを登録しないでください。

### 11 [OK] ボタンをクリックする

ユーザーパスワードが登録されます。

#### お願い

- パスワードファイルを保存した記録メディアは、安全な場所に保管してください。

#### メモ

- パスワードを忘れてしまったときのために、必ずパスワードを控えてください。

## 2 ユーザーパスワードの削除

ユーザーパスワードを削除するには、次の手順を実行してください。

### 1 スタート画面で、ポインターを下側に移動する

### 2 画面左下の をクリックする

### 3 [TOSHIBA] の [パスワードユーティリティ] をクリックする

「東芝パスワードユーティリティ」が起動します。

認証画面が表示されるので、パスワードで認証を行ってください。

**参照** ▶ 認証について「本節 **3** パスワードの入力」

### 4 [ユーザーパスワード] タブで [削除] ボタンをクリックする



[ユーザーパスワードの削除] 画面が表示されます。

## 5 [削除] ボタンをクリックする



認証画面が表示されます。  
パスワードで認証を行ってください。

**参照**▶ 認証について「本節 3 パスワードの入力」

認証は、「東芝パスワードユーティリティ」を起動したときと同じユーザー権限で行ってください。

確認のメッセージが表示されます。



## 6 メッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする



パスワードが削除されます。

### 3 ユーザーパスワードの変更

ユーザーパスワードを変更するには、次の手順を実行してください。

- 1 スタート画面で、ポインターを下側に移動する
- 2 画面左下の  をクリックする
- 3 [TOSHIBA] の  [パスワードユーティリティ] をクリックする  
「東芝パスワードユーティリティ」が起動します。  
認証画面が表示されるので、パスワードで認証を行ってください。  
**参照**▶ 認証について「本節 3 パスワードの入力」
- 4 [ユーザーパスワード] タブで [変更] ボタンをクリックする



(表示例)

[ユーザーパスワードの変更] 画面が表示されます。

- 5 [入力:] に新しいパスワードを入力する

パスワードは10文字以内で入力します。

**参照**▶ パスワードに使用できる文字「本節 - パスワードに使用できる文字」



(表示例)

パスワードは1文字ごとに「\*」(アスタリスク)で表示されますので、画面で確認できません。間違えないよう、気をつけて入力してください。

パスワードを入力するときは、コード入力や貼り付け(ペースト)などの操作を行わず、キーボードの文字キーを押して直接入力してください。



**6** [確認入力:]にもう一度パスワードを入力する**7** [変更] ボタンをクリックする

認証画面が表示されます。

パスワードで認証を行ってください。

ここでは、まだパスワードは変更されていないので、本手順 **5**、**6** で入力したのではなく、その前に登録しておいたパスワードを入力してください。

**参照**▶ 認証について「本節 **3** パスワードの入力」

認証は、「東芝パスワードユーティリティ」を起動したときと同じユーザー権限で行ってください。

パスワードが変更されます。

変更したパスワードの文字列をファイルとして保存しておくことを推奨するメッセージが表示されます。

**8** パスワードファイルを作成する場合は [OK] ボタンをクリックする

パスワードファイルを作成しない場合は [キャンセル] ボタンをクリックしてください。

**参照**▶ パスワードファイルの作成方法「本項 - **1** ユーザーパスワードの登録」の手順 **9**

# 2 スーパーバイザーパスワード

「スーパーバイザーパスワード」は、BIOS セットアップの設定を変更できないようにするなど、いくつかのパソコン本体の設定について制限をかける機能です。

「東芝パスワードユーティリティ」で、Windows 上からスーパーバイザーパスワードの設定や設定の変更ができます。なお、BIOS セットアップでも設定できます。




- 先にユーザーパスワードが登録されている場合は、スーパーバイザーパスワードの登録はできません。スーパーバイザーパスワードとユーザーパスワードを両方登録する場合は、一度ユーザーパスワードを削除し、スーパーバイザーパスワードを登録してからもう一度ユーザーパスワードを登録してください。
- スーパーバイザーパスワードを登録すると、ユーザーポリシーを設定できます。ユーザーポリシーとは、複数のユーザーでパソコンを使用している場合の、各ユーザーの権限を設定する機能です。
- スーパーバイザーパスワードとユーザーパスワードでは、違うパスワードを使用してください。
- パスワードを登録した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。
- BIOS セットアップでは、「スーパーバイザーパスワード」のことを「管理者パスワード」と呼びます。

## 起動方法

**1** スタート画面で、ポインターを下側に移動する

**2** 画面左下の  をクリックする

**3** [TOSHIBA] の  [パスワードユーティリティ] をクリックする

「東芝パスワードユーティリティ」が起動します。

パスワードを登録している場合は、スーパーバイザーパスワードで認証を行ってください。

**参照** ▶ 認証について「本節 **3** パスワードの入力」

**4** [スーパーバイザーパスワード] タブで設定する

## 操作方法

### ■登録、削除、変更

スーパーバイザーパスワードの登録、削除、変更などの設定方法は、「東芝パスワードユーティリティ」でのユーザーパスワードの設定方法と同様です。

ユーザーパスワードの設定を確認し、画面の指示に従って操作してください。

**参照** ユーザーパスワード「本節 1 ユーザーパスワード」

なお、スーパーバイザーパスワードを削除すると、ユーザーパスワードも同時に削除されます。

### ■一般ユーザーの操作を制限する

スーパーバイザーパスワードを登録すると、スーパーバイザーパスワードを知らないユーザーは「東芝システムセッティング」の設定を変更できないようにする、などいくつかの制限を加えることができます。

スーパーバイザーパスワードを登録した状態で、次の手順を実行してください。

#### 1 「東芝パスワードユーティリティ」を起動する

認証画面が表示されるので、スーパーバイザーパスワードで認証を行ってください。

**参照** 認証について「本節 3 パスワードの入力」

#### 2 [スーパーバイザーパスワード] タブで [ユーザーポリシー] の [設定] ボタンをクリックする

#### 3 必要に応じて項目をチェックする

#### 4 [設定] ボタンをクリックする

#### 5 表示されたメッセージの内容を確認し、[はい] または [OK] ボタンをクリックする

認証画面が表示されます。

スーパーバイザーパスワードで認証を行ってください。

**参照** 認証について「本節 3 パスワードの入力」

#### 6 表示されたメッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする

### 3 パスワードの入力

#### お願い

- パスワード入力画面で自動的に電源が切れると、LAN、タイマーからの許可によるWake-upができませんので、電源を入れ直してください。

#### 電源を入れたとき／休止状態から復帰するとき

パスワードが設定されている場合、パソコンまたはBIOSセットアップ起動時にパスワード入力画面が表示されます。

この場合は、次の手順を行ってパソコンまたはBIOSセットアップを起動します。

#### 1 登録したとおりにパスワードを入力し、**ENTER** キーを押す

NUM LOCK LEDは、パスワードを登録したときと同じ状態にしてください。

パスワードの入力ミスが3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。

パスワードを入力せずに約1分経過した場合も、自動的に電源が切れます。

その場合は、電源を入れ直してください。

## 6章

## システム環境の変更

#### 東芝パスワードユーティリティを起動したとき

ユーザーパスワードを登録している場合、「東芝パスワードユーティリティ」を起動すると、認証を求める画面が表示されます。次の方法で認証を行います。

#### 1 認証を求める画面が表示されたら、パスワードを入力する

#### 2 【確認】 ボタンをクリックする

#### 1 パスワードを忘れてしまった場合

##### ● パスワードファイルを確認する

電源を入れるときにパスワードが必要になった場合は、本機以外の機器でパスワードファイルを確認してください。

上記の方法でパスワードの確認ができなかった場合は、東芝PCあんしんサポートに相談してください。パスワードの解除を東芝PCあんしんサポートに依頼する場合は、有料です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

## 4 HDDパスワード

HDDパスワードは、ハードディスクを保護するセキュリティ機能です。  
HDDパスワードの登録、削除、変更などの設定は、BIOSセットアップで行います。

### 1 注意事項

登録したパスワードの内容は、メモをとるなどして、安全な場所に保管しておくことを強くおすすめします。

#### お願い

- 万が一登録したパスワードを忘れた場合、修理・保守対応ではパスワードを解除できません。この場合、ハードディスクは永久に使用できなくなり、交換対応となります。この場合、有料での交換となります。  
ハードディスクが使用できなくなったことによる、お客様またはその他の個人や組織に対して生じた、いかなる損失に対しても、当社はいっさい責任を負いません。  
HDDパスワードの設定については、この点を十分にご注意いただいたうえでご使用ください。

### 2 HDDパスワードの種類

HDDパスワードは、HDDユーザーパスワードとHDDマスターパスワードの2つを設定することが可能です。

#### ■ HDDユーザーパスワード

各パソコンの使用者自身が設定することを想定したパスワードです。  
HDDマスターパスワードを削除すると、同時にHDDユーザーパスワードも削除されます。

#### ■ HDDマスターパスワード

管理者などがパソコン本体の環境設定を管理／保守するために設定することを想定したパスワードです。

HDDマスターパスワードはHDDユーザーパスワードの代わりに使えます。HDDユーザーパスワードを忘れた場合でも、HDDマスターパスワードを入力してハードディスクにアクセスできます。

なお、HDDマスターパスワードのみを登録することはできません。

組織などでHDDマスターパスワードを用いた運用を検討した場合、各パソコンのユーザーに対してパソコン本体を配付する前に、あらかじめ管理者がBIOSセットアップでHDDマスターパスワードと仮のHDDユーザーパスワードを設定しておく必要があります。

### 3 HDDパスワードの登録

\* この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。  
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

HDD マスターパスワードの項目は、BIOS セットアップの「HDD/SSDパスワード」の「モード」が「マスター+ユーザー」の場合のみ表示されます。

「マスター+ユーザー」の場合は、HDD マスターパスワードを設定し、続けてHDD ユーザーパスワードの設定を行います。

**1** データを保存し、**[SHIFT]** キーを押しながら **[シャットダウン]** をクリックして電源を切る

**参照**▶ 電源の切りかた『取扱説明書』

**2** 電源スイッチを押し、すぐに **[F2]** キーを数回押して、BIOS セットアップを起動する

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。

パスワードを入力して **[ENTER]** キーを押してください。

**3** **[セキュリティ]** メニューでカーソルを **[HDD/SSDパスワード]** の下にある **[ユーザー]** の **[設定なし]** に合わせ、**[ENTER]** キーを押す

HDD マスターパスワードの場合は、**[マスター]** の **[設定なし]** にカーソルを合わせて **[ENTER]** キーを押してください。

カーソルが **[新しいパスワードを入力してください]** に移動し、パスワードが入力できる状態になります。

**4** パスワードを入力する

パスワードは10文字以内で入力します。

**参照**▶ パスワードに使用できる文字「本節 - パスワードに使用できる文字」

パスワードは1文字ごとに **[\*]** (アスタリスク) で表示されますので、画面で確認できません。間違えないよう、気をつけて入力してください。

**5** **[ENTER]** キーを押す

カーソルが **[新しいパスワードを確認してください]** に移動します。

**6** もう一度パスワードを入力する

確認のため、手順 **4** と同じパスワードをもう一度入力してください。

**7** **[ENTER]** キーを押す

パスワードが登録され、**[HDD/SSDパスワード]** の **[ユーザー]** に「設定済み」と表示されます。

2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。**[ENTER]** キーを押し、手順 **3** からやり直してください。

**8** [終了] メニューでカーソルを [変更を保存して終了する] に合わせ、**ENTER** キーを押す  
確認の画面が表示されます。

**9** カーソルを [はい] に合わせ、**ENTER** キーを押す  
設定した内容が保存され、Windows が起動します。

## 4 HDDパスワードの削除

\* この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。  
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

**1** データを保存し、**SHIFT** キーを押しながら [シャットダウン] をクリックして電源を切る

**参照** ▶ 電源の切りかた『取扱説明書』

**2** 電源スイッチを押し、すぐに **F2** キーを数回押して、BIOS セットアップを起動する

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。

パスワードを入力して **ENTER** キーを押してください。

**3** [セキュリティ] メニューでカーソルを [HDD/SSDパスワード] の下にある [ユーザー] の [設定済み] に合わせ、**ENTER** キーを押す

HDD マスターパスワードの場合は、[マスター] の [設定済み] にカーソルを合わせて **ENTER** キーを押してください。

カーソルが [現在のパスワードを入力してください] に移動し、パスワードが入力できる状態になります。

**4** 登録してあるパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに [\*] (アスタリスク) が表示されます。

**5** **ENTER** キーを押す

カーソルが [新しいパスワードを入力してください] に移動します。

入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。**ENTER** キーを押し、手順 **3** からやり直してください。

**6** **ENTER** キーを押す

ここでは何も入力しません。カーソルが [新しいパスワードを確認してください] に移動します。

### 7 **ENTER** キーを押す

ここでは何も入力しません。パスワードが削除され、[HDD/SSDパスワード] の [ユーザー] に「設定なし」と表示されます。

### 8 [終了] メニューでカーソルを [変更を保存して終了する] に合わせ、**ENTER** キーを押す

確認の画面が表示されます。

### 9 カーソルを [はい] に合わせ、**ENTER** キーを押す

設定した内容が保存され、Windowsが起動します。

[HDD/SSDパスワード] の [モード] で [マスター+ユーザー] を選択した場合は、HDD マスターパスワードの削除を行うと、同時にHDD ユーザーパスワードも削除されます。HDD ユーザーパスワードのみを削除することはできません。

## 5 HDDパスワードの変更

\* この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。  
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

### 1 データを保存し、**SHIFT** キーを押しながら [シャットダウン] をクリックして電源を切る

**参照** ▶ 電源の切りかた『取扱説明書』

### 2 電源スイッチを押し、すぐに **F2** キーを数回押して、BIOS セットアップを起動する

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。

パスワードを入力して **ENTER** キーを押してください。

### 3 [セキュリティ] メニューでカーソルを [HDD/SSDパスワード] の下にある [ユーザー] の [設定済み] に合わせ、**ENTER** キーを押す

HDD マスターパスワードの場合は、[マスター] の [設定済み] にカーソルを合わせて **ENTER** キーを押してください。

カーソルが [現在のパスワードを入力してください] に移動し、パスワードが入力できる状態になります。

### 4 登録してあるパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに [\*] (アスタリスク) が表示されます。

### 5 **ENTER** キーを押す

カーソルが [新しいパスワードを入力してください] に移動します。

入力したパスワードが正しくない場合は、エラーメッセージが表示されます。

**ENTER** キーを押し、手順 **3** からやり直してください。



**6** 新しいパスワードを入力し、**ENTER** キーを押す

パスワードは1文字ごとに[\*]（アスタリスク）で表示されますので、画面で確認できません。間違えないよう、気をつけて入力してください。  
カーソルが「新しいパスワードを確認してください」に移動します。

**7** もう一度新しいパスワードを入力し、**ENTER** キーを押す

新しいパスワードが登録され、[HDD/SSDパスワード]の[ユーザー]に「設定済み」と表示されます。  
2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。**ENTER** キーを押し、手順**3**からやり直してください。

**8** [終了]メニューでカーソルを「変更を保存して終了する」に合わせ、**ENTER** キーを押す

確認の画面が表示されます。

**9** カーソルを「はい」に合わせ、**ENTER** キーを押す

設定した内容が保存され、Windowsが起動します。

**6** HDDパスワードの入力

HDDパスワードが設定されている場合、電源を入れるとパスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。

この場合は、次のようにするとパソコン本体が起動します。

**お願い**

- パスワード入力画面で自動的に電源が切れると、LAN、タイマーからの許可によるWake-upができませんので、電源を入れ直してください。

**1** 設定したとおりにHDDパスワードを入力し、**ENTER** キーを押す

NUM LOCK LEDは、パスワードを設定したときと同じ状態にしてください。  
HDDパスワードの入力ミスが3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。  
HDDパスワードを入力せずに約1分経過した場合も、自動的に電源が切れます。  
その場合は、電源を入れ直してください。

 **メモ**

- ユーザーパスワードとHDDパスワードの両方を設定してある場合は、ユーザーパスワード→HDDパスワードの順に認証が求められます。ただし、ユーザーパスワードとHDDパスワードが同一の文字列の場合は、ユーザーパスワードの認証終了後、HDDパスワードの認証は省略されます。



# 7章

## ■ パソコンの動作がおかしいときは

パソコンの操作をされていて困ったときに、どうしたら良いかを説明しています。

「dynabook.com」で情報を調べる方法なども紹介しています。

トラブルが起こったときは、あわてずに、この章を読んで、解消方法を探してみてください。

- 1 トラブルを解消するまでの流れ..... 124
- 2 Q&A集..... 126

# 1

## トラブルを解消するまでの流れ

お使いのパソコンに起こったトラブルについて、解決方法を見つけていきましょう。

### 1 トラブルの原因をつき止めよう

パソコンに起こるトラブルは、その原因がどこにあるかによって解決策が異なります。そのために、パソコンの構造をある程度知っておくことが必要です。ここでは、パソコンの構成とトラブル対処法を紹介します。

#### ■パソコンを構成する3つの部分



#### ●アプリケーションソフトウェアとは

メールやインターネットは、アプリケーションソフトウェアの機能です。Word（文書作成ソフト）や Excel（表計算ソフト）、ウイルスチェックソフトもアプリケーションソフトウェアの代表的なものです。それぞれ製造元が異なります。

#### ●システム、ドライバーとは

システムは、オペレーティングシステム、OSともいい、パソコンを動かすための基本的な働きをします。本製品のシステムはWindows 8.1です。

ドライバーは、周辺機器とシステムを連携する役割をします。ドライバーがないと、周辺機器は使用できません。代表的なドライバーに、ディスプレイドライバーやサウンドドライバーなどがあります。基本的なドライバーはシステムが標準装備していますが、周辺機器製品に専用のドライバーが付属している場合もあります。

#### ●ハードウェアとは

バッテリー、ACアダプター、ディスプレイ、キーボード、ハードディスク、CPUなどの、パソコン本体や接続する機器を指します。

パソコンはこれらの高度な技術の集合体です。トラブルの原因がそれぞれの製造元にしかわからない場合も多くあります。トラブルの症状に合わせた対処をすることが解決への早道です。トラブルの解決には、最初に原因の切り分けを行います。一般的にはアプリケーションソフトウェア→システム（OS）、ドライバー→ハードウェア（パソコン本体）の順にチェックします。

## 2 トラブル対処法

トラブルが発生したときの解決手順を紹介します。

### STEP1 Q&Aを読む

本書では、トラブルの解決方法をQ&A形式で説明しています。  
また、『セットアップガイド』などにもQ&Aが記載されているので、あわせて読んでください。

### STEP2 付属のマニュアルを読む

本製品には目的別に複数のマニュアルがあります。  
本書以外のマニュアルも読んでください。

### STEP3 サポートのサイトで調べる

東芝PC総合情報サイト「dynabook.com」へ接続すると、各種サポート情報から解決方法を探ることができます。

「dynabook.com」では、ご利用のパソコンの「よくある質問 FAQ」、デバイスドライバや修正モジュールのダウンロード、ウイルス・セキュリティ情報などをご覧になれます。

サポート窓口や修理についても案内しています。

**参照** ▶ dynabook.comの詳細について『東芝PCサポートのご案内』

それでもトラブルが解消しない場合は、お問い合わせください。

本製品に用意されているOSやアプリケーションのお問い合わせ先は『取扱説明書 付録 2 お問い合わせ先』で確認してください。

ここに掲載しているQ&A集のほかに、『セットアップガイド』にもQ&A集があります。目的の項目が見つからないときは、『セットアップガイド』も参照してください。

## 1 画面／表示 ..... 127

- Q しばらく放置したら、画面が真っ暗になった..... 127
- Q テレビまたは外部ディスプレイを接続した状態で、パソコンをスリープや休止状態から復帰したとき、本体液晶ディスプレイに何も表示されない..... 127
- Q テレビまたは外部ディスプレイを取りはずしたときに、画面が表示されなくなった..... 127
- Q 画面が薄暗く、よく見えない..... 127

## 2 キーボード ..... 128

- Q ポインターが輪の形をしている間にキーを押しても反応がない..... 128
- Q キーボードから文字を入力しているときにカーソルがとんでしまう ..... 128
- Q キーボードに飲み物をこぼしてしまった..... 128

## 3 タッチパッド／マウス ..... 129

- Q クリックしても反応がない..... 129
- Q ダブルクリックがうまくいかないので、速度を変更したい..... 129
- Q ポインターの速度を調節したい..... 130
- Q レーザーマウスの反応がおかしい..... 130
- Q 光学式マウスの反応がおかしい..... 130

## 4 その他..... 131

- Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい ..... 131

## 1 画面／表示

## Q しばらく放置したら、画面が真っ暗になった

## A 省電力機能が働いた可能性があります。

しばらくタッチパッドやキーボードを操作しないと、画面に表示される内容が見えなくなる場合があります。これは省電力機能が動作したためで、故障ではありません。実際には電源が入っていますので、電源スイッチを押さないでください。

**[SHIFT]** キーを押す、またはタッチパッドを操作すると表示が復帰します。

テレビまたは外部ディスプレイを接続している場合、表示が復帰するまでに10秒前後かかることがあります。

## Q テレビまたは外部ディスプレイを接続した状態で、パソコンをスリープや休止状態から復帰したとき、本体液晶ディスプレイに何も表示されない

## A テレビまたは外部ディスプレイに、画面表示が切り替わっている可能性があります。

テレビまたは外部ディスプレイの電源を入れて確認してください。パソコン画面が表示されていた場合は、本体液晶ディスプレイに表示を切り替えてください。

**参照**▶ 詳細について「4章 3 - 2 表示を切り替える」

## Q テレビまたは外部ディスプレイを取りはずしたときに、画面が表示されなくなった

## A テレビまたは外部ディスプレイを接続してください。

テレビまたは外部ディスプレイをメインディスプレイに指定して拡張表示の設定をした場合、スリープや休止状態のときにテレビまたは外部ディスプレイを取りはずすと、スリープや休止状態から復帰したときに画面が表示されないことがあります。

テレビまたは外部ディスプレイの取りはずしは、スリープや休止状態のときに行わないでください。





## Q 画面が薄暗く、よく見えない

A **[FN] + [F3]** キーを押して、本体液晶ディスプレイ（画面）を明るくしてください\*<sup>1</sup>。

**[FN] + [F2]** キーを押すと、逆に、本体液晶ディスプレイは暗くなります。

\*<sup>1</sup> この設定は、テレビと外部ディスプレイには反映されません。


**A**▶ 本体液晶ディスプレイの輝度が低く設定されている可能性があります。  
 [電源オプション]には、本体液晶ディスプレイの輝度を落として消費電力を節約する機能があります。この機能で画面の明るさレベルを下げると、画面が暗くなります。詳しくは、[電源オプション]のヘルプを参照してください。  
 次の手順で設定を変更してください。\*<sup>1</sup>

- ① スタート画面で、ポインターを下側に移動する
- ② 画面左下のをクリックする
- ③ [Windows システムツール]の [コントロールパネル]をクリックする
- ④ [ システムとセキュリティ] → [ 電源オプション]をクリックする
- ⑤ 利用する電源プランを選択し、[プラン設定の変更]をクリックする
- ⑥ [プランの明るさを調整]を設定する  
 [バッテリー駆動]と[電源に接続]をそれぞれ設定してください。
- ⑦ [変更の保存] ボタンをクリックする



\* 1 この設定は、テレビと外部ディスプレイには反映されません。

## 2 キーボード

### Q ポインターが輪の形をしている間にキーを押しても反応がない

**A**▶ システムが処理中の可能性があります。  
 ポインターが輪の形()をしている間は、システムが処理をしている状態のため、操作を受け付けないときがあります。システムの処理が終わるまで待つてから操作してください。

### Q キーボードから文字を入力しているときにカーソルがとんでしまう

**A**▶ 文字を入力しているときに誤ってタッチパッドに触れると、カーソルがとんだり、アクティブウィンドウが切り替わってしまうことがあります。  
 +  キーを押してタッチパッドを無効に切り替えてください。

### Q キーボードに飲み物をこぼしてしまった

**A**▶ 飲み物など液体がこぼれてパソコン内部に入ると、感電、本体の故障、作成データの消失などのおそれがあります。  
 もし、液体がパソコン内部に入ったときは、ただちに電源を切り、電源コードとACアダプター、バッテリーパックを取りはずして、東芝PCあんしんサポートにご相談ください。




## 3 タッチパッド/マウス

\* マウスは、別売りです。

### Q クリックしても反応がない

**A** システムが処理中の可能性があります。

ポインターが輪の形 (  ) をしている間は、システムが処理をしている状態のため、操作を受け付けないときがあります。システムの処理が終わるまで待ってから操作してください。

**A** マウスが正しく接続されていない可能性があります。




マウスとパソコン本体が正しく接続されていないと、マウスの操作はできません。マウスのプラグを正しく接続してください。

**A** タッチパッドのみ操作を受け付けない場合、タッチパッドが無効に設定されている可能性があります。

**FN** + **F5** キーを押してタッチパッドを有効に切り替えてください。

### Q ダブルクリックがうまくいかないで、速度を変更したい

**A** 次の手順で、ダブルクリックの速度を調節してください。




- ① スタート画面で、ポインターを下側に移動する
- ② 画面左下の  をクリックする
- ③ [Windows システムツール] の [  コントロールパネル ] をクリックする
- ④ [  ハードウェアとサウンド ] → [マウス] をクリックする  
[マウスのプロパティ] 画面が表示されます。
- ⑤ [ボタン] タブで [ダブルクリックの速さ] または [ダブルクリックの速度] のスライダーバーを左右にドラッグする
- ⑥ [OK] ボタンをクリックする

## 7 章

パソコンの動作がおかしいときは

## Q ポインターの速度を調節したい

**A** 次の手順でポインターの速度を変更してください。

- ① スタート画面で、ポインターを下側に移動する
- ② 画面左下の  をクリックする
- ③ [Windowsシステムツール] の [ コントロールパネル] をクリックする
- ④ [ ハードウェアとサウンド] → [マウス] をクリックする  
[マウスのプロパティ] 画面が表示されます。
- ⑤ [ポインター オプション] タブで [速度] のスライダーバーを左右にドラッグする
- ⑥ [OK] ボタンをクリックする

## Q レーザーマウスの反応がおかしい

**A** 光の反射が正しく認識されていない可能性があります。

反射しにくい素材の上で使うと正しくセンサーが働かず、ポインターがうまく動きません。次のような場所では動作が不安定になる場合があります。

- 光沢のある表面（ガラス、鏡など）

**A** 平らな場所でマウスを操作しているか確認してください。

マウスは、平らな場所で操作してください。マウスの下にゴミなどがある場合は取り除いてください。

## Q 光学式マウスの反応がおかしい

**A** 光の反射が正しく認識されていない可能性があります。

反射しにくい素材の上で使うと正しくセンサーが働かず、ポインターがうまく動きません。次のような場所では動作が不安定になる場合があります。

- 光沢のある表面（ガラス、研磨した金属、ラミネート、光沢紙、プラスチックなど）
- 画像パターンの変化が非常に少ない表面（人工大理石、新品のオフィスデスクなど）
- 画像パターンの方向性が強い表面（正目の木材、立体映像の入ったマウスパッドなど）

明るめの色のマウスパッドや紙など、光の反射を認識しやすい素材を使ったものの上で使用してください。

光学式マウスに対応したマウスパッドの使用を推奨します。

光学式マウスに対応していないものやマウスパッドの模様によっては、正常に動作しない場合があります。

**A** 平らな場所でマウスを操作しているか確認してください。

マウスは、平らな場所で操作してください。マウスの下にゴミなどがある場合は取り除いてください。

## 4 その他

### Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい

**A**▶ 次の操作を行ってください。

- テレビ、ラジオの室内アンテナの方向を変える
- テレビ、ラジオに対するパソコン本体の方向を変える
- パソコン本体をテレビ、ラジオから離す
- テレビ、ラジオのコンセントとは別のコンセントを使う
- 受信機に屋外アンテナを使う
- 平行フィーダを同軸ケーブルに変える



# 付録

本製品の機能を使用するにあたってのお願いや技術基準適合などについて記しています。

1	ご使用にあたってのお願い	134
2	記録メディアについて	141
3	お客様登録の手続き	148
4	技術基準適合について	149
5	無線LAN/Bluetoothについて	155
6	各インターフェースの仕様	165

# 1

## ご使用にあたってのお願い

本書で説明している機能のご使用にあたって、知っておいていただきたいことや守っていただきたいことがあります。次のお願い事項を、本書の各機能の説明とあわせて必ずお読みください。搭載されている機能やアプリケーションは、ご購入のモデルにより異なります。

### 1 「PC引越ナビ」について

#### 前のパソコンの動作環境について

- すべてのパソコンでの動作を保証するものではありません。

#### 操作にあたって

- 「PC引越ナビ」のヘルプで、注意制限事項を確認してください。
- 「PC引越ナビ」をご利用の際は、前のパソコンおよび新しいパソコンで、電源コードとACアダプターを接続した状態で、ご利用ください。  
また、「PC引越ナビ」の実行中は、スリープまたは休止状態にしないでください。
- こん包プログラムが作成するこん包ファイルを分割する場合、分割するこん包ファイルの大きさは、最大2GBとなります。
- 「PC引越ナビ」がこん包ファイルで同時に移行できるファイル数は、最大2,147,483,647ファイルです。
- こん包プログラムからこん包ファイルを作成するには、作成される予定のこん包ファイルの大きさ以上の空き容量が、保存先の装置に必要です。

### 2 パソコン本体について

#### タッチパッドの操作にあたって

- タッチパッドを強く押さえたり、ボールペンなどの先の鋭いものを使ったりしないでください。タッチパッドが故障するおそれがあります。

### 3 ハードディスクドライブについて

#### 操作にあたって

- パソコンを激しく揺らしたり、強い衝撃を与えると、故障の原因となる場合があります。
- ハードディスクへのアクセス中は、パソコン本体を動かしたりしないでください。ハードディスクドライブが故障したり、データが消失するおそれがあります。
- ハードディスクに保存しているデータや重要な文書などは、万が一故障が起こったり、変化／消失した場合に備えて、定期的にCD／DVDやUSBフラッシュメモリなどに保存しておいてください。記憶内容の変化／消失など、ハードディスク、CD／DVD、USBフラッシュメモリなどに保存した内容の損害については、当社はいっさいその責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- 磁石、スピーカー、テレビ、磁気プレスレットなど磁気を発するものの近くに置かないでください。記憶内容が変化／消失するおそれがあります。
- パソコン本体を落とす、ぶつけるなど強い衝撃を与えないでください。ハードディスクの磁性面に傷が付いて、使えなくなることがあります。磁性面に付いた傷の修理はできません。

### 4 CDやDVDについて

#### CD／DVDの操作にあたって

- ディスクトレイ内のレンズおよびその周辺に触れないでください。ドライブの故障の原因になります。
- ディスクトレイLEDが点灯しているときは、イジェクトボタンを押したり、CD／DVDを取り出す操作をしないでください。CD／DVDが傷ついたり、ドライブが壊れるおそれがあります。
- 電源が入っているときには、イジェクトホールを押さないでください。回転中のCD／DVDのデータやドライブが壊れるおそれがあります。

**参照**▶ イジェクトホールについて「2章 6 - 3 - CD／DVDが出てこない場合」

- ディスクトレイを開けたときに、CD／DVDが回転している場合には、停止するまでCD／DVDに手を触れないでください。けがのおそれがあります。
- パソコン本体を持ち運ぶときは、ドライブにCD／DVDが入っていないことを確認してください。入っている場合は取り出してください。
- CD／DVDをディスクトレイにセットするときは、無理な力をかけないでください。
- CD／DVDを正しくディスクトレイにセットしないとCD／DVDを傷つけることがあります。
- 本製品では、8cm、12cmのCD／DVDのみ使用できます。  
これら以外のCD／DVDは使用できません。

### 5 「TOSHIBA Active Display Off」について

- 次の場合は、人の顔を正しく検出できずに、本機能が正しく動作しないことがあります。
  - ・ 暗い場合
  - ・ Webカメラに対して逆光の場合
  - ・ マスクやサングラスなどを身に着けている場合
  - ・ 着衣や背景などが影響している場合 など
- Webカメラの撮影範囲内に、人の顔と間違えて検出されるものがある場合は、本機能が正しく動作しないことがあります。この場合は、[TOSHIBA Active Display Off] 画面で撮影範囲を確認し、人の顔として検出される可能性のあるものを撮影範囲から取り除いてください。
- Webカメラを使用するほかのアプリケーションを使用している場合は、本機能が正しく動作しない場合があります。
- 外部ディスプレイを接続している場合は、本機能は動作しません。
- 市販のWebカメラなどの接続機器やソフトウェアなど、当社が関与しない組み合わせによる不具合、その結果生じた不便または損害、本機能の使用から生じる付随的な損害（記憶内容の変化・消失、事業利益の損失、事業の中断など）に関して当社はいっさいの責任を負いかねますので、ご了承ください。

### 6 Webカメラについて

#### Webカメラを使用するにあたって

- Webカメラを太陽に直接向けないでください。
- Webカメラのレンズ部分に触れたり、強く押ししたりしないでください。画質が低下する原因となります。  
レンズ部分が汚れた場合は、クリーナークロスなどの柔らかい布でふいてください。

### 7 有線LANについて

#### LANケーブルの使用にあたって

- LANケーブルは市販のものを使用してください。
- LANケーブルをパソコン本体のLANコネクタに接続した状態で、LANケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。LANコネクタが破損するおそれがあります。
- LANインターフェースを使用するとき、Gigabit Ethernet（1000BASE-T）\*<sup>1</sup>は、エンハンスドカテゴリ5（CAT5e）以上のケーブルを使用してください。  
Fast Ethernet（100BASE-TX）は、カテゴリ5（CAT5）以上のケーブルを使用してください。  
Ethernet（10BASE-T）は、カテゴリ3（CAT3）以上のケーブルが使用できます。

\* 1 Gigabit Ethernetに対応しているモデルのみ



## 8 無線LANについて

### 無線LANを使用するにあたって

- 無線LANの無線アンテナは、障害物が少なく見通しのきく場所で最も良好に動作します。無線通信の範囲を最大限有効にするには、本や厚い紙の束などの障害物でディスプレイを覆わないようにしてください。

また、無線LANアクセスポイントとパソコンとの間を金属板などで遮へいしたり、無線アンテナの周囲を金属製のケースなどで覆わないようにしてください。

- 無線LANは無線製品です。各国／地域で適用される無線規制については、次の説明を確認してください。

**参照** 『取扱説明書』、「本章 5 無線LAN／Bluetoothについて」

- 本製品の無線LANを使用できる国／地域については、「dynabook.com」を確認してください。

### 無線LANの操作にあたって

- Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。

- アドホックネットワーク機能で、設定されているネットワーク名へのネットワーク接続が不可能になる場合があります。

この場合、再度ネットワーク接続を可能にするには、同じネットワーク名で接続されていたコンピューターすべてに対して、新たに別のネットワーク名で設定を行う必要があります。

## 9 周辺機器について

### 周辺機器の取り付け／取りはずしについて

- 取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。4章の各節を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。守らなかった場合、故障するおそれがあります。
  - ・ ホットインサージョンに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから作業を行ってください。ホットインサージョンとは、電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うことです。
  - ・ 適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
  - ・ ほこりが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
  - ・ 極端に温度や湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
  - ・ 静電気が発生しやすい環境（乾燥した場所やカーペット敷きの場所など）では作業をしないでください。
  - ・ 本書および『取扱説明書』で説明している場所のネジ以外は、ゆるめたり、取りはずしたりしないでください。
  - ・ 作業時に使用するドライバーは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
  - ・ 本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。
  - ・ パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向を合わせてください。
  - ・ パソコン本体のコネクタにケーブルを接続した状態で、接続部分に無理な力を加えないでください。

### USB対応機器の操作にあたって

- 電源供給を必要とするUSB対応機器を接続する場合は、USB対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB対応機器を使用するには、システム（OS）が対応しており、機器用ドライバーがインストールされている必要があります。
- すべてのUSB対応機器の動作を保証するものではありません。
- USB対応機器を接続したままスリープまたは休止状態にすると、復帰後USB対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB対応機器を接続し直すか、パソコンを再起動してください。

### USB接続の外部ディスプレイを使用するにあたって

- USB接続の外部ディスプレイを接続した場合、著作権保護機能に対応していないドライバーがインストールされることにより、映像を再生するアプリケーションが動作しなくなることがあります。  
これらのアプリケーションを使用される場合は、USB接続の外部ディスプレイの接続やドライバーのインストールを行わないようにお願いします。

## □取りはずす前に確認しよう

- 取りはずすときは、USB対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- USBフラッシュメモリやUSB接続のハードディスクドライブなど、記憶装置のUSB対応機器を取りはずす場合は、データを消失するおそれがあるため、必ずシステム上で使用停止の手順を行ってください。

## テレビ／外部ディスプレイ接続の操作にあたって

- すべてのテレビまたは外部ディスプレイへの表示を保証するものではありません。テレビまたは外部ディスプレイによっては正しく表示されない場合があります。
- 必ず、映像の再生アプリケーションを起動する前に、表示装置の切り替えを行ってください。起動中は表示装置を切り替えないでください。
- 次のようなときには、表示装置を切り替えないでください。
  - ・データの読み出しや書き込みをしている間
  - ・通信を行っている間
- クローン表示にしているときに映像を再生させると、画像がコマ落ちをすることがあります。この場合は表示解像度を下げるか、クローン表示にしないで1つの表示装置に表示するか、拡張表示に設定してください。
- 拡張表示でテレビまたは外部ディスプレイをメインディスプレイに設定した場合、スリープまたは休止状態のときにテレビまたは外部ディスプレイをはずさないでください。スリープまたは休止状態から復帰したときにサインイン画面が表示されずに、操作ができなくなることがあります。
- HDMI出力端子にテレビまたは外部ディスプレイを接続しているときに、ほかのコネクタにテレビまたは外部ディスプレイや外部サウンド機器が接続されている場合、画面表示を切り替えたりHDMIケーブルを抜き差ししたりすると、システムによって自動的に画面表示または音声の出力が切り替わることがあります。
- テレビまたは外部ディスプレイに表示したときに、画面の周りに黒い帯が表示され、画面がテレビまたは外部ディスプレイの中央に小さく表示されることがあります。その場合は『テレビに付属の説明書』または『外部ディスプレイに付属の説明書』を参照して、テレビまたは外部ディスプレイがサポートしている画面モードに設定してください。適切なサイズと適切なアスペクト比で表示されます。

## ヘッドホンの操作にあたって

- 次のような場合にはヘッドホンを装着しないでください。雑音が発生する場合があります。
  - ・パソコン本体の電源を入れる／切るとき
  - ・ヘッドホンの取り付け／取りはずしをするとき

## Bluetoothについて

- 本製品は、すべてのBluetooth対応機器との接続動作を保証するものではありません。
- 本製品のBluetooth機能を使用できる国／地域については、「[dynabook.com](http://dynabook.com)」を確認してください。

## 10 バッテリーについて

### バッテリーを充電するにあたって

---

- バッテリーパックの温度が極端に高いまたは低いと、正常に充電されないことがあります。バッテリーは5～35℃の室温で充電してください。

社団法人 電子情報技術産業協会の「バッテリー関連Q&A」について  
<http://home.jeita.or.jp/cgi-bin/page/detail.cgi?n=121&ca=14>

記録メディアを使う前に、次の内容をよく読んでください。  
搭載されている機能やアプリケーションは、ご購入のモデルにより異なります。

## 1 CD/DVDに書き込む前に

CD/DVDに書き込みを行うときは、次の注意をよく読んでから使用してください。  
守らずに使用すると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、ドライブへの振動や衝撃などの本体異常や、記録メディアの状態などによっては処理が正常に行えず、書き込みに失敗することがあります。

- 書き込みに失敗したCD/DVDの損害については、当社はいっさいその責任を負いません。また、記憶内容の変化・消失など、CD/DVDに保存した内容の損害および内容の損失・消失により生じる経済的損害といった派生的損害については、当社はいっさいその責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- CD/DVDに書き込むときには、それぞれの書き込み速度に対応し、それぞれの規格に準拠した記録メディアを使用してください。また、推奨するメーカーの記録メディアを使用してください。

### 参照 ▶ 「本節 4 書き込み速度と使用推奨メーカー」

- バッテリー駆動で使用中に書き込みを行うと、バッテリーの消耗などによって書き込みに失敗するおそれがあります。必ず電源コードとACアダプターを接続してパソコン本体を電源コンセントに接続して使用してください。
- 書き込みを行うときは、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。また、スリープ、休止状態、シャットダウンまたは再起動を実行しないでください。

### 参照 ▶ 省電力機能について「5章 2 省電力の設定をする」

- 次に示すような、ライティングソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。
  - ・ スクリーンセーバー
  - ・ ウイルスチェックソフト
  - ・ ディスクのアクセスを高速化する常駐型ユーティリティ
  - ・ 音楽や映像の再生アプリケーション
  - ・ LANなどの通信アプリケーション などソフトウェアによっては、動作の不安定やデータの破損の原因となります。
- SDメモ리카ード、USB接続などのハードディスクドライブなど、本体のハードディスク以外の記憶装置にあるデータを書き込むときは、データをいったん本体のハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。
- LANを経由する場合は、データをいったん本体のハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。

### 書き込みを行うにあたって

- タッチパッドを操作する、ウィンドウを開く、ユーザーを切り替える、画面の解像度や色数の変更など、パソコン本体の操作を行わないでください。
- パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
- 書き込み中は、周辺機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。

**参照**▶ 周辺機器について「4章 周辺機器を使って機能を広げよう」

- パソコン本体から携帯電話、およびほかの無線通信装置を離してください。
- 重要なデータについては、書き込み終了後、必ずデータが正しく書き込まれたことを確認してください。

## 2 使えるCDを確認しよう

### CD-RW、CD-Rについて／CD-RW、CD-Rの使用推奨メーカー

- CD-RW、CD-Rに書き込む際には、記録メディアの使用推奨メーカーを確認してください。

**参照**▶ 「本節 4 書き込み速度と使用推奨メーカー」

- CD-Rに書き込んだデータの消去はできません。
- CD-RWの消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、記録メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されている際には、書き込み・消去する記録メディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- ハードディスクに不良セクターがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラー チェック」でクラスタのチェックを行うことをおすすめします。「エラー チェック」は、デスクトップ画面のタスクバーの「エクスプローラー」のハードディスクのアイコンを右クリックし、表示されたメニューから「プロパティ」をクリックして、プロパティ画面の「ツール」タブから行うことができます。
- ドライブの構造上、記録メディアの傷、汚れ、ほこり、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。データなどを書き込む際は、記録メディアの状態をよくご確認ください。
- 12cm/8cmディスク対応、Serial ATA接続、バッファアンダーランエラー防止機能付き。

### 3 使えるDVDを確認しよう

#### ■ DVD-RAMの種類

DVD-RAMにはいくつかの種類があります。本製品のドライブで使用できるDVD-RAMは次のとおりです。

カートリッジタイプの記録メディアは、カートリッジから取り出してドライブにセットしてください。両面ディスクで、読み出し／書き込みする面を変更するときは、一度ドライブから記録メディアを取り出し、裏返してセットし直してください。

○：使用できる ×：使用できない

DVD-RAMの種類	本製品の対応
カートリッジなし* <sup>1</sup>	○
カートリッジタイプ（取り出し不可）	×
カートリッジタイプ（取り出し可能）* <sup>2</sup>	○

\* 1 一部の家庭用DVDビデオレコーダーでは再生できない場合があります。

\* 2 2.6GB、5.2GBのディスクは使用できません。

#### DVDについて／DVDの使用推奨メーカー

- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rに書き込む際には、記録メディアの使用推奨メーカーを確認してください。

**参照** 「本節 4 書き込み速度と使用推奨メーカー」

- DVD-R、DVD+Rに書き込んだデータの消去はできません。
- DVD-RAM、DVD-RW、DVD+RWの消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、記録メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されているときには、書き込み・消去する記録メディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rへの書き込みでは、ファイルの管理領域なども必要になるため、記録メディアに記載された容量分のデータを書き込めない場合があります。
- DVD-RW、DVD-Rへの書き込みでは、DVDの規格に準拠するため、書き込むデータのサイズが約1GBに満たない場合にはダミーのデータを加えて、最小1GBのデータに編集して書き込みます。  
このため、実際に書き込もうとしたデータが少ないにもかかわらず、書き込み完了までに時間がかかることがあります。
- ハードディスクに不良セクターがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラー チェック」でクラスタのチェックを行うことをおすすめします。  
「エラー チェック」は、デスクトップ画面のタスクバーの「エクスプローラー」のハードディスクのアイコンを右クリックし、表示されたメニューから「プロパティ」をクリックして、プロパティ画面の「ツール」タブから行うことができます。
- ドライブの構造上、記録メディアの傷、汚れ、ほこり、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。データなどを書き込むときは、記録メディアの状態をよくご確認ください。

## 2 記録メディアについて

- DVD-RAMをドライブにセットしたとき、システムがDVD-RAMを認識するまでに多少時間がかかります。
- DVD-R DLは、Format4での読み出し/書き込みをサポートしていません。
- 12cm/8cmディスク対応、Serial ATA接続、バッファアンダーランエラー防止機能付き。

### メモ

- 作成したDVDは、一部の家庭用DVDビデオレコーダーやパソコンでは再生できないこともあります。また、作成したDVD+R DLメディア、DVD-R DLメディアを再生するときは、それぞれの記録メディアの読み取りに対応している機器を使用してください。

## DVD-RAMのフォーマットについて

- フォーマットを行うと、そのDVD-RAMに保存されている情報はすべて消去されます。一度使用したDVD-RAMをフォーマットする場合は注意してください。

## 4 書き込み速度と使用推奨メーカー

- DVD-Rは、DVD-R for General Ver2.0規格に準拠した記録メディアを使用してください。
- DVD-RWは、DVD-RW Ver1.1またはVer1.2規格に準拠した記録メディアを使用してください。
- DVD-RAMは、DVD-RAM Ver2.0、Ver2.1、Ver2.2規格に準拠した記録メディアを使用してください。
- 市販のDVD-Rには業務用メディア（for Authoring）と一般用メディア（for General）があります。業務用メディアはパソコンのドライブでは書き込みすることができません。一般用メディア（for General）を使用してください。
- 市販のDVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rには「for Data」と「for Video」の2種類があります。映像を保存する場合や家庭用DVDビデオレコーダーとの互換性を重視する場合は「for Video」を使用してください。



## 1 書き込み速度と使用推奨メーカー

書き込み速度は、使用する記録メディアによって異なります。

また、CD/DVDに書き込む際には、次のメーカーの記録メディアを使用することを推奨します。これらのメーカー以外の記録メディアを使用すると、うまく書き込みができない場合があります。

記録メディア		書き込み／書き換え速度	推奨メーカー
CD-Rメディア*1		最大24倍速	太陽誘電(株)、日立マクセル(株)、三菱化学メディア(株)
マルチスピードCD-RWメディア		最大4倍速	三菱化学メディア(株)
High Speed CD-RWメディア		最大10倍速	
Ultra Speed CD-RWメディア*2		最大16倍速	
DVD-R	4倍速	最大4倍速	太陽誘電(株)、日立マクセル(株)、三菱化学メディア(株)
	8倍速、16倍速	最大8倍速	
DVD-R DL	4倍速	最大4倍速	三菱化学メディア(株)
	8倍速	最大6倍速	
DVD+R	8倍速、16倍速	最大8倍速	太陽誘電(株)、三菱化学メディア(株)
DVD+R DL	2.4倍速	最大2.4倍速	三菱化学メディア(株)
	8倍速	最大6倍速	
DVD-RW	4倍速	最大4倍速	日本ビクター(株)、三菱化学メディア(株)
	6倍速	最大6倍速	
DVD+RW	4倍速	最大4倍速	三菱化学メディア(株)
	8倍速	最大8倍速	
DVD-RAM	3倍速	最大3倍速	パナソニック(株)、日立マクセル(株)
	5倍速	最大5倍速	

\* 1 最大の倍速で書き込むためには書き込み速度に対応したCD-Rメディアを使用してください。

\* 2 Ultra Speed+ CD-RWメディアは使用できません。使用した場合、データは保証できません。

これらより速い書き込み倍速に対応した記録メディアを使用しても、ドライブの書き込み／書き換え速度以上の速度で書き込み／書き換えはできません。

# 5 メディアカードを使うにあたって

## 1 メディアカードの操作にあたって

- メディアカードへのアクセス中は、電源を切ったり、メディアカードを取り出したり、パソコン本体を動かしたりしないでください。データやメディアカードが壊れるおそれがあります。
- メディアカードは無理な力を加えず、静かに挿入してください。正しくセットされていない場合、パソコンの動作が不安定になったり、メディアカードが壊れるおそれがあります。
- スリープ中は、メディアカードを取り出さないでください。データが消失するおそれがあります。
- メディアカードのコネクタ部分（金色の部分）には触れないでください。静電気で壊れるおそれがあります。
- メディアカードを取り出す場合は、必ずシステム上で使用停止の手順を行ってください。データが消失したり、メディアカードが壊れるおそれがあります。
- パソコン本体を持ち運ぶときは、必ずブリッジメディアスロットからメディアカードを取り出してください。ブリッジメディアスロットやメディアカードが破損するおそれがあります。

## 2 メディアカードのフォーマットについて

- 再フォーマットする場合は、メディアカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤーなど）で行ってください。
- Windows上（[PC] 画面）でメディアカードのフォーマットを行わないでください。デジタルカメラやオーディオプレーヤーなどほかの機器で使用できなくなる場合があります。
- 再フォーマットを行うと、そのメディアカードに保存されていた情報はすべて消去されます。一度使用したメディアカードを再フォーマットする場合は注意してください。

### 3 SDメモ리카ードを使う前に

- ブリッジメディアスロットにminiSDメモ리카ードをセットするときは、必ずminiSDメモ리카ードをSDメモ리카ードとして使用できる市販の変換アダプターを装着した状態で行ってください。

microSDメモ리카ードをセットするときは、必ずmicroSDメモ리카ードをSDメモ리카ードとして使用できる市販の変換アダプターを装着した状態で行ってください。miniSDメモ리카ードサイズのmicroSDメモ리카ード用の変換アダプターは使用できません。

- ブリッジメディアスロットからminiSDメモ리카ード／microSDメモ리카ードを取りはずすときは、必ずminiSDメモ리카ードまたはmicroSDメモ리카ード用の変換アダプターに装着したままの状態で行ってください。
- すべてのSDメモ리카ードの動作を保証するものではありません。
- SDメモ리카ードは、SDMIの取り決めに従って、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐための著作権保護技術を搭載しています。  
そのため、ほかのパソコンなどで取り込んだデータが著作権保護されている場合は、本製品でコピー、再生することはできません。SDMIとはSecure Digital Music Initiativeの略で、デジタル音楽データの著作権を守るための技術仕様を決めるための団体のことです。
- 著作権保護技術CPRMを使用するには、著作権保護技術CPRMに対応しているアプリケーションが必要です。
- あなたが記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- SDメモ리카ードは、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐSDMIに準拠したデータを取り扱うことができます。メモリの一部を管理データ領域として使用するため、使用できるメモリ容量は表示の容量より少なくなっています。

### 4 マルチメディアカードを使う前に

- すべてのマルチメディアカードの動作を保証するものではありません。
- マルチメディアカードの詳しい使いかたなどについては『マルチメディアカードに付属の説明書』を確認してください。

### 6 記録メディアの廃棄・譲渡について

記録メディア（CD、DVD、USBフラッシュメモリ、メディアカードなど）を廃棄・譲渡する際には、書き込まれたデータが流出しないよう、適切な方法で消去することをおすすめします。初期化、削除、消去などの操作などを行っても、データの復元ツールで再生できる場合もありますので、十分ご確認ください。

データ消去のための専用ソフトや、記録メディア専用のシュレッダーも販売されています。

パソコンやアプリケーションを使用するときは、自分が製品の正規の使用者（ユーザー）であることを製品の製造元へ連絡します。これを「お客様登録」または「ユーザー登録」といいます。お客様登録は、パソコン本体、使用するアプリケーションごとに行い、方法はそれぞれ異なります。

## 1 東芝ID（TID）お客様登録のおすすめ

東芝では、お客様へのサービス・サポートのご提供の充実をはかるために東芝ID（TID）のご登録をおすすめしております。

サービス内容は、『東芝PCサポートのご案内』を確認してください。

詳しくは、次のアドレス「Room1048（TID）会員サイトについて」をご覧ください。

[https://toshibadirect.jp/supportguide/about\\_sight.aspx](https://toshibadirect.jp/supportguide/about_sight.aspx)

## 1 [東芝お客様登録] アイコンからのご登録方法

インターネット接続の設定やインターネットプロバイダーとの契約をしてある場合に、[東芝お客様登録] アイコンからTID登録を行う方法を説明します。インターネットに接続している間の通信料金やプロバイダー使用料などの費用はお客様負担となりますので、あらかじめご了承ください。

### 付録

#### メモ

- インストールしているウイルスチェックソフトの設定によって、インターネット接続を確認する画面が表示される場合があります。インターネット接続を許可する項目を選択し、操作を進めてください。

### 1 スタート画面の【デスクトップ】をクリックする

デスクトップ画面が表示されます。

### 2 [東芝お客様登録] アイコン（）をダブルクリックする

「Internet Explorer」が起動し、登録用のホームページが表示されます。

以降は、画面の指示に従って操作してください。

#### メモ

- インターネットに接続後、URLを入力して登録用のホームページにアクセスすることもできます。  
登録用ホームページ： <http://toshibadirect.jp/room1048/>  
商品の追加登録も、登録用のホームページから行えます。

### 瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人 電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

### 高調波対策について

JIS C 61000-3-2 適合品

本装置は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 に適合しています。

\* 19V 3.95A以上のACアダプターのみ

### 電波障害自主規制について

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCI-B

参照 ▶ [7章 2 - 4] - Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい]

### 「FCC information」について

#### FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

**WARNING** : *Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by TOSHIBA is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's external monitor ports, Universal Serial Bus (USB 2.0 and USB 3.0) ports, HDMI out port and microphone jack. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by TOSHIBA or parties authorized by TOSHIBA could void the user's authority to operate the equipment.*

### FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules.

Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

### Contact

**Address** : TOSHIBA America Information Systems, Inc.  
9740 Irvine Boulevard  
Irvine, California 92618-1697

**Telephone** : (949) 583-3000

## EU Declaration of Conformityについて

---



This product is carrying the CE-Mark in accordance with the related European Directives. Responsible for CE-Marking is TOSHIBA EUROPE GMBH, Hammfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany. The complete and official EU Declaration of Conformity can be found on TOSHIBA's web site

<http://epps.toshiba-teg.com> on the Internet.

## CE compliance

This product is labeled with the CE Mark in accordance with the applicable European Directives, notably RoHS Directive 2011/65/EU, Radio Equipment and Telecommunications Terminal Directive 1999/5/EC, Ecodesign Directive and 2009/125/EC (ErP) and the related implementing measures.

This product and the original options are designed to observe the related EMC (Electromagnetic Compatibility) and safety standards. However, TOSHIBA cannot guarantee that this product still observes these EMC standards if options or cables not produced by TOSHIBA are connected or implemented. In this case the persons who have connected/implemented those options/cables have to provide assurance that the system (PC plus options/cables) still fulfils the required standards. To avoid general EMC problems, the following guidance should be noted:

- Only CE marked options should be connected/implemented
- Only best shielded cables should be connected

## Working environment

This product was designed to fulfil the EMC (Electromagnetic Compatibility) requirements to be observed for so-called “Residential, commercial and light industry environments”. TOSHIBA do not approve the use of this product in working environments other than the above mentioned “Residential, commercial and light industry environments”.

For example, the following environments are not approved:

- Industrial Environments (e.g. environments where a mains voltage of 380 V three-phase is used)
- Medical Environments
- Automotive Environments
- Aircraft Environments

Any consequences resulting from the use of this product in working environments that are not approved are not the responsibility of TOSHIBA.

The consequences of the use of this product in non-approved working environments may be:

- Interference with other devices or machines in the near surrounding area.
- Malfunction of, or data loss from, this product caused by disturbances generated by other devices or machines in the near surrounding area.

Therefore TOSHIBA strongly recommend that the electromagnetic compatibility of this product should be suitably tested in all non-approved working environments before use. In the case of automobiles or aircraft, the manufacturer or airline respectively should be asked for permission before use of this product.

Furthermore, for general safety reasons, the use of this product in environments with explosive atmospheres is not permitted.

### レーザー安全基準について

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。

#### 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。  
本装置の定格銘板には、「レーザーラベルと表示位置」に記載している表示がされています。  
本装置はヨーロッパ共通のレーザー規格EN60825-1で“クラス1レーザー機器”に分類されています。  
レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。
2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。  
本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、東芝PCあんしんサポートにご相談ください。
6. ここに規定した以外の手順による制御および調整は、危険なレーザー放射の露光に結びつくことがあります。

#### 付録

次のいずれかの装置が搭載されています。

- ① Panasonic
  - DVDスーパーマルチドライブ
- ② Toshiba Samsung Storage Technology
  - DVDスーパーマルチドライブ



## ■ レーザーラベルと表示位置

### ① Panasonic のレーザーラベル

CLASS 1 LASER PRODUCT  
LASER KLASSE 1

**CAUTION** CLASS 3B VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.

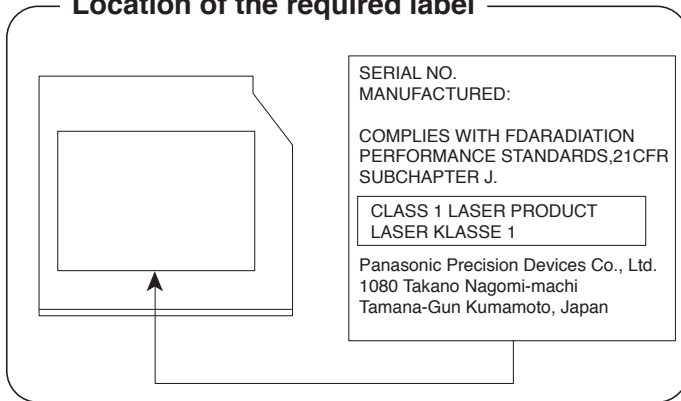
**ATTENTION** CLASSE 3B RAYONNEMENT LASER VISIBLE ET INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.

**VORSICHT** KLASSE 3B SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.

**VARNING** KLASS 3B SYNLLIG OCH OSYNLLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.

### ラベルの表示位置

#### Location of the required label



② Toshiba Samsung Storage Technology のレーザーラベル

**CLASS 1 LASER PRODUCT**

1 类激光产品

**APPAREIL A LASER DE CLASSE 1**

**LASER SCHUTZ KLASSE 1 PRODUKT**

**NACH EN 60825-1:2007**

**DANGER** VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN AVOID DIRECT EXPOSURE TO BEAM

**CAUTION** VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION, CLASS 3B LASER RADIATION WHEN OPEN AVOID EXPOSURE TO THE BEAM.

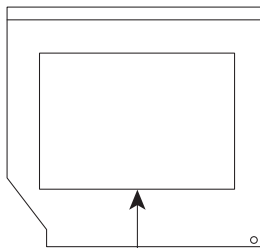
**ATTENTION** RADIATION LASER VISIBLE ET INVISIBLE. RADIATION DE CLASSE 3B LORS DE L'OUVERTURE ÉVITER TOUTE EXPOSITION AU RAYON

**VORSICHT** SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, LASERSTRAHLUNG KLASSE 3B, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET, KONTAKT MIT DEM LASERSTRAHL VERMEIDEN

**注意** 可见及不可见激光辐射 打开时有激光辐射避免光束照射

ラベルの表示位置

Location of the required label



PRODUCT IS CERTIFIED BY THE MANUFACTURER TO COMPLY WITH DHHS RULE 21 CFR CHAPTER 1, SUBCHAPTER J APPLICABLE AT THE DATE OF MANUFACTURE.

Toshiba Samsung Storage Technology  
Korea Corporation  
14F Digital empire II, 486 Sin-dong,  
Yeongtong-gu, Suwon-si, Gyeonggi-do,  
Korea, 443-734

\* 5GHzの無線LANについては、IEEE802.11a、IEEE802.11ac(draft)のいずれかをサポートしているモデルのみ対象となります。

\* Bluetooth機能については、Bluetooth機能搭載モデルのみ対象となります。

## 1 無線LANの規格

無線LAN（無線LANモジュール）には通信の通信速度や使用している周波数帯によって、複数の規格が存在します。

本製品には、IEEE802.11a、IEEE802.11b、IEEE802.11g、IEEE802.11n、IEEE802.11ac(draft)のすべて、もしくはその一部に準拠した無線LANが搭載されています。本製品が対応している規格については、「本節 **6** 無線LANモジュールの確認」を確認してください。

本書では、搭載された無線LANの種類によって説明が異なる項目があります。

### ■無線LANの仕様

無線周波数帯	IEEE802.11a, IEEE802.11n, IEEE802.11ac(draft)	5GHz (5150-5350MHz、および 5470-5725MHz)
	IEEE802.11b, IEEE802.11g, IEEE802.11n	2.4GHz (2400-2483MHz)
変調方式	IEEE802.11a, IEEE802.11g, IEEE802.11ac(draft)	直交周波数分割多重方式 OFDM-BPSK, OFDM-QPSK, OFDM-16QAM, OFDM-64QAM
	IEEE802.11b	直接拡散方式 DSSS-CCK, DSSS-DQPSK, DSSS-DBPSK
	IEEE802.11n	直交周波数分割多重方式 (OFDM方式)

無線LANアクセスポイントや無線機器と通信を行うには、どちらも同じ規格に準拠している必要があります。

## 2 無線LANのサポートする周波数帯域

無線LANがサポートする5GHz帯および2.4GHz帯のチャンネルは、国/地域で適用される無線規制によって異なる場合があります（表「無線IEEE802.11 チャンネルセット」参照）。

### ■無線IEEE802.11 チャンネルセット

- 5GHz帯：5150-5350MHz および、5470-5725MHz  
（IEEE802.11a、IEEE802.11n、IEEE802.11ac(draft)の場合）

	チャンネルID	周波数
W52	36	5180
	40	5200
	44	5220
	48	5240
W53	52	5260
	56	5280
	60	5300
	64	5320
W56	100	5500
	104	5520
	108	5540
	112	5560
	116	5580
	120	5600
	124	5620
	128	5640
	132	5660
	136	5680
	140	5700

アクセスポイント側のチャンネル（W52/W53/W56）に合わせて、そのチャンネルに自動的に設定されます。



メモ

- W52、W53は電波法令により屋外で使用することはできません。
- IEEE802.11aおよびIEEE802.11nモードではアドホック通信は使用できません。
- アドホック通信でのピアツーピア接続は、Ch1～Ch11で使用できます。
- インフラストラクチャ通信でのアクセスポイントへの接続は、Ch1～Ch13、Ch36、Ch40、Ch44、Ch48、Ch52、Ch56、Ch60、Ch64、Ch100、Ch104、Ch108、Ch112、Ch116、Ch120、Ch124、Ch128、Ch132、Ch136、Ch140で使用できます。

- 2.4GHz帯：2400-2483MHz (IEEE802.11b/g、IEEE802.11nの場合)

チャンネルID	周波数
1	2412
2	2417
3	2422
4	2427
5	2432
6	2437
7	2442
8	2447
9	2452
10	2457 <sup>*1</sup>
11	2462
12	2467
13	2472

\*1 購入時に、アドホックモード接続時に使用するチャンネルとして設定されているチャンネルです。

#### メモ

- IEEE802.11nモードではアドホック通信は使用できません。
- アドホック通信でのピアツーピア接続は、Ch1～Ch11で使用できます。
- インフラストラクチャ通信は、Ch1～Ch13で使用できます。

### 3 Bluetoothの仕様

ワイヤレス通信	通信方式	Bluetooth Specification Ver.4.0
	無線周波数帯	2.4GHz (2402~2480MHz)
	変調方式	周波数ホッピング方式 2値FSK

### 4 無線特性

無線LANおよびBluetoothの無線特性は、製品を購入した国／地域、購入した製品の種類により異なる場合があります。

多くの場合、無線通信は使用する国／地域の無線規制の対象になります。国／地域によって使用が規制されています。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない5GHzおよび2.4GHz帯で動作するように設計されていますが、国／地域の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。

無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広くなります。



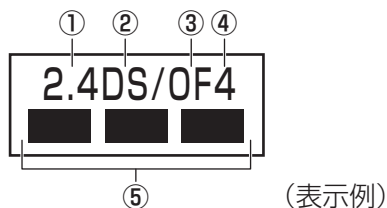
- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る"障害物"がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

## 5 現品表示、JEITAロゴ表記について

## □ 無線LAN

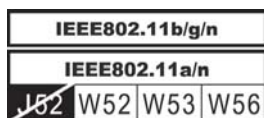
## ■ 現品表示

本製品または無線LANモジュールには、次に示す現品表示が記載されています。



- ① 2.4 : 2,400MHz帯を使用する無線設備を表す。
- ② DS : 変調方式がDS-SS方式であることを示す。
- ③ OF : 変調方式がOFDM方式であることを示す。
- ④ 4 : 想定される与干渉距離が40m以下であることを示す。
- ⑤ ■ ■ ■ : 2,400MHz～2,483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。

## ■ JEITAロゴ表記について

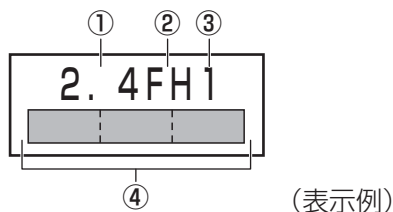


5GHz帯無線LANは、W52/W53/W56チャンネルをサポートしています。

## □ Bluetooth

## ■ 現品表示

本製品またはBluetoothモジュールには、次に示す現品表示が記載されています。




- ① 2.4 : 2,400MHz帯を使用する無線設備を表す。
- ② FH : 変調方式がFH-SS方式であることを示す。
- ③ 1 : 想定される与干渉距離が10m以下であることを示す。
- ④ ■■■■■ : 2,400MHz～2,483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避不可であることを意味する。



## 6 無線LANモジュールの確認

使用しているパソコンに搭載された無線LANモジュールの種類は、「デバイス マネージャー」を使って確認できます。

**1** スタート画面で、ポインターを下側に移動する

**2** 画面左下の  をクリックする

**3** [Windows システムツール] の [  コントロールパネル ] をクリックする

**4** [  ハードウェアとサウンド ] → [  デバイス マネージャー ] をクリックする

[デバイス マネージャー] 画面が表示されます。

**5** [ネットワーク アダプター] をダブルクリックする

アダプター名が表示されます。

**6** アダプター名を確認する

アダプター名が示すモジュールは、それぞれ次のようになります。

- [Realtek RTL8188E Wireless LAN 802.11n PCI-E NIC] の場合  
IEEE802.11b、IEEE802.11g および IEEE802.11nに対応したモジュールです。このモジュールを、「RTL8188E b/g/nモジュール」と呼びます。
- [Qualcomm Atheros AR956x Wireless Network Adapter] の場合  
IEEE802.11b、IEEE802.11gおよびIEEE802.11nに対応したモジュールです。このモジュールを、「Qualcomm Atheros AR956x b/g/nモジュール」と呼びます。



メモ

- Wi-Fi準拠、WPA/WPA2対応、128bit WEP対応、256bit AES対応、TKIP対応。



## 7 機器認証表示について

本製品には、電気通信事業法に基づく小電力データ通信システムの無線局として、認証を受けた無線設備を搭載しています。したがって、本製品を使用するとき無線局の免許は必要ありません。

### ■RTL8188E b/g/nモジュール

無線設備名 : RTL8188EE

株式会社 ディーエスピーリサーチ

認証番号 : D120135003

### ■Qualcomm Atheros AR956x b/g/nモジュール (Bluetooth機能搭載)

無線設備名 : QCWB335

株式会社 ディーエスピーリサーチ

認証番号 : D120156003

本製品に組み込まれた無線設備は、本製品に実装して使用することを前提に、小電力データ通信システムの無線局として工事設計の認証を取得しています。したがって、組み込まれた無線設備をほかの機器へ流用した場合、電波法の規定に抵触するおそれがありますので、十分にご注意ください。

## 8 Regulatory statements

### ● General

This product complies with any mandatory product specification in any Country/ Region where the product is sold. In addition, the product complies with the following.

### ● European Union (EU) and EFTA

This equipment complies with the R&TTE directive 1999/5/EC and has been provided with the CE mark accordingly.

### ● Canada - Industry Canada (IC)

This device complies with RSS 210 of Industry Canada.

Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause interference, and (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of this device.

L' utilisation de ce dispositif est autorisée seulement aux conditions suivantes : (1) il ne doit pas produire de brouillage et (2) l' utilisateur du dispositif doit être prêt à accepter tout brouillage radioélectrique reçu, même si ce brouillage est susceptible de compromettre le fonctionnement du dispositif.

The term "IC" before the equipment certification number only signifies that the Industry Canada technical specifications were met.

### ● USA - Federal Communications Commission (FCC)

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy. If not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation.

If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by tuning the equipment off and on, the user is encouraged to try and correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the distance between the equipment and the receiver.
- Connect the equipment to outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

TOSHIBA is not responsible for any radio or television interference caused by unauthorized modification of the devices included with this Bluetooth Card from TOSHIBA, or the substitution or attachment of connecting cables and equipment other than specified by TOSHIBA.

The correction of interference caused by such unauthorized modification, substitution or attachment will be the responsibility of the user.

**Caution: Exposure to Radio Frequency Radiation.****■ Wireless LAN**

The radiated output power of the Wireless LAN is far below the FCC radio frequency exposure limits. Nevertheless, the Wireless LAN shall be used in such a manner that the potential for human contact during normal operation is minimized.

In the usual operating configuration, the distance between the antenna and the user should not be less than 20cm. Please refer to the PC user's manual for the details regarding antenna location.

The installer of this radio equipment must ensure that the antenna is located or pointed such that it does not emit RF field in excess of Health Canada limits for the general population; consult Safety Code 6, obtainable from Health Canada's website

[www.hc-sc.gc.ca/](http://www.hc-sc.gc.ca/)

**■ Bluetooth**

The radiated output power of the Bluetooth Card from TOSHIBA is far below the FCC radio frequency exposure limits. Nevertheless, the Bluetooth Card from TOSHIBA shall be used in such a manner that the potential for human contact during normal operation is minimized. The antenna(s) used in this device are located at the upper/lower edge of the LCD screen, and this device has been tested as portable device as defined in Section 2.1093 of FCC rules when the LCD screen is rotated 180 degree and covered the keyboard area. In addition, Bluetooth has been tested with Wireless LAN transceiver for co-location requirements. This device and its antenna(s) must not be co-located or operating in conjunction with any other antenna or transmitter.

The installer of this radio equipment must ensure that the antenna is located or pointed such that it does not emit RF field in excess of Health Canada limits for the general population; consult Safety Code 6, obtainable from Health Canada's website

[www.hc-sc.gc.ca/](http://www.hc-sc.gc.ca/)

**● Taiwan**

Article 12 Without permission granted by the NCC, any company, enterprise, or user is not allowed to change frequency, enhance transmitting power or alter original characteristic as well as performance to a approved low power radio-frequency devices.

Article 14 The low power radio-frequency devices shall not influence aircraft security and interfere legal communications; If found, the user shall cease operating immediately until no interference is achieved.

The said legal communications means radio communications is operated in compliance with the Telecommunications Act.

The low power radio-frequency devices must be susceptible with the interference from legal communications or ISM radio wave radiated devices.

● Europe

■ Wireless LAN

**Restrictions for Use of 2.4GHz Frequencies in European Community Countries**

België/ Belgique:	For private usage outside buildings across public grounds over less than 300m no special registration with IBPT/BIPT is required. Registration to IBPT/BIPT is required for private usage outside buildings across public grounds over more than 300m. For registration and license please contact IBPT/BIPT.  Voor privé-gebruik buiten gebouw over publieke grond over afstand kleiner dan 300m geen registratie bij BIPT/IBPT nodig; voor gebruik over afstand groter dan 300m is wel registratie bij BIPT/IBPT nodig. Voor registratie of licentie kunt u contact opnemen met BIPT.  Dans le cas d'une utilisation privée, à l'extérieur d'un bâtiment, au-dessus d'un espace public, aucun enregistrement n'est nécessaire pour une distance de moins de 300m. Pour une distance supérieure à 300m un enregistrement auprès de l'IBPT est requise. Pour les enregistrements et licences, veuillez contacter l'IBPT.
Deutschland:	License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow.  Anmeldung im Outdoor-Bereich notwendig, aber nicht genehmigungspflichtig. Bitte mit Händler die Vorgehensweise abstimmen.
France:	Restricted frequency band: only channels 1 to 7 (2400 MHz and 2454 MHz respectively) may be used outdoors in France.  Bande de fréquence restreinte : seuls les canaux 1-7 (2400 et 2454 MHz respectivement) doivent être utilisés endroits extérieur en France. Vous pouvez contacter l'Autorité de Régulation des Télécommunications ( <a href="http://www.art-telecom.fr">http://www.art-telecom.fr</a> ) pour la procédure à suivre.
Italia:	License required for indoor use. Use with outdoor installations not allowed.  E'necessaria la concessione ministeriale anche per l'uso interno. Verificare con i rivenditori la procedura da seguire.
Nederland	License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow.  Licentie verplicht voor gebruik met buitenantennes. Neem contact op met verkoper voor juiste procedure.

To remain in conformance with European spectrum usage laws for Wireless LAN operation, the above 2.4GHz channel limitations apply for outdoor usage. The user should use the Wireless LAN utility to check the current channel of operation. If operation is occurring outside of the allowable frequencies for outdoor use, as listed above, the user must contact the applicable national spectrum regulator to request a license for outdoor operation.

# 6

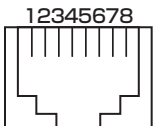
## 各インターフェースの仕様

### 1 LAN インターフェース

#### □ Gigabit Ethernetに対応しているモデル

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	BI_DA+	送受信データA (+)	I/O
2	BI_DA-	送受信データA (-)	I/O
3	BI_DB+	送受信データB (+)	I/O
4	BI_DC+	送受信データC (+)	I/O
5	BI_DC-	送受信データC (-)	I/O
6	BI_DB-	送受信データB (-)	I/O
7	BI_DD+	送受信データD (+)	I/O
8	BI_DD-	送受信データD (-)	I/O

**コネクタ図**



The diagram shows a standard 8-pin connector with pins numbered 1 through 8 from left to right. The connector has a central notch and a small bump on the right side.

信号名 : -がついているのは、負論理値の信号です

信号方向 (I) : パソコン本体への入力

信号方向 (O) : パソコン本体からの出力

□ Gigabit Ethernetに対応していないモデル

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	TX	送信データ (+)	0
2	-TX	送信データ (-)	0
3	RX	受信データ (+)	1
4	Unused	未使用	
5	Unused	未使用	
6	-RX	受信データ (-)	1
7	Unused	未使用	
8	Unused	未使用	

**コネクタ図**

信号名 : -がついているのは、負論理値の信号です  
 信号方向 (1) : パソコン本体への入力  
 信号方向 (0) : パソコン本体からの出力

## 2 RGBインターフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	CRV	赤色ビデオ信号	0
2	CGV	緑色ビデオ信号	0
3	CBV	青色ビデオ信号	0
4	Reserved	予約	
5	GND	グラウンド	
6	GND	グラウンド	
7	GND	グラウンド	
8	GND	グラウンド	
9	+5V	電源	
10	GND	グラウンド	
11	Reserved	予約	
12	SDA	SDA通信信号	I/O
13	HSYNC	水平同期信号	0
14	VSYNC	垂直同期信号	0
15	SCL	SCL データクロック信号	0

**コネクタ図**



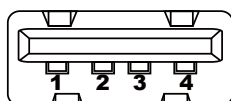
高密度D-SUB 3列15ピンメス

信号方向 (I) : パソコン本体への入力  
 信号方向 (O) : パソコン本体からの出力

## 3 USB2.0 インターフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	VBUS	+5V	
2	D-	マイナスデータ	I/O
3	D+	プラスデータ	I/O
4	GND	グラウンド	

## コネクタ図



信号名 : -がついているのは、負論理値の信号です

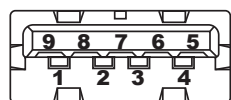
信号方向 (I) : パソコン本体への入力

信号方向 (O) : パソコン本体からの出力

## 4 USB3.0 インターフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	VBUS	+5V	
2	D-	USB2.0 マイナスデータ	I/O
3	D+	USB2.0 プラスデータ	I/O
4	GND	グラウンド	
5	StdA_SSRX-	USB3.0 受信マイナスデータ	I
6	StdA_SSRX+	USB3.0 受信プラスデータ	I
7	GND_DRAIN	グラウンド	
8	StdA_SSTX-	USB3.0 送信マイナスデータ	O
9	StdA_SSTX+	USB3.0 送信プラスデータ	O

## コネクタ図



信号名 : -がついているのは、負論理値の信号です

信号方向 (I) : パソコン本体への入力

信号方向 (O) : パソコン本体からの出力

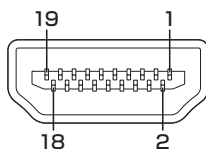


## 5 HDMI 出力端子

\* HDMI 出力端子搭載モデルのみ

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	TMDS Data2+	TMDSデータ (2+)	0
2	TMDS Data2 Shield	TMDSデータ (2) シールド	
3	TMDS Data2-	TMDSデータ (2-)	0
4	TMDS Data1+	TMDSデータ (1+)	0
5	TMDS Data1 Shield	TMDSデータ (1) シールド	
6	TMDS Data1-	TMDSデータ (1-)	0
7	TMDS Data0+	TMDSデータ (0+)	0
8	TMDS Data0 Shield	TMDSデータ (0) シールド	
9	TMDS Data0-	TMDSデータ (0-)	0
10	TMDS Clock+	TMDSクロック (+)	0
11	TMDS Clock Shield	TMDSクロックシールド	
12	TMDS Clock-	TMDSクロック (-)	0
13	Reserved	予約	
14	Reserved	予約	
15	SCL	SCLデータクロック信号	0
16	SDA	SDA通信信号	I/O
17	DDC/CEC Ground	DDC/CEC信号グランド	
18	+5V Power	電源	
19	Hot Plug Detect	ホットプラグディテクト	I

コネクタ図



信号名 : -がついているのは、負論理値の信号です  
 信号方向 (I) : パソコン本体への入力  
 信号方向 (O) : パソコン本体からの出力